

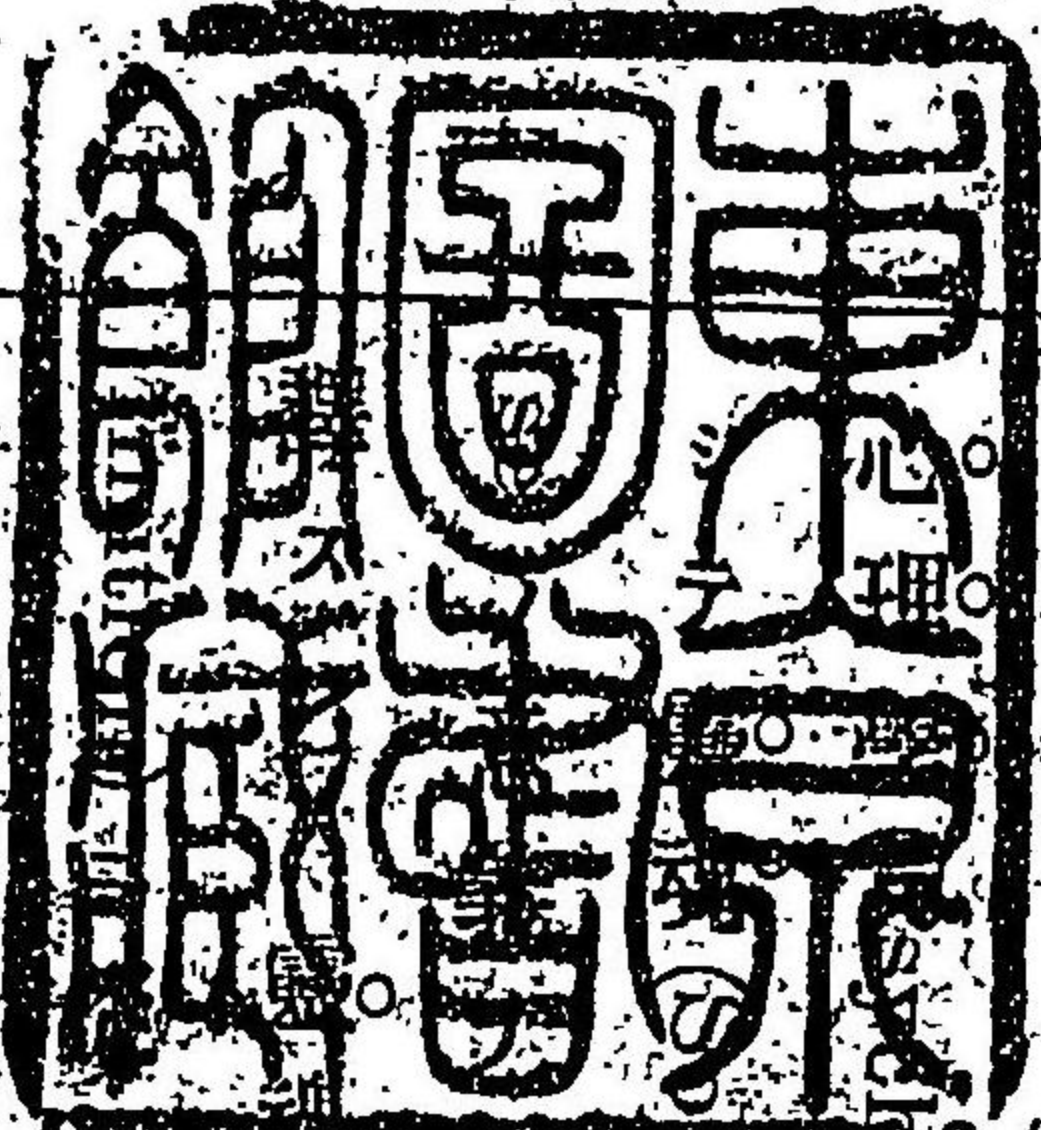
心理學

(一) 總論

(1) 心理學ノ定義



和久正辰 講述



心理學 (Psychology) トハ元ト二個ノ希臘語ヨリ成ルモノニ  
 シテ一ノ意義チ有スルモトトシテ (Psyche) ト辯證 (Discour-  
 se) 有スルコトヲ (Soul) トノ聯成名辭ナリ故ニ直  
 學 (Science of soul) ノ謂ニシテ本來ノ定義 (Do-  
 唯是レ靈魂ノ性狀ヲ推論スル一學科タル  
 二過キ然ルニ近世ニ至リテハ諸學科ノ進歩ト共ニ其定  
 義モ亦々夫ニ其跡面ヲ改メ專ラ進化ト生理トノ原則ニ基

テ心意ノ啓發現象及ヒ其作用ノ關係ヲ論スル一科ノ哲學  
ナリト解釋スルニ至レリ夫レ心意ノ啓發 (Development of  
Mind) トハ心カハ進步スルニ從ヒ漸ク其緻密精微ヲ加フル  
ノ謂ニシテ心意ノ現象 (Mental Phenomena) トハ喜怒哀樂記憶  
想像等ノ如ク心裏ノ無形界ニ發現シ來ル所ノ作用ナリ而  
シテ其作用ノ關係 (Relations of Mental Operation) トハ想像力  
ハ知覺力記憶力等ニ於ケル推理力ハ概念力辨決力等ニ於  
ケルガ如ク彼此相離ル可カラサル互靠ノ聯結ナリ即チ別  
辭以テ之ヲ翻說スレハ方今ノ心理學ナルモノハ空想ヲ以  
テ立證ノ及フ可カラサル範圍ニ論及シテ其實躰ノ存滅等  
ヲ究ムルガ如キ愚拙ヲ學ブモノニアラス專ラ有形上精確

ナル證左ニ基キ人智ノ及フヘキ限界内ニ於テ前述ノ三要  
點ニ着目シ以テ其妙理ヲ明ニスル一學科ナリ或ハ心理學  
ヲ以テ心意ノ實體及ヒ其存滅ノ理ヲ論スル學科ナリト推  
考スル者ナキニアラスト雖モ斯クノ如キ形以上ノ論究ハ  
實體學 (Ontology) ニ屬スルモノト知ル可シ往時心理學ヲ以  
テ致知學 (Epistemology) ト同一視シ甚シキハ之ヲ以テ形以  
上哲學 (Metaphysics) ト混同シタルガ如キハ謬妄ノ著大ナル  
モノナリ

サテ心理學ノ定義ハ大畧斯クノ如クナレモ諸家ノ所見ヲ  
列叙スレハ (イ) ハミルトンハ心意ノ現象 (Phenomena) ト變  
化 (Change) トヲ論スル學科ナリト曰ヒ (ロ) レウエスハ觀

四  
察ト歸納トニ基テ感能(Sentient Function)ト心力(Faculty)トヲ  
分解彙類スル學科ニシテ生物學及ヒ社會學ノ原理ニ從テ  
其存在ノ諸狀ヲ詳ニスルモノ「ナリト曰ヒ——(ハ)「ポーター」ハ  
「人魂ノ理ヲ窮ムル學科」ナリト曰ヒ——(ニ)「マツコシユハ」人心  
ノ作用ヲ究査シ其定則(Laws)ト心力(Faculty)トヲ發見スル  
學科」ナリト曰ヒ——(ホ)「フレミング」ハ心象(Mental phenomena)  
心力(Mental Faculty)及ヒ「自口」(Ego)ノ三者ヲ考究スル學  
科」ナリト曰ヒ——(ヘ)「サレー」ハ心意ノ諸狀即チ其各種ノ作用  
ヲ攻窮スルニ止マル學科ニシテ特ニ之ヲ一個体ト見做シ  
テ其本性ヲ窮察スル者ニアラサルナリ」ト曰ヘリ  
方今用ユル所ノ心理學ナル原語ハ英語ニテさめころち

(Psychology)ト曰フ歐洲ノ大陸諸國殊ニ獨逸ニ於テハ今チ  
距ル已ニ二百余年前ヨリ之ヲ慣用シ來レリ但々之ヲ「プシ  
コロギ」(Psychologie)ト曰フ即チ發音ト綴字トノ上ニ於テ少  
差アルノミ然ルニ英國ニ於テハ之ヲ用フル「メンタル  
フィロソフィ」(Mental Philosophy)等ノ各辭ヲ用ヒ隨テ其論スル所ノ範圍ノ如キモ僅ニ  
智力(Intellect)ノ小區域ニ止マリテ未ダ感情(Feeling)及ヒ意  
志(Will)ニ論及スルノ程度ニ達セサリシナリ  
斯クノ如ク「プシコロギ」(Psychology)ノ各辭ヲ用ユルハ誠  
ニ近新ノ「ナレ」此學ノ起原ハ遠ク古代ノ希臘ニ在リ降

テアーノルドライブニーズロツクパーゲリーヒウムカシ  
トレイド等前後輩出シテ大ニ此學ノ中興ニ與力セリ

(2) 心理學ノ區分

(甲) 學派ニ關スル區分

心理學 (Psychology) ハ之ヲ分テ經驗的心理學 (Empirical Psychology) 及ヒ靈智的心理學 (Rational Psychology) ノ二種トス  
(一) 經驗的心理學ハ一ニ具象的心理學 (Concrete Psychology) ト  
曰フ即チ外物ノ知識ハ感官ノ實驗ヨリ生スルノ説ニ基テ  
心意ノ現象ト諸力トヲ論究スルヲ以テ目的ト爲スモノナ  
リ此種ノ論派ヲ名ケテ感覺論派 (Sensualists) ト曰フミルベ  
インスペンサーサレーリンドキル等ノ如キ方今有力ナル

哲學者ノ唱道スル所ナリ (二) 靈智的心理學ハ一ニ虛象的  
心理學 (Abstract Psychology) 若クハ生知的心理學 (Intuitive  
Psychology) 若クハ推想的心理學 (Speculative Psychology) ト曰  
フ其目的トスル所心意ノ實躰ト本性トヲ論究スルニ在リ  
テ外物ノ知識ハ感官ノ媒介ニ由ルイナク單ニ靈智 (Reason)  
ノ作用ニ出ルモノト爲ス即チ實體學 (Ontology) ト其性質ヲ  
同フスルモノニシテ所謂ル靈智論派 (Rationalists) ノ主張ス  
ル所ナリ此論派ハ夫ノ感覺論派ノ正反對ニ立ツ者ニシテ  
眞理物性ヲ知ルノ本源ヲ靈智ノ力ニ歸スルモノナリ之ヲ  
換言スレハ人類ニハ一種天賦ノ靈智アルヲ以テ外物ヲ知  
得スルニハ未タ必スシモ感官ノ媒介ヲ籍ルヲ要セスト爲

スノ説ヲ確守スル論派ナリ然レモカントノ出ツルニ及テ  
其勢力俄然地ニ墜チ已ニ今日ニ至リテハ苟モ具眼ノ士ニ  
シテ復々此論派ヲ維持セント欲スル者ナシ或ハ宗教家ノ  
中ニ於テハ内心ニ其非ヲ悟ルモ猶ホ表面上ニ於テ強テ此  
説ヲ主張スル者ナキニアラス畢竟スルニ斯クノ如キハ布  
教ノ方便上已ムヲ得ザルノ窮策ニ出テタルノミ決シテ眞  
面目ノ舉動ニアラズ若シ之ヲ眞面目ニ主張スル者アラハ  
是レ冥頑下愚ノ徒ナリ固ヨリ論スルニ足ラサルナリ

(乙) 研究法ニ關スル區分

バルドウィン (Baldwin) ハ心意ノ現象ヲ研究スルノ方法ニ關  
シテ心理學ヲ三類ニ區別セリ

(1) 主觀的心理學

主觀的心理學 (Subjective Psychology) トハ身體及ヒ外物ノ關係  
ヲ離レ專ラ内界ノ現象ヲ究査スルモノニシテ二種ノ要項  
ヲ有ス即チ

(イ) 心意的活動ノ查察

(ロ) 心意的活動ノ彙類

是レナリ心意的活動 (Mental Activity) トハ心意ノ作用ニシ  
テ智情意ニ屬スル各種ノ現象即チ恐怖、忿恚、記憶、想像、推理、  
決定、撰擇、等ノ類ナリ而シテ其查察 (Examination) トハ是等ノ  
諸狀ニ就テ注意細檢スルハ行爲ナリ

(2) 客觀的心理學

客觀的心理学 (Objective Psychology) トハ自己以外ニ在ル人類  
及ヒ下等動物ノ心意ニ就テ其現象ヲ研究スルモノニシテ  
其目的トスル所ハ左記ノ三項ニ在リ即チ

(イ) 記録ニヨリテ他人ノ主觀的活動ヲ詳悉スル

(ロ) 姿勢行爲等ニヨリテ下等動物ノ主觀的活動  
ヲ觀察スル

是レナリ他人ノ主觀的活動 (Subjective Activity) トハ其心意  
ハ内界ニ生シタル現象ナルヲ以テ單ニ外部ノ表徵ノミニ  
依頼シテ之ヲ詳悉ス可カラズ笑フ者未タ必スシモ喜フ者  
ニアラサルナリ泣ク者未タ必スシモ悲シム者ニアラサル

心象ノ現象ハ外部  
ノ表徵ヲ以テ無二ハ確証ト爲  
ス可カラズ是レ記録 (Record) ナ以テ第一ハ証據ト爲シ外徵  
(External Symptom) ナ以テ第二ハ証據ト爲サ、ル可カラサ  
ル所以ナリ

(3) 生理的心理学 (Physiological Psychology) トハ自他及ヒ下等動  
物ノ心狀若クハ他人ノ外徵記録等ニ據ルナク專ラ肉體  
ノ構造官機ノ作用等ニ基キテ心身相關ノ原理ヲ明ニスル  
モノナリ故ニ其主眼トスル所ハ左記ノ數項ニ在リ

(イ) 諸動物ノ神經組織ヲ周査スル  
(ロ) 諸動物ノ神經機能ヲ周査スル

- (a) 病病ノ餘徵ニ由ル
- (b) 藥劑ノ效驗ニ由ル
- (c) 各種ノ實驗ニ由ル

斯クノ如ク廣ク諸動物ノ神經組織 (Structure of Nerves) チ查察スルノ必要ナルハ人獸魚虫ノ心意ミナ其高等中樞タル腦髓 (Brain) ニ在ルヲ證明セサル可カラサルニ由ル而シテ神經機能 (Nervous Function) ニハ受動作作用ト發動作作用トノ二種アリ受動作作用トハ外物ノ性狀ヲ心裏ニ傳達シ發動作作用トハ心意ノ現象ヲ外界ニ表出スルモノナリ是レ病徵藥驗等ノ觀察及ヒ各種ノ實驗ニ由リテ恰ク諸動物ノ神經機能ヲ查察セサル可カラサル所以ナリ

(丙) 論資ニ關スル區分

論資 (Subject Matter) 即チ立論ノ資料ニ就テ心理學ヲ類別スルキハ之ヲ分テ人類的心理學 (Human Psychology) 及ヒ比較的生理學 (Comparative Psychology) ノ二種トス恰モ生理學ニ人類的生理學ト比較的心理學トノ二種アルガ如シ而シテ人類的心理學トハ他種ノ動物ニ比較スルコトナク特ニ人類ノ心意ノミヲ研究スルモノニシテ單ニ心理學ト唱フルルハ概テ此種類ニ屬ス比較的心理學トハ專ラ下等動物ノ心意ヲ查察シテ其狀態ヲ人類ノ心意ニ比較スルモノナリ  
 | マンスノ動物智能論 (Animal Intelligence) ノ如キ是レナリ  
 | バルドウィンノ心理書中ニハ每篇必ス比較的心理學ノ一斑

ヲ添載ス

(丁) 範圍ニ關スル區分

範圍 (Extent) 即チ研究ノ區域ニ就テハ心理學ヲ分テ純正心理學 (Pure Psychology) ト應用心理學 (Applied Psychology) トノ二種トス純正心理學トハ專ラ心意ノ現象及ヒ其定則等ヲ論究シテ其學理ノ根底ヲ鞏固ナラシムルヲ目的ト爲スモノナリ故ニ其學派ノ經驗論派ナルト靈智論派ナルトニ論ナク學理上ノ攻究ニ止マリテ實地ニ應用セサル限リハ總テ此種類ニ屬スベインポーターマンセル等ノ心理書ノ如キ是レナリ應用心理學トハ單ニ學理上ノ研究ニ止マラズ廣ク此學ノ原理ヲ實地ニ應用スルモノニシテ殊ニ教育上

ニ關スル丁多シ夫ノ最近ノ起源ニ係ル教育學 (Pedagogy) ノ如キハ心理學ノ應用上ヨリ進化シ來リタル者ナリサレバリンド子ルリポットバルドウイン等ノ心理書ノ如キ皆ナ此種類ニ屬ス

(3) 心意ノ定義

心意ハ原語ニテまゐんど (Mind) ト曰フ又々單ニ心ト譯スル丁アリ而シテ其特性トモ認ムヘキモノハ占有性 (Extension) 即チ空間ヲ占有スヘキ定量自動性 (Self-Activity) 即チ物質ヲ離レテ單動スヘキ機能及ヒ不滅性 (Immortality) 即チ肉體已ニ死シテ猶ホ活動自覺スヘキ性質ヲ具有セサル丁是レナリ而シテ其現象ヲ大別スレハ智情意ノ三態ヨリ成ル故ニ



之ヲ約言スレハ心意(Mind)トハ占有、自動、及ヒ、不滅ハ三性ヲ具ヘスシテ、智情意ハ三態ヲ呈スル靈妙ハ作用ナリト曰フモ可ナリ固ヨリ形體ノ以テ證スヘキ者ナシ(イ)凡ソ物體アレハ必ス其占有スル所ノ空間アリ二物同時ニ同處ヲ占ムル能ハス下ハ物理上ノ大法ニシテ千古動カス可カラサルモノナリ空氣ノ見ル可カラサル光線ノ拿ル可カラサルモ他物ト同時ニ一處ニ共存シタルアルヲ聞カス然レモ心意ノ體中ニ存在スルヤ別ニ一處ヲ特占スルニアラス神經中樞(Nervous Centre)ト共在シテ其隻影ヲ留メサルナリ是レ其占有性ナキ所以ナリ(ロ)或ハ説ヲ作ス者アリ心意ニハ自動ノ性アリト所謂ル自由意志(Free-Will)ノ論派ヲ生シ

タルモ蓋シ之ニ因由ス落葉ノ片々タルハ風力ノ然ラシムル所ニシテ流水ノ混々タルハ引力ノ致ス所ナリ其外形ハ自ラ發動スルガ如クナレモ必スヤ他物ノ勢力ヲ待テ始メテ茲ニ至ルモノナリ其他瀛車ノ自轉時計ノ自鳴等ミナ然ラサルハ莫シ然ルニ心意ノ作用ニ至テハ往々自動ノ現象ニ類スル者アリ即チ自動性アルヲ信スル者アルニ至ル所以ナリ然レモ審ニ其因ル所ヲ究ムレハ心意ハ決シテ自ラ活動スルモノニアラス肉體ハ強迫ニヨリテ苦痛ヲ避ケテ快樂ニ就カント欲スルニ至ルノミ夫レ苦ヲ厭ヒ樂ヲ欲スルハ動物固有ノ天性ニシテ聖賢明哲ト雖モ能ク此範圍ノ外ニ運動スルヲ得ス喜怒哀樂忌避願望等ノ諸象一トシテ

外物ノ刺激ニ出テサルナシ間、單々立自動スルガ如キ状態  
ヲ呈スルモノアルハ、外界ノ感勢ヲ間接ニ受ケルヲ以テ、緻  
密ノ考察ニ乏シキ凡眼ニハ之ヲ誤認シテ自動ノ性アリト  
爲スノミ、(ハ)豹ハ死シテ皮ヲ留メ、士ハ死シテ名ヲ留ムル  
モ未タ動物ノ身死シテ猶ホ其心意ヲ遺留シタル確証ヲ認  
メタル者アルヲ聞カス唯、宗教家ノ靈魂不死ヲ説キ婦女子  
ノ冥鬼現存ヲ信スルアルノミ固ヨリ無稽ノ妄談ニシテ其  
正確ヲ証スヘキモノナシ夫レ靈魂ノ存滅ハ哲學上ノ一大  
問題ニシテ存スルト曰フモ滅スルト曰フモ共ニ之ガ確証  
ヲ得ルヲ難シト雖、田絶滅ノ証多クシテ永存ノ証ニ乏シキ  
以上ハ姑ラク之ヲ以テ不滅性ナキモノト斷言セサルヲ得

ス。心意ノ肉體ニ於ケル回轉ノ車輪ニ於ケル其關係恰モ同  
一ニシテ、毫モ相異ナル所ナシ回轉ハ車輪ノ成ルト共ニ生  
シ其壞ル、ト共ニ消滅スルモノニシテ、車輪以前ニ回轉ナ  
ク車輪以後ニ回轉ナシ心意ニ就テ論スルモ亦々然リ肉體  
ノ前後即チ過去未來ニ心意ノ單存スルガ如キハ之ヲ妄譚  
小説ノ類ニ見ルノミ未タ之ガ實証ヲ明示シタル者アラサ  
ルナリ、車輪已ニ破レテ復タ回轉ナシ何ソ肉體ノ已ニ死シ  
テ心意ノ猶ホ存スルヲ思フ可ケンヤ而シテ車輪已ニ壞敗  
シ肉體已ニ腐爛スルモ不滅ノ元素ハ轉展シテ更ニ新物体  
ヲ構成スルコト循環窮リナシ茲ニ至リテ各其物体ニ屬ス  
ル固有ノ新作用ヲ生スヘシ人或ハ云ハン元素已ニ無究不

二十  
滅ナリ然ラハ元素ノ結合ヨリ生スル物体ノ作用モ亦々無窮不滅ナラサルヲ得ンヤト然レモ元素ハ轉展已マス新物体ヲ構成シテ永ク尽滅スルヲナキモ其結合ニ至テハ常ニ新陳代謝シテ決シテ一結合ノ永存スルヲナシ故ニ一物体一作用ハ時アリテ必ス絶滅ヲ免レサルナリ即チ甲人已ニ死シテ其骨肉ヲ構成セル元素ハ更ニ動植物ニ化シ終ニ食物ト爲リテ乙人丙人ノ体系ヲ組織スルニ至ルモ前者ト同一ノ体格心性ヲ造出スルヲナキヲ見テ其然ルヲ証スヘキノミ  
以上逐叙スル所ハ稍心意ノ實體本性ニ論及シテ心理學ノ範圍外ニ出ツルノ嫌ナキニアラスト雖モ其定義(Definition)

ヲ確立明示スルニハ勢ヒ茲ニ至ラサルヲ得ス是レ固ヨリ講者ノ本意ニアラスト雖モ明確ト精細トヲ欲スルノ點ニ於テ誠ニ已ムヲ得サレハナリ  
サテ心意(Mind)ノ定義ハ大略前述ノ如クナレモ此語ニハ數種ノ異名アルヲ以テ往々初學者ノ惑ヲ生スルヲナシトセズ因テ左ニ其異同梗概ヲ釋示スヘシ即チ其異名ハ

心意(Mind)

靈魂(Soul)

精神(Spirit)

我躬(Ego)

自己(Self)

ノ五種ナリ——(イ)心意(Mind)ナル名辞ハ廣ク物質(Matter)ニ對シテ用アルヲ常トス故ニ恰ク無形ノ作用ヲ包括ス然レモ猶ホ其狹隘ノ意義ニ從ヒ智力(Intellect)ト同義ニ用フル者アリ間亦々生活(Life)ト同一ノ意義ニ解スル者アレモ心意ハ之ヲ生活ニ比スレハ其範圍最モ狹隘ナリ草木ハ能ク生活ヲ有スレモ心意ヲ具ヘス以テ其廣狹一ナラサルヲ知ル可キナリ——(ロ)靈魂(Soul)ナル學語ハ單ニ肉體ニ對シテ用ユルモノナルヲ以テ其意義至テ狹ク多ク靈智論派(Liberalist)ノ用ユル所ナリ往時ハ之ヲ生活(Life)ト同義ニ用ヒタルヲアリポーターノ說ニ從ヘハ靈魂トハ生原(Life-Principle)ノ謂ニシテ有形的機体中ニ存スル一種ノ運動ナリ——(ハ)精

神(Spirit)トハ「肉體ニ關セスシテ單存スル一種ノ虚靈」ノ意義ヲ有シテ自ラ心意ト異ナル所アルガ如クナレモ今日文學上及ヒ哲學上ニ於テハ以上ノ三語ヲ混用シテ幾ント同一義ト爲スニ至レリ而シテ——(ニ)我躬(Ego)——自己(Self)ノ二辞ハ共ニ他人外物ニ對シテ用ユルモノニシテ苦樂ノ中心發意ノ本源ト爲ス所ナリ而シテ此五種ノ名辞ハ方今ノ慣用ニテハ其意義大同小異ナレモ初學者ノ誤解ヲ避クルガ爲メ姑ク茲ニ之ヲ略叙シタルノミ

心意ノ定義ニ就テハ諸家ノ見ル所固ヨリ一ツナラス其精確明晰ナル下形体ヲ以テ證スルガ如キ者アラスト雖モ左ニ之ヲ列記シテ讀者參考ノ一助ト爲スモ決シテ無益ノ舉

ニアラザルヲ信ス

(イ) ウォンド (Wundt) 曰ク心意トハ推理ノ作用ヲ有スル一種ノ實在物ナリ

(ロ) バルドウィン (Baldwin) 曰ク心意トハ無形ノ現象ヲ呈

スル自己ニシテ知得受感及ヒ發意ノ三能ヲ有スル一種ノ

精神的實在物 (Spiritual Entity) ナリ故ニ之ヲ名ケテ精神 (Spir-

it) ト云ヒ又々時トシテハ精神的有機體 (Spiritual Organism)

ト曰フ

(ハ) ウェルク (Welch) 曰ク心意トハ一種分釋ス可カラサ

ル精神的勢力 (Spiritual Force) ニシテ思考受感及ヒ發意ノ間

ニ於テ自ラ其本性ヲ顯出スルモノナリ

(ニ) レイド (Rioid) 曰ク人類ノ心意トハ思考記憶推理及ヒ發意ノ總稱ナリ

(ホ) リンド子ル (Lindner) 曰ク靈魂トハ (1) 去來常ナキ

無數ノ觀念 (2) 意識ノ状態ヲ有スル同一元位ノ常變 (3)

單一不變ナル我躬ノ状態ヲ以テ自識ニ合一スル意識ノ諸

狀ノ三元ニ還歸セシムルヲ得ヘキ精氣 (Essence) ナリ故ニ

觀念ハ靈魂ノ諸狀ニシテ靈魂ハ之ガ擔擡者ナリ

(ヘ) サレー (Sully) 曰ク一元位タル心意 (Mind) ト之ヨリ生

スル數種ノ現象 (Phenomena) トハ吾人ノ常ニ能ク判別スル

所ナリ故ニ自己及ヒ他人ノ心意ヲ評說スル毎ニ必ス各種

ノ感情觀念等ヲ有スルモノト爲スニアラサヤ世人或ハ曰

フ「喜怒哀思念等」ノ如キハ唯是レ心意上ノ状態ニシテ毫モ他物ト通有スルノ性質ヲ具ヘサルナリト又々曰ク「心意トハ知識ノ歷程苦樂ノ感覺及ヒ有爲ノ所爲ヲ總計シタル結果ナリ」ト甚シキハ心意ヲ以テ知識若クハ智カト同一視スル者アリ即チ「心意アル人」ト曰ヘハ「智アル人」ノ義ト爲ルヲナキニアラス「智カハ固ヨリ心意中ノ樞要ナル部分ヲ占ムルモノナレバ其全部ヲ構成スル者ニアラス」心理學上ニ於テハ打傷ヨリ生スル苦痛ノ感覺ノ如キモ亦々心意上ノ一事實ト爲サル可カラヌ又々心意ハ心意ニアラサル者ト相聯對スルキハ形体ハ見ルヘキ者ナクシテ「物体ハ如ク空間ヲ占有シテ存在スルモノニアラス」思想若クハ感情ノ如キ手

以テ觸レ目以テ視ル可カラヌ甲情モシ此處ニ在レハ乙情ハ其外ニ在ルモノニアラサルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ心意ハ内部ノ小界 (Inner Mikrokosm) ニ屬スルモノニシテ所謂外部ノ大界 (Outer Makrokosm) ト全ク其趣ヲ異ニスルヲ知ルベシ

(ト) フレームリング (Framing) 曰ク「心意ノ定義ニ就テハ諸家ノ說概テ一ツナラス或ハ之ヲ以テ自決ハカチ有スル一種ハ自識的靈能ト爲シ或ハ之ヲ以テ感官ハ媒介ヲ經テ外物ノ性狀ヲ神經ハ高等中樞ニ傳達スルカト爲スモ其實体ト本性トニ至テハ固ヨリ此學ノ關知スル所ニアラス唯吾輩ハ心意ト靈魂トノ區別ヲ明ニスルヲ務ムヘキノミ

心。意。(Mind)トハ總名ニシテ廣ク物質。(Matter)ニ對シ靈魂。(Soul)ハ部名ニシテ單ニ肉體。(Body)ニ對スル名辭ナリ古ノ賢哲日ヘルコアリ地球上人類ヨリモ偉大ナルモノナク人體中マタ心意ヨリ偉大ナルモノナシトチロン曾テソクラテスニ向テ問テ日ク萬物中最上位ヲ占ムルモノハ何ソトソクラテス之ニ對ヘテ日ク汝須ク自ラ知ルヘシト蓋シ其意タル能ク自己ノ何物タルヲ知ラハ萬物中最上最貴ナルモノハ何物ナルヤヲ悟了スルニ至ルヘシトノ伏旨ナリ往時己ニ心意ノ研究上ニ注意ノ厚カリシヲ知ル可キナリ

(4) 心。意。ノ。局。部。

古來心意ノ局部。(Position of Mind)ニ就テハ諸說紛々タルモ

之ヲ要スルニ左ノ二三說ニ過キス或ハ日ク心意ハ胸字ニ在リ或ハ日ク心意ハ全身ニ充滿ス或ハ日ク心意ハ体中ニ浮浪シテ定處ナシ或ハ日ク心意ハ腦髓ニ在リト已ニ講明セル如ク心意ハ元ト無形ノ作用ナレハ視聽ヲ以テ其所在ヲ証明ス可カラス故ニ姑ク其立證ノ最モ精確ニシテ最モ饒多ナルモノニ從ハサル可カラス而シテ其第一說即チ在胸說ノ如キハ古來最モ普通ナルモノニシテ十九世紀ノ今日ニ至リテハ誰一人モ之ヲ信スル者ナシト雖モ未タ全ク之ヲ以テ架空ノ臆想ナリト爲スヘキモノニアラス唯一二ノ薄弱ナル證據ニ由リテ此說ヲ生スルニ至リタルノミ驚喜悲憤等ノ如キ心意ノ激變ヲ生スル片ハ胸中ノ心臟必ス

鼓動スルノミナラス沈思熟考等ノ如キ精微ノ作用ヲ要ス  
 ルハ人必ス其手ヲ胸上ニ置クノ常習アリ是レ心意ノ局  
 部ヲ以テ胸中ニ歸シタル所以ナリ其第二説及ヒ第三説ノ  
 如キモ一二ノ弱證ナキアラサルベシト雖モ到底一種ノ妄  
 測タルヲ免レサルナリ故ニ敢テ茲ニ細説スルノ價值ナキ  
 モノナリ然ルニ其第三説即チ在腦説ニ至テハ舉證確實ニ  
 シテ其數最モ多ク方今心理學者ノ深ク信ヲ置ク所ナリ今  
 ソノ證據ヲ列記スレハ

(イ) 腦量ノ大小。心力強健ニシテ才智明敏ナル者ハ其  
 腦量必ス大ナリ凡ソ何者ニテモ機關大ナレハ其作用ノ隨  
 テ大ナルハ自然ノ通則ナリ腦髓ハ實ニ心意所在ノ機關ニ

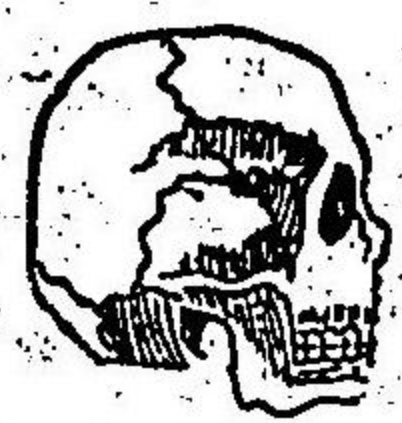
シテ其量ノ大小ハ恰モ其作用タル心意ノ敏鈍ニ關ス若シ  
 心意ヲシテ腦髓以外ニ在ルモノナラシメハ其量ノ大小ハ  
 毫モ心意ノ強弱暗明ニ關スルヲナカルベシ乃チ腦髓ハ心  
 意ノ存スル局部ナルト此一証ヲ以テ己ニ其確實ナルヲ知  
 ル可シ人類ノ平均腦量ハ四十八オンス一オンスハ七々二分余ニシテ即  
 チ智愚ノ岐ル、境界線ナリ第一世ナボレオンノ片擧ケラ  
 レテ佛國ノ文部大臣タリシ彼ノ有名ナル博物學士キユヴ  
 ー (Cuvier) 氏ノ腦量ハ六十四オンスアリタリト云フ即チ凡  
 人ニ優ルヲ十六オンスナリ文明國人ト野蠻人種トヲ比較  
 シ人類ト禽獸トヲ比較シ及ヒ高等動物ト下等動物トヲ比  
 較スレハ後者ノ腦量ハ必ス前者ニ及ハサルト已ニ明ナリ



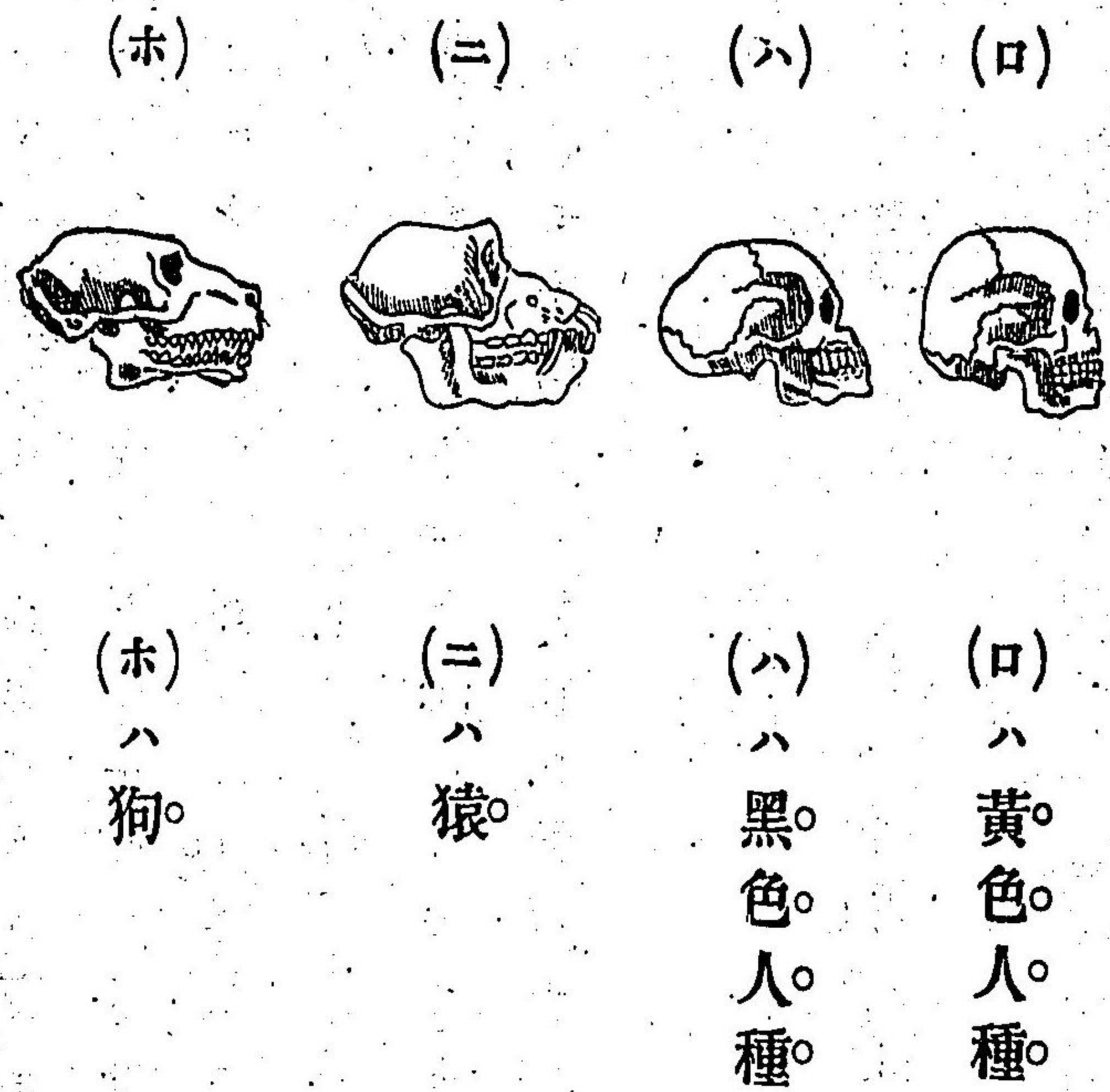
但シ茲ニ所謂ル腦量トハ其體量ニ比準シタル分量ニシテ  
決シテ單純絶對ノ量度ヲ云フニアラス故ニ象、鯨等ノ如キ  
ハ其絶對ノ腦量ハ動物中ノ第一位ヲ占ムヘシト雖モ其全  
身ノ量度ニ比準スルルハ人腦ノ量度ニ及ハサルヲ遠シ其  
他牛ノ鼠ニ於ケル鮎ノ鯨ニ於ケル比々皆ナ然ラサルハ莫  
シ

(口)頭骨ノ形狀  
凡ソ動物ノ智愚敏鈍ハ頭骨ノ形狀即  
チ顔面角ノ差異ニ由ルヲ誠ニ明白ナル一事實ナリ蓋シ頭  
骨ハ腦髓ヲ容ルヘキ天然ノ匣函ニシテ其形狀ノ差異ハ即  
チ腦量ノ多少及ヒ其活動ノ完否ヲ生スル所以ナリ是レ心  
意ノ局部ハ腦髓ニ在ルノ一証ナリ若シ之ヲシテ腦中ニ在

ラサラシメハ顔面角ノ差異ニヨリテ腦量及ヒ其活動上ニ  
差異ヲ生スルモ毫モ之ガ爲ニ心意ノ智愚ニ影響ヲ及ホス  
トアル可カラス然ルニ其頭骨ノ形狀ニ由リテ明ニ心意ノ  
健弱ヲ知り得ヘキモノトセハ此一事實ノ如キモ在腦説ノ  
爲ニハ偏強ナル一確証ト認ムヘキナリ左ニ列記セル例証  
ノ如キハ最モ適切ニシテ且ツ確實ナルモノナリ



(イ)ハ白哲人種



以上六種ノ動物ニ就テ横面ヨリ其顔角ヲ測度スルキハ第一ノ白哲人種ハ正角ニシテ第二ノ黄色人種第三ノ黑色人種ニ至リ其角度漸ク低ク第六ノ鼠ニ至レハ最低ノ角度ニ達ス其他各異若クハ同種ノ動物ニ就テ其顔角ヲ比較スルキハ其心意ノ智愚ハ其角度ノ高低ニ準スルヲ知ルベシ

(ハ) 頭部ノ傾垂

二頭ヲ舉ケテ山月ヲ望ミ頭ヲ垂レテ故郷ヲ思フトハ幼時吾輩ノ唐詩選中ニ瞥見シタル五絶ナリ人苟モ思フ所アレハ

必ス先ツ其頭ヲ垂ル此一詩亦タ以テ心意ノ腦中ニ在リテ其表徵ノ古今一轍ナルヲ証スルニ足ル可シ人モシ難問ヲ受クルヲアレハ必ス先ツ其頭位ヲ變ス左傾右斜前垂後屈其性習ニヨリ各人一ナラスト雖問旨愈難ケレハ閉目無言之ヲ變スルヲ愈長シ古ヨリ人ノ難問ヲ受ケテ即答ニ苦ミタル片ノ實況ヲ想寫スルニ沈吟良久フシテ曰クノ常文句ヲ以テスルガ如キモ亦タ以テ思念ノ浮フ片頭位ノ必ス變スルヲアルヲ証明ス可キ一事實ナリ

斯クノ如ク苟モ思考ヲ要スルヲアル片頭位ニ變動ヲ生スル所以ノモノハ腦髓ノ活動スル片必ス血液ノ供給ヲ要スルヲ以テナリ夫レ流體ノ低キニ就クハ物理上ノ通則ニシ

テ重力ノ作用之ヲシテ然ラシムルナリ而シテ血液モ亦タ一種ノ流體ナリ低キニ就クハ易ク直昇スルハ難シ是レ其物固有ノ本性ニシテ頭位直伸セル片ハ血液必ス直昇セサルヲ得ス其漸ク傾斜ノ度ヲ加フルニ從テ其上昇漸ク容易ナリ猶ホ途ヲ行クニ峻坂ハ斷岸ヨリモ易ク斜坡ハ峻坂ヨリモ易ク平地ハ斜坡ヨリモ易キカ如シ故ニ其極端ヲ論スレハ平臥スル片ハ血液ノ供給最モ自在ナルヲ以テ最モ精微ナル凝思ヲ行フヲ得ヘシ古來有名ナル詩人小説家等ニシテ平臥立意ノ習慣アリシモ蓋シ故ナキニアラサルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ思考ヲ凝ス片血液ノ供給ヲ腦髓ニ要スル爲メ頭位ノ傾斜シ若クハ垂下スルヲ斯クノ如クナ

ルハ即チ心意ノ果シテ腦中ニ局在スル一証ナリ

(二) 感激ノ影響

深く思ヲ凝ラシ痛ク情ヲ激スル等ノ一アルニ際シテハ必ス其影響ヲ腦髓(Brain)ニ及ホシ自ラ不安ノ感覺ヲ生スルノミナラス甚シキハ頭痛眩暈不眠等ノ後徵ヲ呈スルニ至ルヘシ若シ心意ヲシテ腦髓以外ノ部分ニ局在スルモノナラシメハ如何ホド智力ヲ勞シ感情ヲ激スル一アルモ其影響ヲ腦髓ニ及ホスヘキ理由ナキハ火ヲ睹ルヨリモ明白ナル事實ナリ然ルニ苟モ智情意ノ三作用ヲ生スルキハ必ス腦髓中ニ疲勞不安等ヲ覺ヘサル一ナシ況ンヤ非常ノ苦慮懸念驚愕悲哀等ヲ發シタルキニ於テハ腦髓ノ狀況決シテ

平時ノ知クナル能ハサルナリ是レ各人ノ自ラ實驗ニ徴シテ明知スル所ナルヘシ此一事亦タ以テ心意ノ腦髓ニ局在スルヲ証スルニ足ル可キナリ夫ノ體力(Physical Power)ノ如キモ心意ト均シク全ク無形ノ作用ニシテ未タ一人トシテ其實相ヲ目撃シタル者アラス力士ノ一臂能ク千鈞ノ重キヲ揚クルモ其腕力ハ果シテ何クニ在リトスヘキヤ骨中ニ在リトスヘキカ吾未タ之ヲ見ス皮中ニ在リトスヘキカ吾未タ之ヲ見ス神經ニ在リトスヘキカ吾未タ之ヲ見ス肉中ニ在リトスヘキカ吾未タ之ヲ見サルナリ然レモ吾人ヲシテ所謂體力ナル者ノ骨皮ト神經ノ三者ニ出テス單ニ筋肉(Muscle)中ニ局在スルヲ信憑セシムル所以ノ者ハ何ソ

ヤ發力後ノ影響是レナリ人モシ體力ヲ出シテ重キヲ揚ケ、  
若クハ遠キニ行クアテハ其隨生スル影響ハ必ス腕脚ノ  
筋肉ニ在リ體力ヲ用ヒタルガ爲メ神經骨皮ニ疲勞ヲ覺ユ  
ルアアルヲ聞カス是レ則チ體力ノ出處ハ筋肉ニ在ルノ明  
証ナリ且ツ骨大ニシテ皮厚ク脂肪多クシテ肥滿スルモ體  
力ノ強大ナラサル者アルハ吾人ノ往々目撃スル所ニシテ  
未タ以テ奇異ト爲スニ足ラス然レモ筋肉ノ硬健ナル者ニ  
シテ體力ニ乏シキガ如キハ吾人ノ未タ見聞セサル所ナリ  
體力ノ筋肉ニ於ケル心意ノ腦髓ニ於ケル其立証ノ關係恰  
モ相似タルモノアリ故ニ茲ニ體力ト筋肉トノ關係ヲ引説  
シテ心意ト腦髓トノ關係ヲ明ニスルト大畧斯クノ如シ

(ホ) 致死ノ迅速

吾人ノ死ヲ致スモノ其原因一ニシテ足ラスト雖モ其最モ  
迅速ニシテ最モ正確ナルモノハ腦髓ノ傷創ナリ手足ヲ折  
リ胸腹ヲ刺スモ死ノ至ル必ス即時ニアラス其狀或ハ即死  
ニ類スルトナキニアラスト雖モ其迅速ナルト固ヨリ腦髓  
ノ傷創ニ及ハサルナリ夫レ意識上ノ生活ト有機上ノ生活  
トヲ併喪スル之ヲ死ト曰フ死ハ即チ心意ヲ亡シタル結  
果ナリ若シ心意ヲシテ腦髓以外ニ散在スルモノナラシメ  
ハ致死ノ最モ迅速ナルモノ何ソ必スシモ腦髓ノ傷創ニ限  
止スルノ理アラザヤ是レ則チ心意ノ局部ハ腦髓ニ在ル一  
證ナリ且ツ健忘發狂等ノ如キ心意上ノ疾病ハ頭部ノ打傷

等ヨリ生スルヲ多シ亦タ以テ在腦説ノ正確ナルヲ證スルニ足ルヘシ

(ハ) 腦髓ノ狀況

腦髓ノ狀況ト心意ノ狀況トハ常ニ必ス相聯串スルモノニシテ腦髓ノ疲勞シタルキ若クハ睡眠ノ不足ナルキ若クハ頭痛甚シキキノ如キハ思考ヲ凝ラシテ其精細ヲ得ルヲ固ヨリ難ク事理ノ最モ踏易キ者ト雖モ容易ニ解ス可カラサルヲアリ然ルニ之ニ反シテ終夜熟睡ノ後チ早起シテ神氣爽快ヲ覺ユルニ方リ少シク思考ヲ勞スルキハ平生最モ困難ヲ感スル原理定則ト雖モ之ヲ曉了スルヲ至テ易シ是レ腦力ノ元精充實シテ最モ敏活ナル作用ヲ有スルヲ以テナ

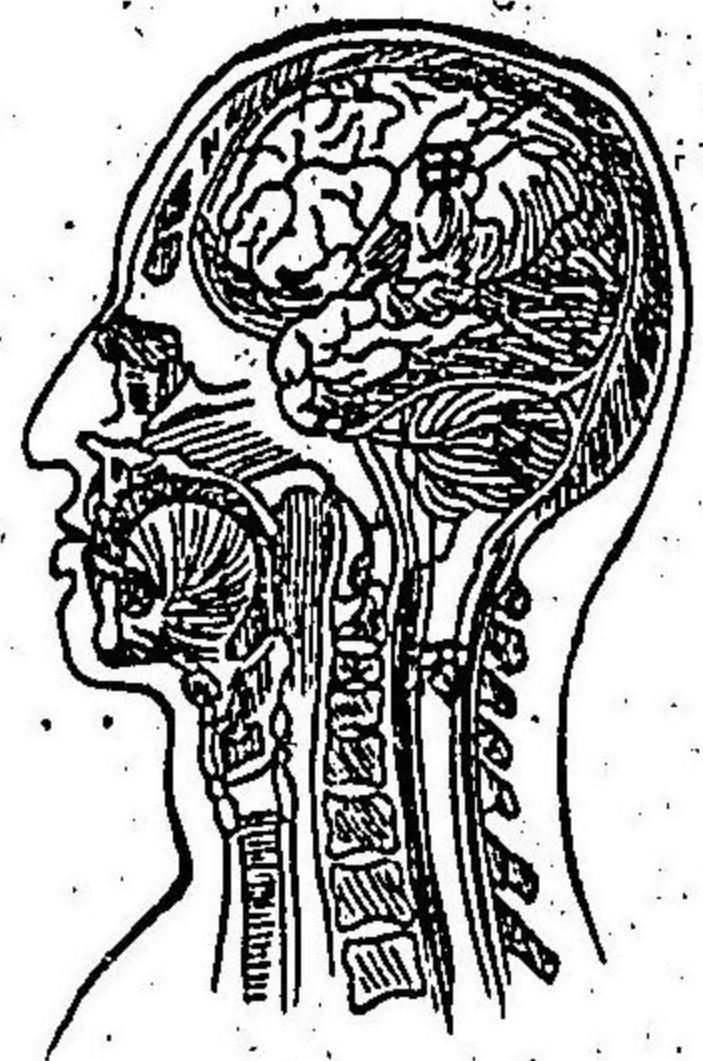
リ即チ腦髓ノ狀況最モ完全ナルキハ隨テ心意ノ活動最モ強盛ナル所以ニシテ恰モ筋肉ニ故障アルキハ體力最モ弱ク筋肉ノ發達最モ完全ナルキハ體力ノ最モ強大ナルト同一一般ナリ若シ心意ヲシテ腦髓ノ作用ニ出ルモノナラサラシメハ時トシテ腦髓ノ狀況ト逆比例スルノ場合ナキヲ保ス可カラスト雖モ其必ス順比例ヲ以テ腦髓ノ狀況ニ伴隨スルモノハ心意ノ局部果シテ腦髓ニ在ルノ確證ニアラスシテ何ソヤ吾輩未タ不眠後若クハ頭痛酷シキニ際シテ却テ思考ノ精細ヲ得タルヲアルヲ聞カサルナリ

(ト) 腦髓ノ褶襞

器械ノ構造粗糙ナルトキハ其作用隨テ精微ナル能ハス其

構造精巧ナル其ハ其作用自ラ精細ナルヲ得ヘシ是レ千古  
 變セサル天然ノ原則ニシテ分秒ノ微モ誤ルナキ精密ナ  
 ル作用ハ時計ノ如キ構造ノ巧緻ナル者ニアラサレハ能ハ  
 サルナリ穀磨ノ如キ粗大ノ器械ハ以テ分秒ノ微ヲ計查ス  
 ルニ足ラス心意ノ活動ニ就テ論スルモ亦タ然リ其作用ノ  
 精細ナルモノハ之ガ元器タル腦髓ノ構造必ス精妙ナラサ  
 ル可カラサルナリ古來智力ノ明敏ナル者ハ其腦髓ノ精微  
 ナル恰モ綾絹ノ如クナルモ痴鈍ナル者ノ腦髓ハ其褶襞必  
 ス粗大ナリ是レ解剖學(Anatomy)上ノ實驗ヲ以テ確證スル  
 所ナリ又々野蠻人種ト文明國ノ人民トニ就キ及ヒ高等動  
 物ト下等動物トニ就テ其褶襞ノ粗密ヲ檢シタルニ其差異

ハ恰モ夫ノ智者ト愚人トノ比例ニ均シガリシハ己ニ解剖  
 家ノ證明スル所ナリ左圖ハ即チ高等動物ト下等動物トノ  
 差異ヲ示スモノナリ野蠻人種ト文明國人トノ差異及ヒ智  
 者ト愚人トノ差異ハ之ニ由テ推知ス可キノミ



(イ) 人類ノ腦髓

- (甲) 大脳
- (乙) 小脳
- (丙) 延髄

(口)



(口) ハ猿ノ脳髓

(ハ)



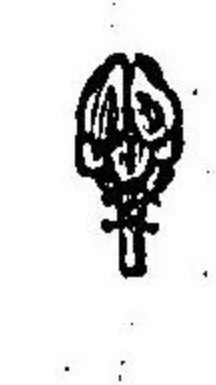
(ハ) ハ猫ノ脳髓

(ニ)



(ニ) ハ兎ノ脳髓

(ホ)



(ホ) ハ鳩ノ脳髓

前頁ノ(イ)ハ側  
面圖ナレドモ

茲ニ掲クル所

ノ(口)(ハ)(ニ)  
(ホ)ハ

何レモ背面圖  
ナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ腦髓ハ心意所在ノ元器ニシテ其構造ノ精粗ハ必ス心力ノ銳鈍ヲ生スル所以ヲ明知ス可キナリ

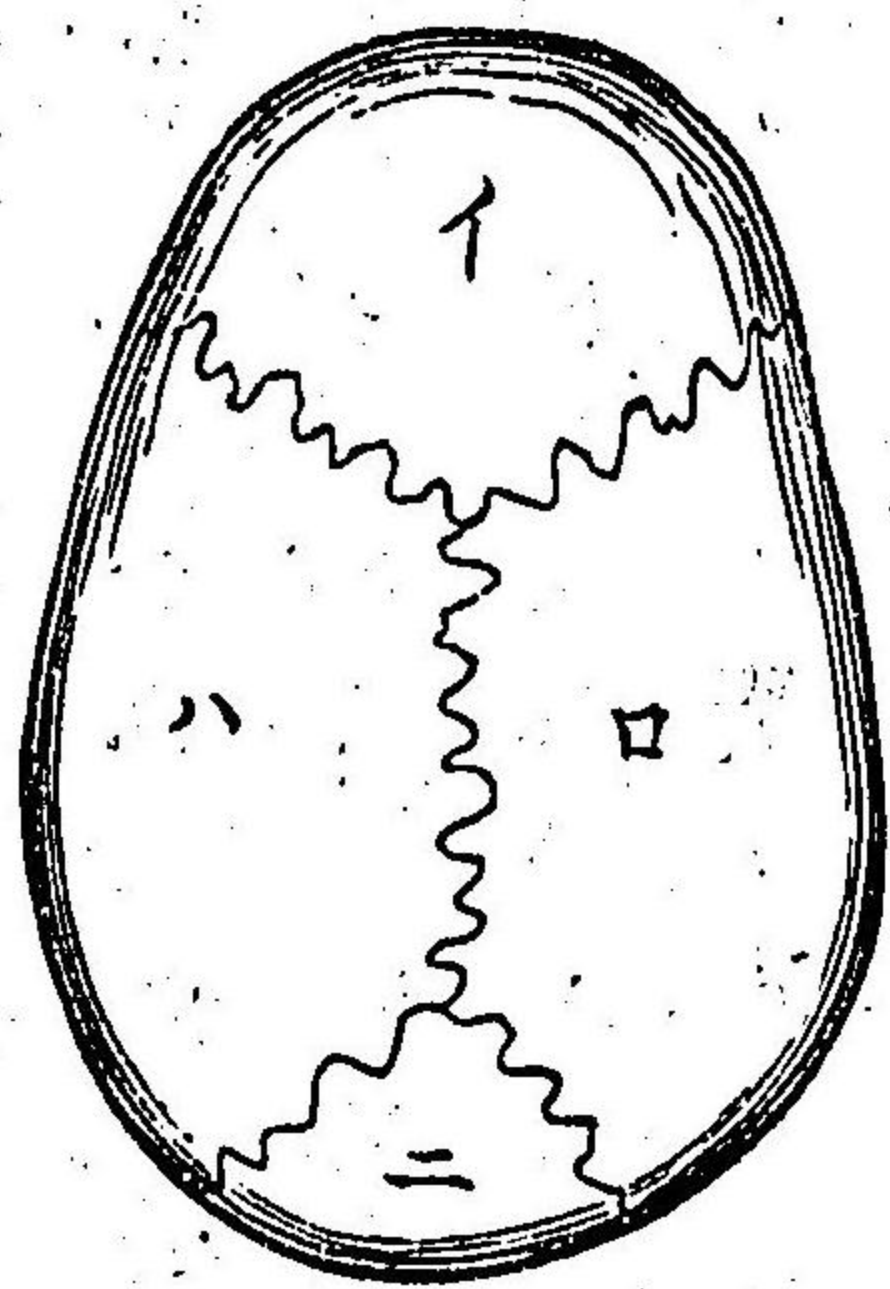
(チ)頭蓋ノ櫛線

頭蓋(Skull)ハ腦髓ヲ保護スル要具ニシテ數個ノ片骨ヨリ成ル而シテ其端邊ハ各鋸齒狀ヲ呈シテ互ニ相連結ス之ヲ各ケテ頭蓋ノ櫛線ト曰フ即チ頭蓋ヲ縫合スル局部ナリ故ニ腦髓ノ精粗ニ從テ亦必ス其精粗アリ恰モ精微ナル器械ヲ容ル可キ外函ハ必ス其構造及ヒ縫合ヲ密ニセサル可カラサルガ如シ之ヲ實驗ニ徵スルニ櫛線ノ粗密ハ人類ノ智愚文野ヲトス可キ指針ナリ是レ已ニ識者ノ許ス所ナリ人類學士ハ土中ヨリ掘出セル頭骨ノ年代ヲ知ルニ其櫛線ノ精粗ヲ以テ其新古ヲトスト云フ即チ其粗ナル者ハ上古草昧ノ時代ニ於ケル蠻族ノ遺骨ニシテ其精ナル者ハ近世文



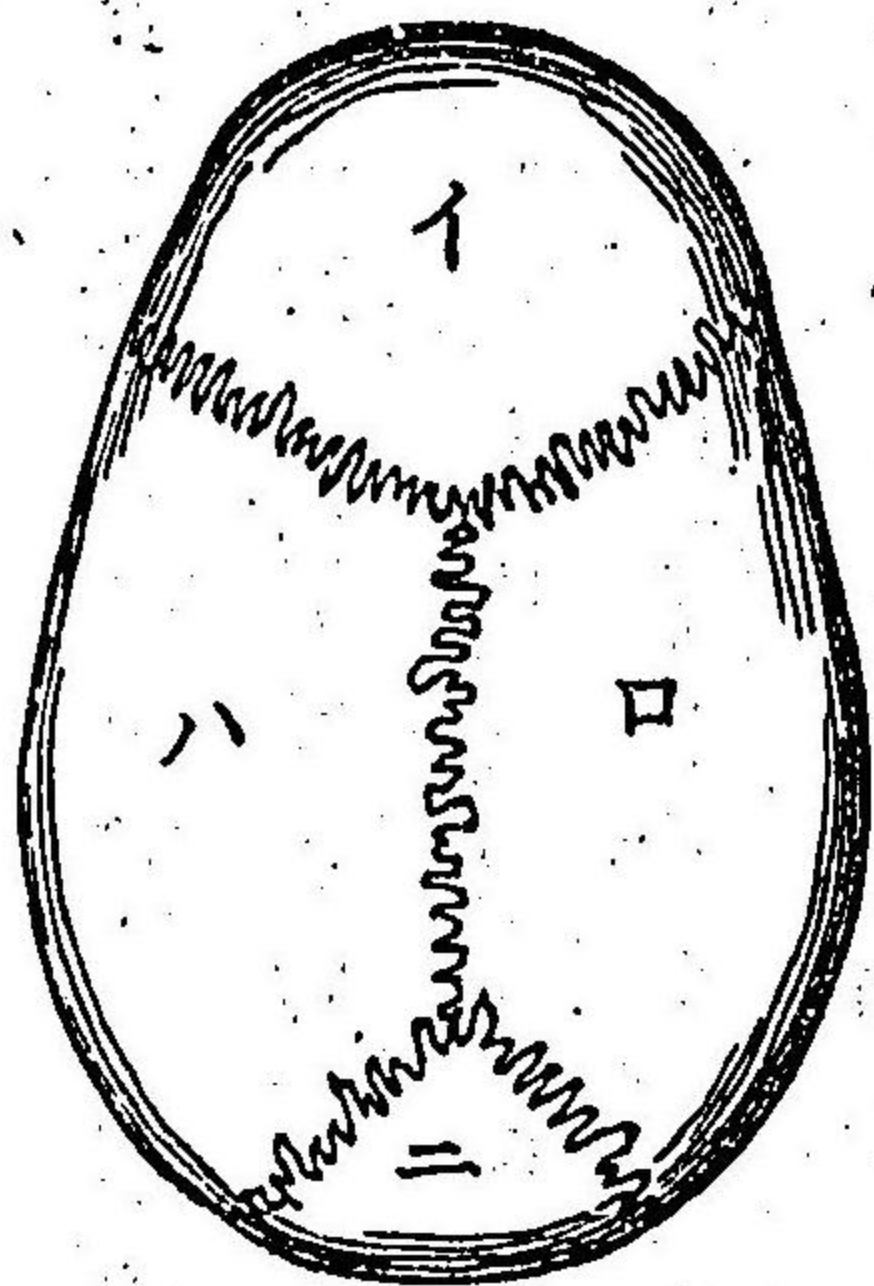
明人種ノ骸髑ナリ今左ニ之ヲ圖解ス

(ハ) 野蠻人種及ヒ痴鈍者ノ櫛線



(イ) 前頭骨  
(ロ) 右側顱頂骨  
(ハ) 左側顱頂骨  
(ニ) 後頭骨

(三) 文明國人及ヒ聰明者ノ櫛線



是ニ由テ之ヲ觀レハ此一事ノ如キモ亦タ以テ在腦說ノ一  
確證ト爲ス可キモノナリ

(リ) 腦髓ノ切斷

致死ノ原因ニシテ最モ迅速ナルモノハ腦髓ノ破傷ナリ是  
レ已ニ前段ニ於テ論述スル所ナリ腦髓ノ破傷已ニ致死最

迅ノ源因ナリ之ヲ切斷スルモ其結果ニ至テハ破傷ト異ナルヲナシ然レモ其結果ノ同一ナルハ全ク之ヲ切斷シ盡シタル場合アルノミ其大脳(Cerebrum)若クハ小脳(Cerebellum)ノミヲ切斷スルキハ決シテ即死スルヲナキノミナラズ一種ノ奇象ヲ呈スルニ至ル人類ノ大脳若クハ小脳ヲ生ナガラ切斷スルヲハ固ヨリ法律ノ許サル所ナルヲ以テ能ク此試験ヲ行ヒタル者ナシト雖モ解剖上ノ實驗ニ於テハ往々生鳩ノ大脳若クハ小脳ヲ切斷スルヲアリ其大脳ヲ切斷スルキハ感覺(Sensation)及ヒ思想(Thought)ノ作用ヲ亡失シ其皮肉ヲ刺スモ絶ヘテ苦痛ヲ感シ及ヒ之ヲ避ケントスルノ表徵ヲ現ハスヲナキモ其小脳ヲ切斷スルキハ全ク執意

(Volition)ノ作用ヲ亡フニ至ル是ニ由テ之ヲ觀レハ凡ソ動物ノ大脳ハ感情(Feeling)及ヒ智力(Intellect)ノ二者ヲ保有シ其小脳ニハ意志(Will)ノ局在セルヲ知ルヘシ夫レ心意ヲ大別スレハ智情意ノ三態ヨリ成ル而シテ此三態中ノ二個ハ大脳中ニ在リテ其一個ハ小脳中ニ在ルヲハ已ニ此實驗ヲ以テ其正確ナルヲ證ス可キナリ果シテ然ラハ此一事ノ如キモ在腦説ノ真正ナルヲ表明スヘキモノナリ

(又)燐素ノ射出

使用スルヲ愈多ケレハ消耗スルヲモ亦々愈多キハ作用ト實體トノ關係ヲ明ニスヘキ一大原則ナリ車輪ハ實體ニシテ回轉ハ其作用ナリ回轉愈多ケレハ車輪ノ毀損スルヲ愈

多キハ喋々ヲ待タスシテ誠ニ明白ナル事實ナリ回轉ノ車輪ニ於ケル其關係已ニ斯クノ如シ心意ノ腦髓ニ於ケル豈ニ其關係ヲ均フセサルノ理アラシヤ夫レ神經ノ實體ハ脂肪蛋白質等ヲ以テ之ヲ構成スト雖其主成分ハ磷素(Phosphorus)ニシテ其他ノ物質ハ總テ之ガ副成分タルノミ殊ニ神經系ノ高等中樞タル腦髓ニ至テハ磷素ヲ包含スルノ最モ多量ナリ故ニ思想ヲ要スルノ愈多ケレハ腦髓ノ消耗愈大ナルヲ以テ其老廢ニ屬シタル磷素ノ尿液中ニ混入スルノ亦々愈多シ曾テ英國ノ大學校ニ於テ生徒ノ尿液ヲ分析シタルニ其中ニ混入セル磷素ハ試驗前ヲ以テ最モ其多量ナルヲ確認セリト云フ凡ソ細思凝念ノ最モ高度ナルハ

學生ノ試驗前ヨリ甚シキハ莫シ而シテ此實驗ヲ以テ已ニ思想ノ多少ニヨリテ磷素ノ射出ニ變動アルヲ證明セリ若シ心意ヲシテ腦髓ノ作用ニ出テサラシメハ何ソ斯クノ如キ結果ヲ生スルヲアラシヤ亦以テ在腦說ノ正確ヲ證スヘキ一事實ナリ

(ル)容貌ノ變化

心裏ニ喜怒悲憂ノ變アレハ容貌隨テ必ス變ス或ハ英雄豪傑ノ士ハ喜怒色ニ顯ハレスナド曰フ者アレト斯クノ如キハ唯是レ喜怒ノ淺少ナル場合ニ於テ之ヲ克制シ得ヘキノ苟モ血性アル動物ニシテ心意上ノ現象ヲ掩匿シ得ヘキ者アラシヤ英雄豪傑モ亦々是レ動物中ノ人類ニシテ其神

經ヲ有シ知覺ヲ有スル下ニ至テハ則チ一ツナリ故ニ大ニ怒リ大ニ喜フ等ノ場合ニ於テハ何人ト雖モ其容貌ノ變セサル下ナシ古來文章家ノ慣用セル色ヲ作シテ曰ク「容ヲ正フシテ曰ク」ナドノ成句アルガ如キ以テ證ス可キナリ然ラハ心意上ノ變化ハ必ス其影響ヲ容貌上ニ及ホス下動物固有ノ一特性ト曰フモ可ナリ而シテ其茲ニ至ル所以ノモノハ顔面及ヒ眼球中ニ達スル神經ハ所謂ル腦髓神經 (Cranial Nerves) ナルモノニシテ腦裏ニ生シタル變動ヲ傳表スル下最モ近接ナルヲ以テナリ即チ心意上ノ現象ト腦髓上ノ變動トハ必ス同時ニ顯發スルヲ以テ其影響ヲ最近ノ顔面上ニ及ホスモ下ナリ若シ心意ノ局部ヲシテ腦髓以外ニ在

ラシメハ心意上ノ變動ト顔面上ノ變化ト斯クノ如ク相密接スルノ理ナカルヘシ

(オ) 睡眠ノ多少

動物ノ神經ハ時々刻々外物ニ接スル毎ニ消耗スト雖モ能ク之ヲシテ絶無ノ極ニ至ラシメサルモノハ食物ニ由リテ之ガ材料ヲ供給スルト睡眠ヲ以テ其組織ヲ更成スルトニ基因ス是レ生理學 (Physiology) 上ニ於テ説ク所ナリ而シテ心意ヲ勞スル下愈多シレハ神經ヲ消耗スル下愈多シ殊ニ腦髓ノ如キハ其消耗スル下最モ多量ナルヲ以テ多思ト多眠トハ一種相離ル可カラサルノ連鎖ナリ故ニ數學ヲ研究スル者著述ニ從事スル者等ノ如キハ特ニ睡眠時間ノ長キヲ

要スルハ各自ノ實驗ニ徴シテ其然ルヲ知ル可キナリ是レ  
豈ニ心意ノ腦髓ニ局在スル一証ニアラサルヲ得ンヤ

結論

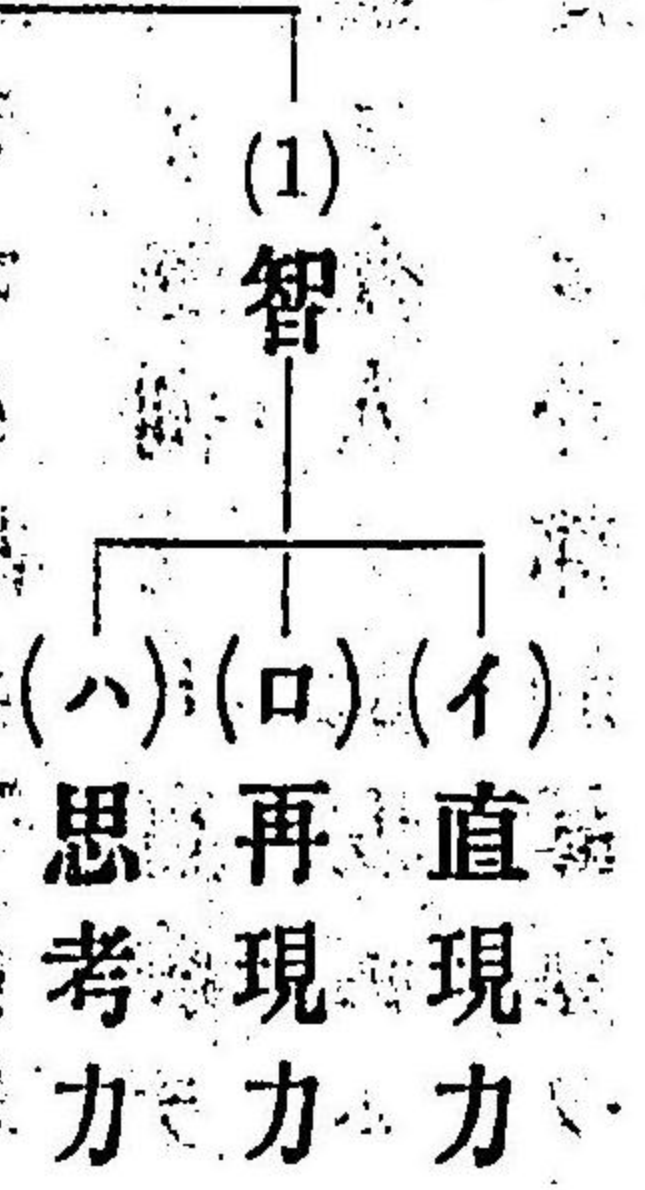
以上列擧スル所ノ十二証ハ以テ心意ノ腦髓中ニ在ルヘキ  
ヲ確立スルニ足ル可シ然レモ人類ノ腦髓ヲ生ナガラ解剖  
シテ其靈妙ナル作用即チ心意トノ關係ヲ明ニスルガ如キ  
啻ニ法律ノ許サ、ル所タルノミナラス實際上爲シ得ヘカ  
ラサルヲナルヲ以テ古往今來コノ二者ノ關係ヲ証スルモ  
ノハ外部ヨリ行フ所ノ推究ニ外ナラス蓋シ第十九世紀ノ  
智力ヲ以テスルキハ心意ニ關スル查察ハ此段階以上ニ及

フ可カラサルヲ以テナリ故ニ千百年ノ後ニ及テハ如何ナ  
ル方法ヲ以テ生腦ノ解剖及ヒ實驗ヲ行ヒ得ルニ至ルヤモ  
知ル可カラスト雖モ今人ノ進度猶ホ未タ其極點ニ達スル  
ニ至ラサル間ハ縱令ヒ外部的觀察ノ結果ニ成ル所ノ推究  
ナルニモセヨ姑ラク之ヲ以テ完全ノ証左ト爲シ樂テ他年  
ノ厘正ヲ待タサル可カラサルナリ凡ソ理學(Science)ニ於テ  
斯クノ如キ境遇ニ在ルモノ豈ニ獨リ此一事ノミナランヤ

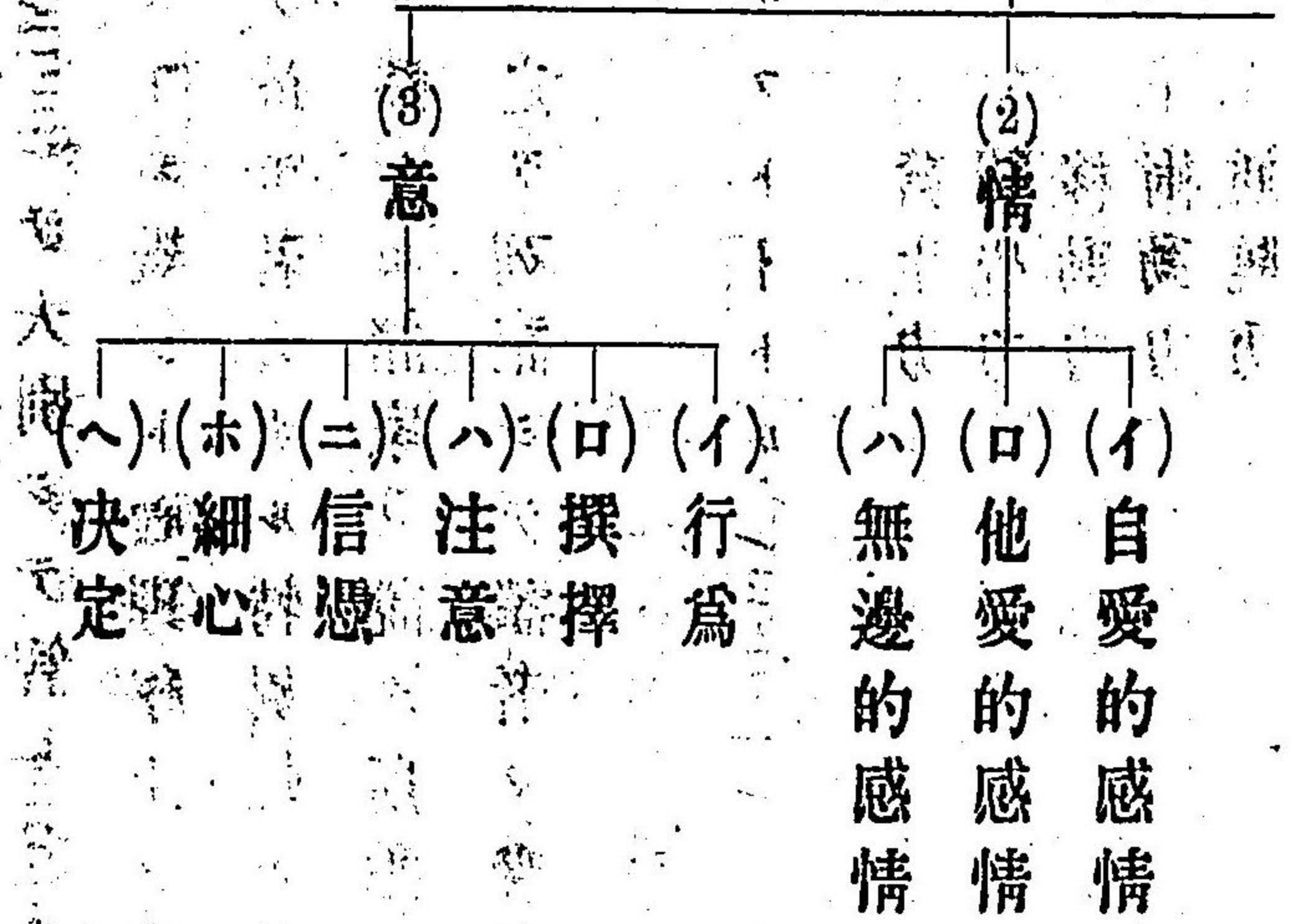
(5) 心意ノ區分

心意(Mind)ノ本體ヲ開截シテ之ヲ數部ト爲スハ固ヨリ人力  
ノ及フ所ニテラズト雖モ其作用ヲ分釋シテ數種ト爲スニ

至テハ敢テ爲シ得ヘカラサレバアラヌ故ニ古來諸家各其見ル所ニ從テ之ヲ區分セリト雖也其中ニ就テ最モ正當ニシテ又々最モ明白ナルモノハ有名ナル獨逸ノ哲學大家カント(Kant)ノ區分法ニシテ近世ノ心理學者ハ皆概テ此法ニ從ハサルハ莫シ然レモ其細末ニ至テハ必ス多少ノ差異ナキヲ得ス乃チ吾輩ハ左記ノ方案ヲ採用シテ講述ノ歷程トスベシ

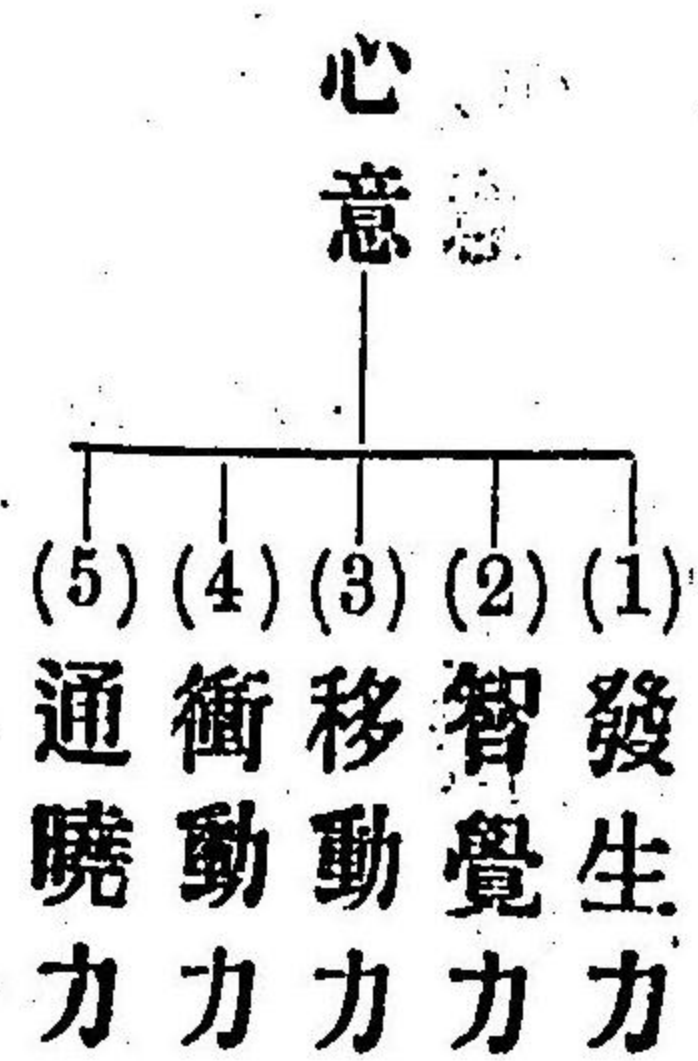


心意

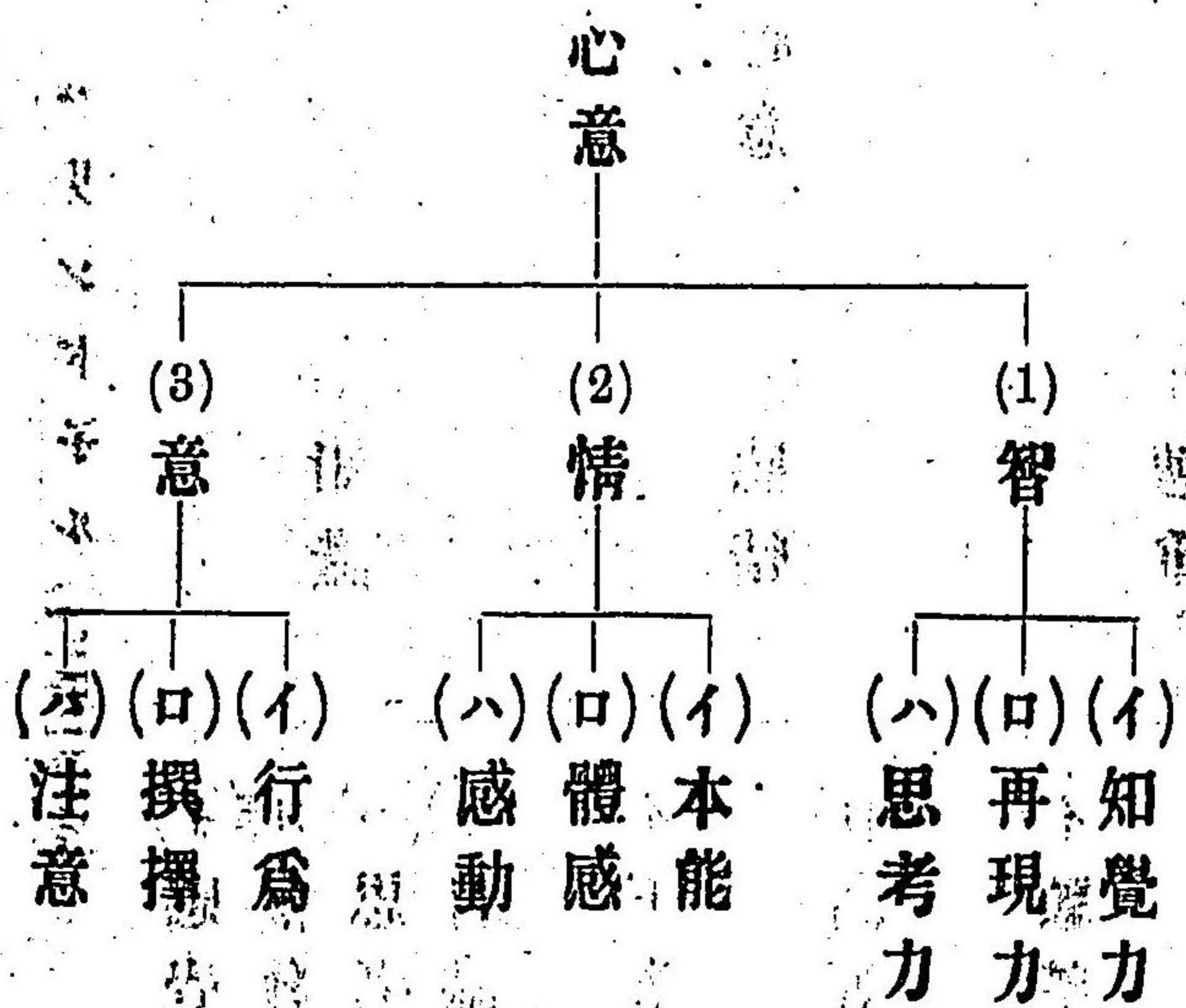


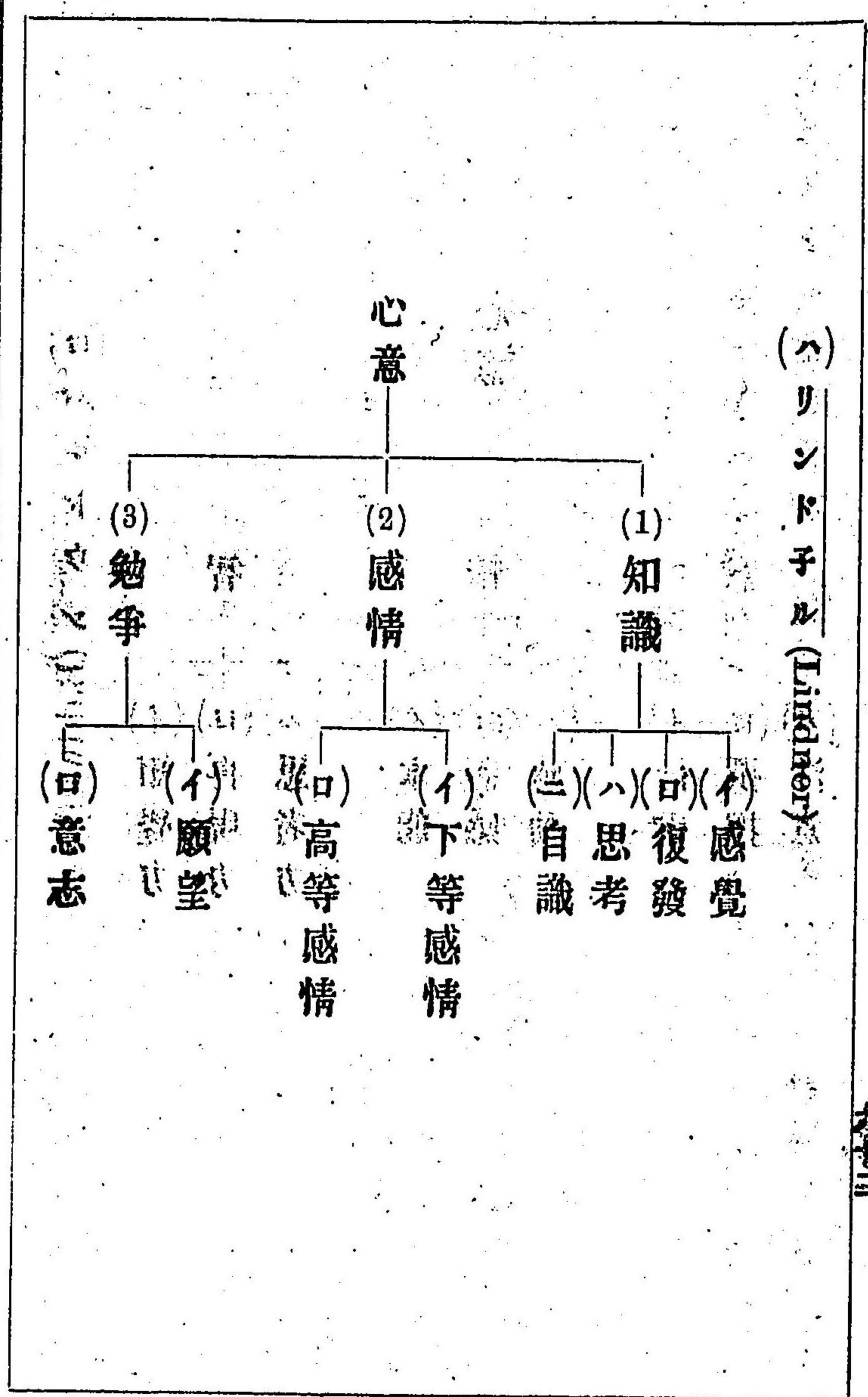
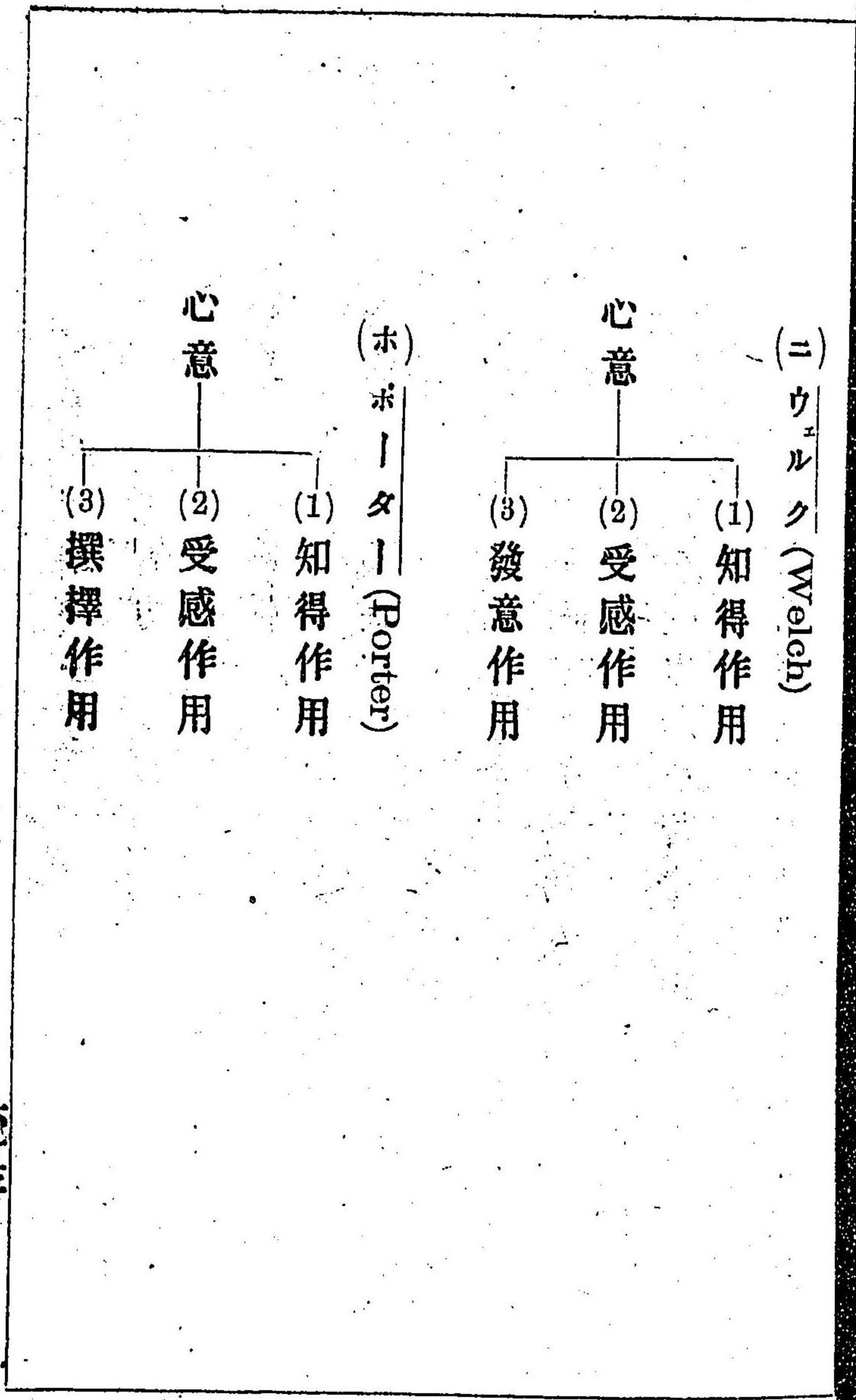
斯クノ如ク心意(Mind)ヲ大別シテ智(Intellect)情(Feeling)意(Will)ノ三態ト爲ス。ハ幾ンド心理學上ノ定式タルニ至レリ。是レ蓋シ心意ノ最モ著大ナル特異性ハ此三者ノ外ニ出テサルヲ以テナリ。然レモ諸家ノ説ク所悉ク同一轍ニ出ルニアラス。即チ左ニ之ヲ列記シテ讀者ノ參考ニ便ニス。

(イ) アリストートル (Aristotle)



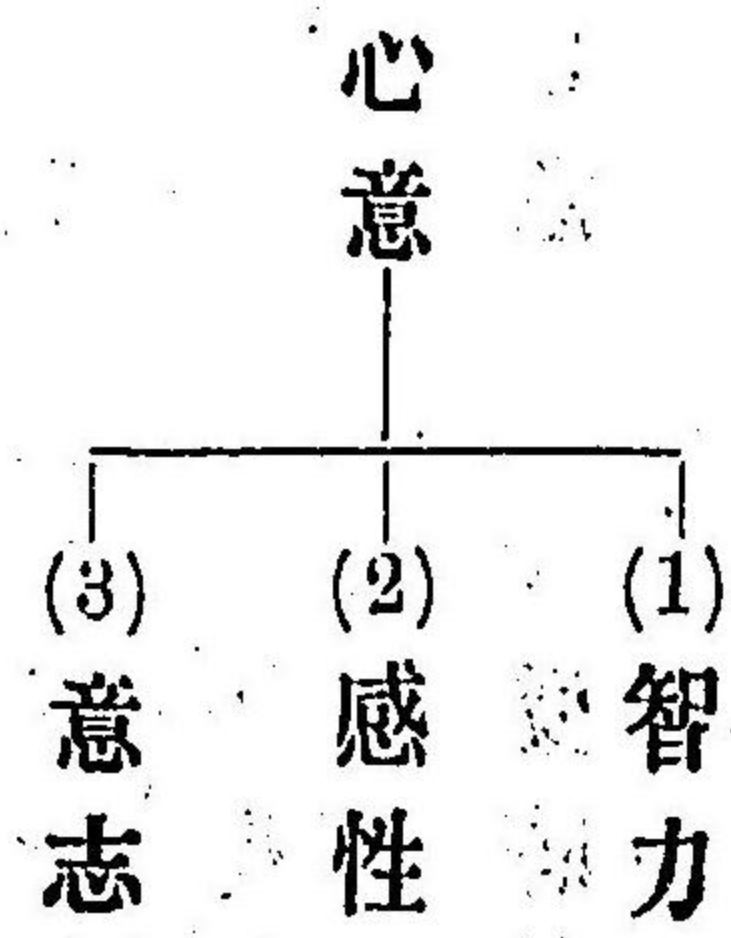
(ロ) バルドウィン (Baldwin)



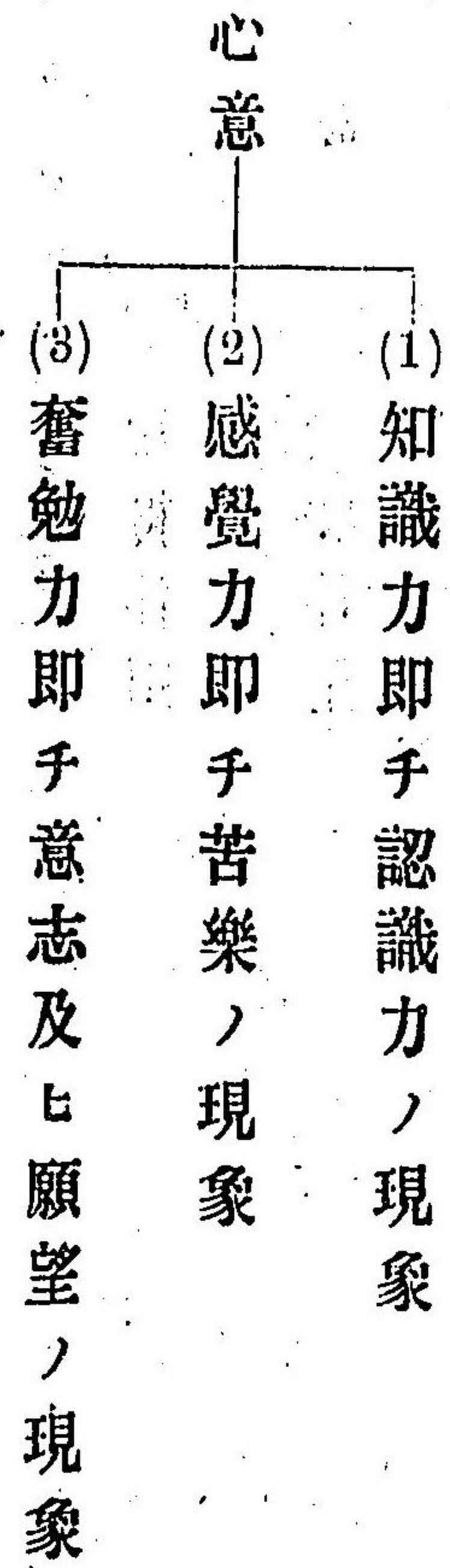




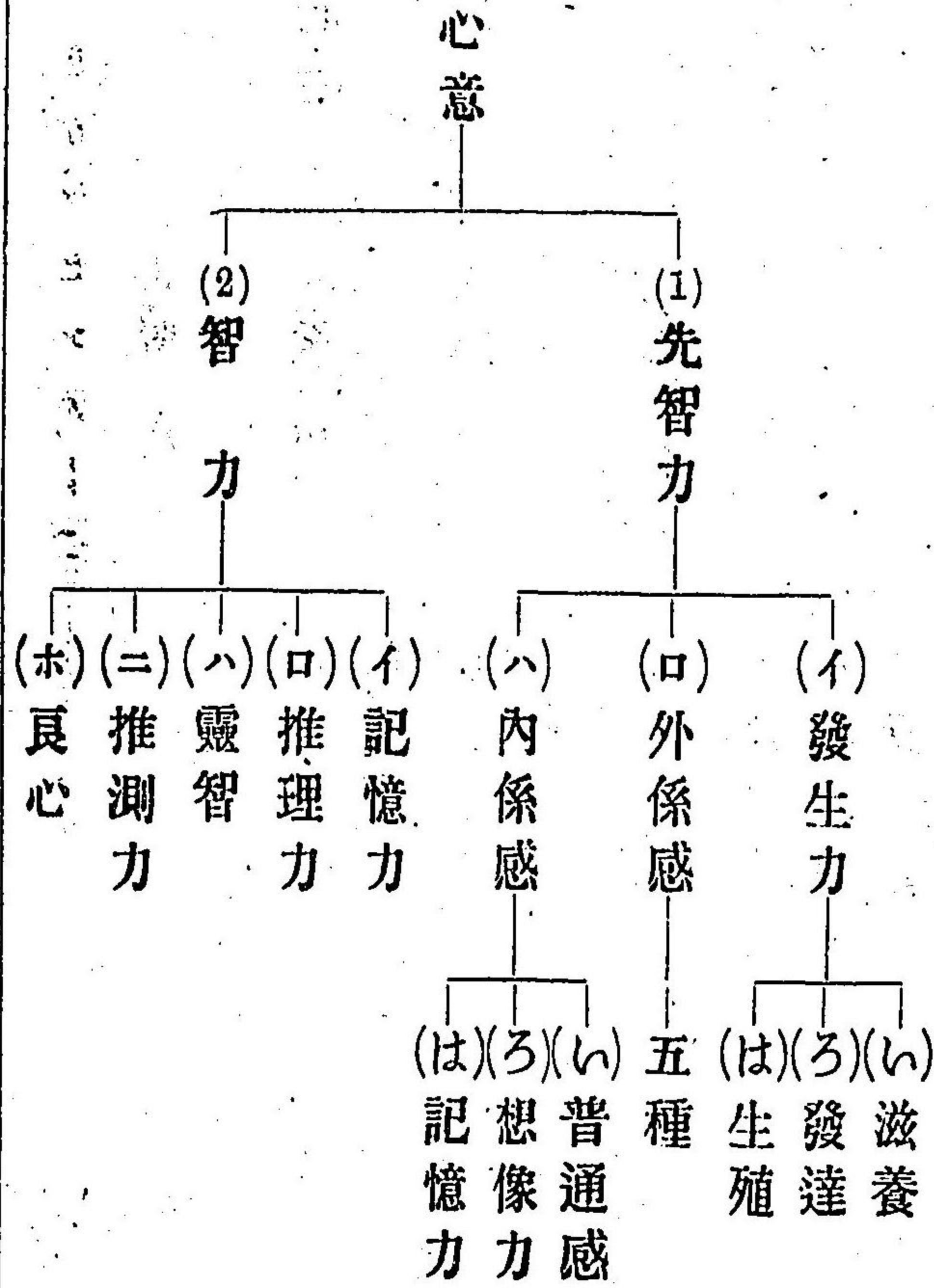
(ハ) フーバ (Phelan)

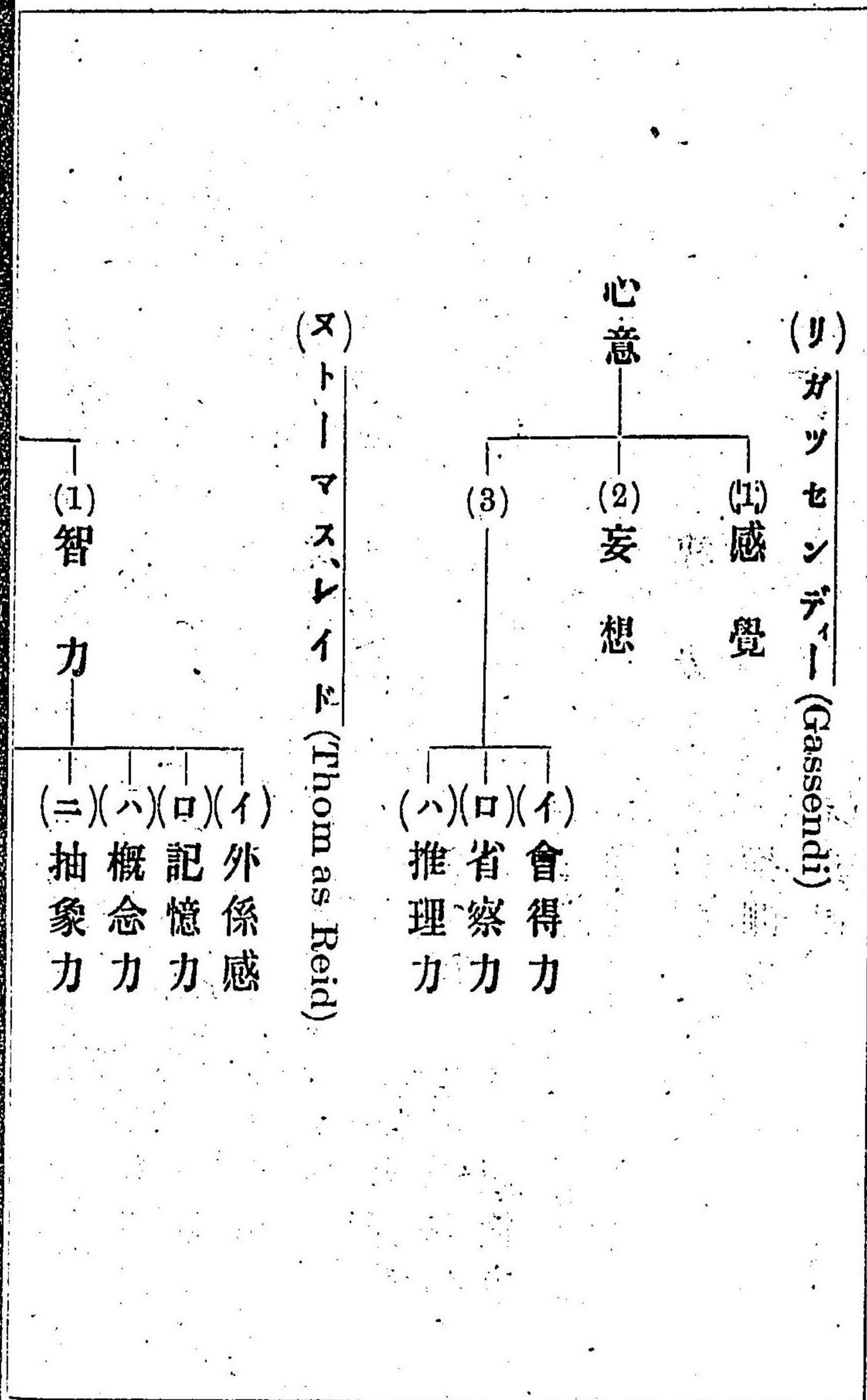
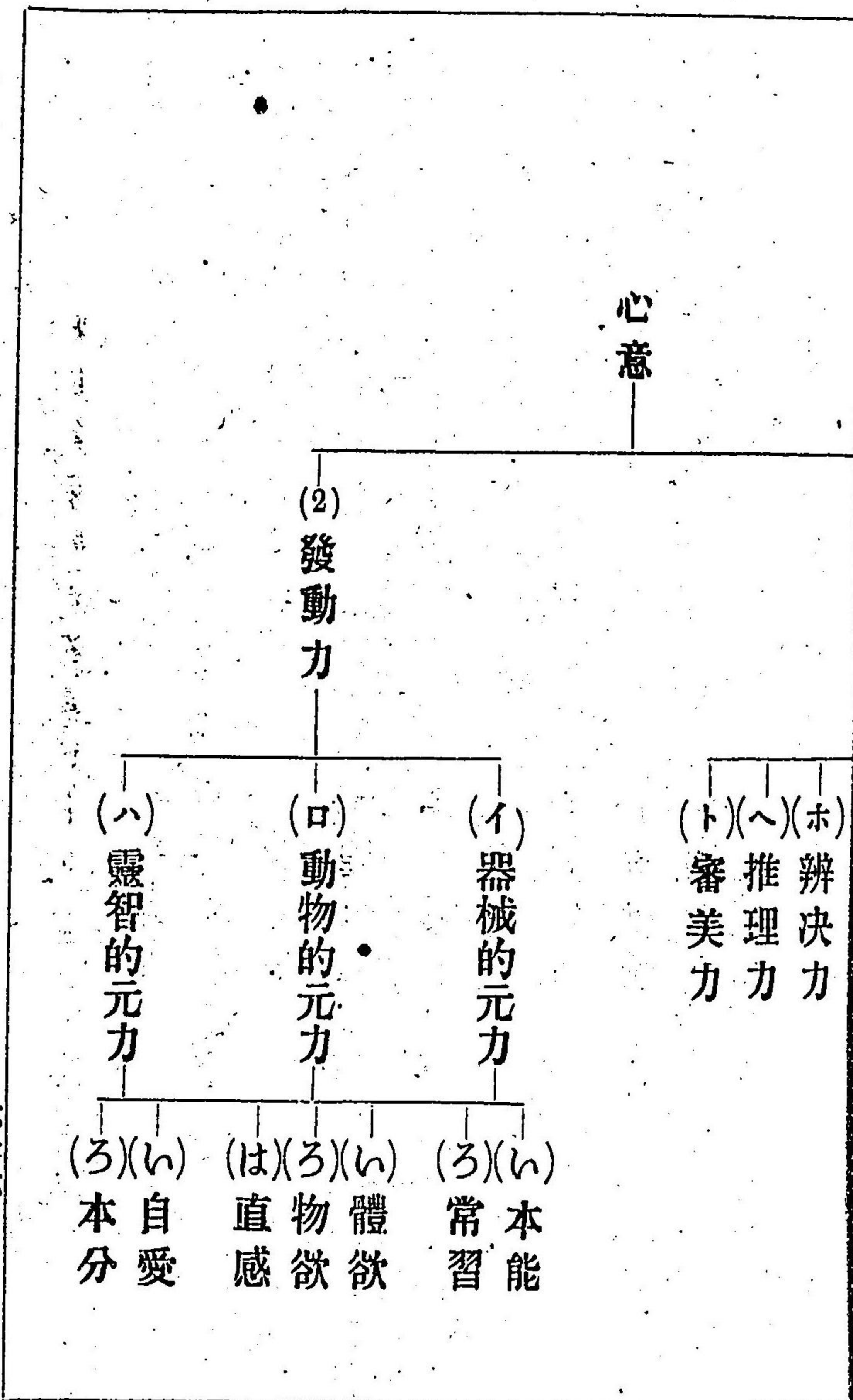


(ト) ハミルトン (Hamilton)



(チ) トーマス、アキナーナス (Thomas Aquinas)





(ル) ドーガルド、ステewart (Dugald Stewart)

心意

(1) 智力

- (イ) 意識力
- (ロ) 外界的知覺
- (ハ) 注意力
- (ニ) 概念力
- (ホ) 抽象力
- (ヘ) 聯伴作用
- (ト) 記憶力
- (チ) 想像力
- (リ) 推理力

六十八

(2) 發動力

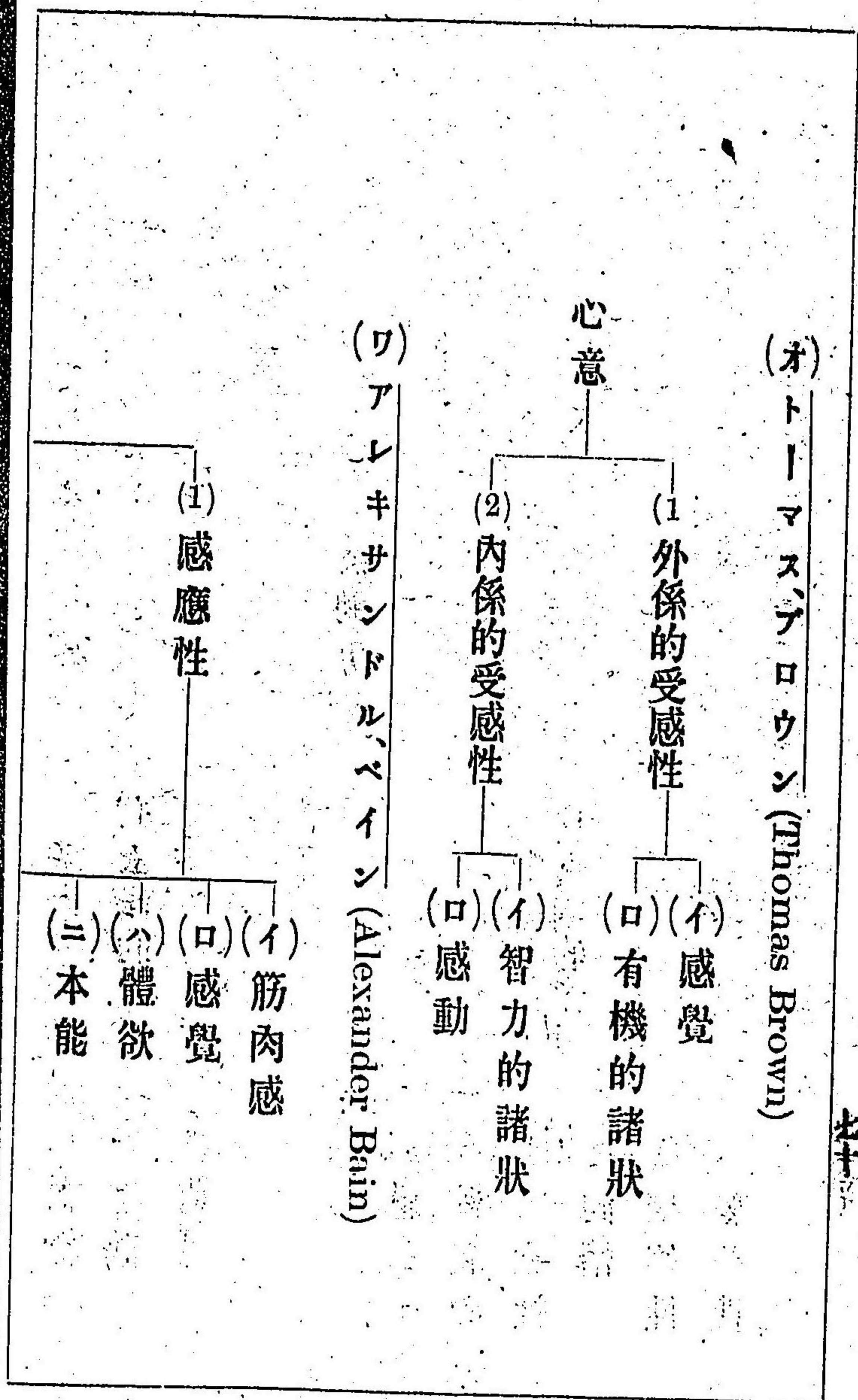
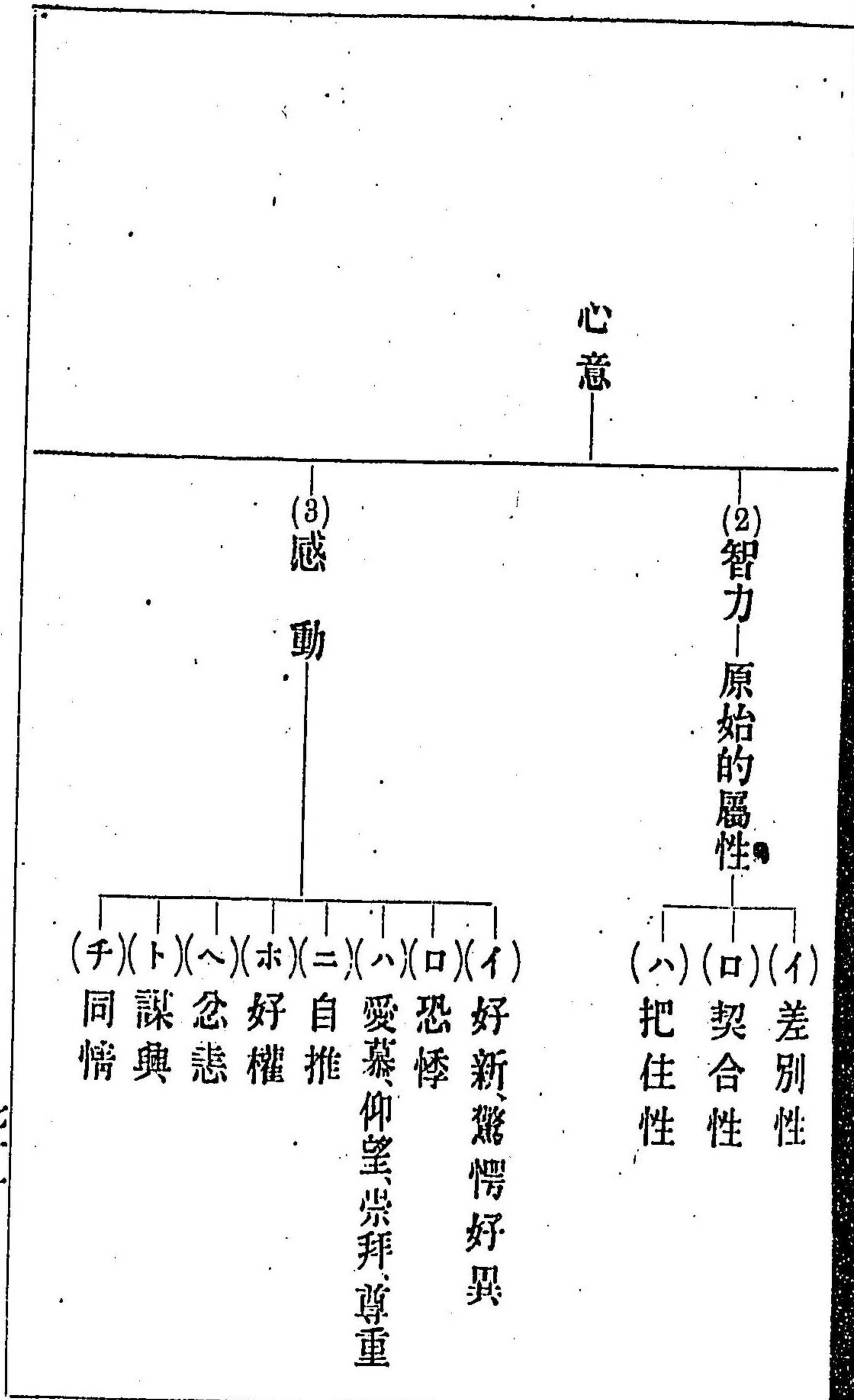
(イ) 本能的元力

- (ハ) 直感
- (ロ) 物欲
- (ニ) 體欲

(ロ) 克制的元力

- (ハ) 思慮
- (ロ) 道義心
- (ニ) 適宜性
- (ヘ) 同情
- (ト) 嘲笑性
- (リ) 審美性

六十九



(4) 意志

- (イ) 意志力
- (ロ) 自制
- (ハ) 動機
- (ニ) 熟考
- (ホ) 決定奮勉
- (ヘ) 願望
- (ト) 信憑
- (チ) 道義的常習
- (リ) 思慮本分
- (ヌ) 自由及ヒ強迫

結論

心<sup>〇</sup>意<sup>〇</sup>(Mind)ノ區分法ニ就キ諸家ノ説ク所悉ク同一轍ニ出テ  
 スト雖<sup>レ</sup>其大体上ニ於テ著シキ差異アルヲ見ス是レ心<sup>〇</sup>意<sup>〇</sup>  
 ノ作用ハ古來何人ノ眼ヲ以テスルモ其主要ナル特異性ノ  
 幾<sup>〇</sup>ンド同一ニ歸セントスル傾向アルヲ以テナリ或ハ同一  
 ノ心力ニシテ諸家ソノ名辭ヲ異ニスルヨリ讀者ヲシテ一  
 見直チニ非常ノ差異アル者ノ如ク感セシムル<sup>〇</sup>ナキニア  
 ラスト雖<sup>レ</sup>斯クノ如キハ諸大家ガ先輩ノ慣用セル學語ヲ  
 繼襲スル<sup>〇</sup>チ欲セス各自相競テ一種ノ新語ヲ創出セント  
 欲スルノ傲慢ヨリ生シタル餘弊ナリ今日此學ヲ講スル者  
 ノ徒ラニ苦惱ヲ覺ユル所ナリ夫ノ知<sup>〇</sup>識<sup>〇</sup>(Knowledge)ト曰ヒ知<sup>〇</sup>

得。作。用。(Knowing)ト曰ヒ又々單ニ智(Intellect)ト曰フガ如キ意  
 (Will)ト曰ヒ勉。争。(Striving)ト曰ヒ又々發。意。作。用。(Willing)ト曰  
 フガ如キ皆是レ同物異稱ノ結果ニシテ彼此固ヨリ大差ア  
 ルトナシ而シテ諸家ノ區分法中ニ就テ最モ適當ニシテ最  
 モ會得シ易キモノハバルドウィンリンドネル等ノ方案ナリ  
 ト知ル可シ

(6) 心。意。ノ。進。化。

凡ソ有形無形ニ論ナク苟モ天地ノ間ニ在リテ生活ノ作用  
 ナ有スルモノ一トシテ進。化。(Evolution)ノ妙用ヲ具ヘサルハ  
 莫シ而シテ進。化。ノ歷程ヲ大別スレハ啓。發。(Development)ト生。

育。(Growth)トノ二者ニ外ナラスト雖モ其由テ來ル所ノ本源  
 ナ論スレハ内部ニ有スル所ノ能量ト外部ヨリ及ホス所ノ  
 動力トニ出テサルハナシ故ニ無形ノ心意モ有形ノ機體モ  
 其經過ノ歷程ニ至テハ秋毫モ相異ナル所ナシ今コノ二程  
 ニ就テハ左ニ之ヲ逐論スベシ

(イ) 啓。發。

啓。發。(Development)トハ構造的變化ハ謂ニシテ組織上ハ精微  
 ナ加フル作用ナリ一ツニ開。發。ト譯ス之ヲ換言スレハ無形  
 ノ心意ニ就テ論スレハ其作用ハ高尚ナル靈域ニ進ミタル  
 狀況ニシテ有形ノ機體ニ就テ論スレハ其構造及ヒ組織ハ

漸變シテ精妙ノ頂點ニ達シタル狀況ナリ、

(一) 特性

心意ノ啓發ニ就テ其特性(Pecuriarity)ヲ例擧スレハ明瞭復雜、再現虛象及ヒ全體ノ五項アリ今左ニ逐次之ヲ論述スヘシ

(い) 明瞭

凡ソ心意ノ作用ハ初メ茫漠ニシテ方圓曲直ノ別ヲ知ラス或ハ年齢ノ漸ク長スルニ及テハ能ク其差異ヲ辯述スルモ之ヲ幾何學的ニ解剖シテ之ガ根底ニ溯リ其何故ニ斯クノ如キ差異ヲ生スルヤヲ明言シ得ル者ナシ是レ人ノ心性ハ同一ハ認識ヨリ起程シテ差異ハ辨別ニ至ルノ定則アルニ職由セスンハアラス然ルニ年齢ノ進長スルト共ニ遺傳ノ

能力ト外界ノ境遇及ヒ指導トニ由リテ能ク各物各象ノ差異ヲ細察周知スルニ至ル是レ則チ心意作用ノ明瞭(Clearness)ヲ得タルモノナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ明瞭ハ心意的啓發ノ第一種ニ屬スルモノト知ル可シ

(ろ) 復雜

幼兒若クハ野蠻人ノ如キハ心意ノ作用極メテ簡單(Simple)ニシテ固ヨリ復雜(Complex)ナル能ハス故ニ能ク一個物ノ觀念(Idea)ヲ有スルモ其物体ノ通有性ヲ抽出シテ之ガ概念(Conception)ヲ造成スルヲ得ス之ヲ例セハ太郎次郎等ノ何物タルヲ知ルモ其從屬スル所ノ人類ナル者ハ何物ナルヤヲ知ラス甚シキハ太郎次郎等ノ如キハ如何ナル物類ニ屬

スルモ如何ナル物類ニハ屬スルヲナキヤチ詳ニセサルガ如キ是レナリ觀念ヲ有スルモ概念ヲ有スルヲノ難キ已ニ斯クノ如シ況ンヤ概念ト概念トノ合否ニヨリテ肯定若クハ否定ノ辨決(Judgment)ヲ造出シ更ニ進テ辨決ト辨決トノ合否ヲ以テ直接若クハ間接ノ推度(Inference)ヲ行フオヤ然レ由之ヲ導クノ法宜シキヲ得テ天然ノ順序ニ適スルハ遂ニ能ク推度ノ作用ヲ收得スルニ至ルヘシ是レ則チ心力ノ復雜ニ堪ヘ得テ心意的啓發ノ一端ヲ加ヘタルモノナリ又々物數上ニ就キテ之ヲ論スレハ均シク是レ二個數ナレ由十位ノ二個ハ單位ノ二個ヨリモ復雜ニシテ百位ノ二個ハ十位ノ二個ヨリモ會得シ難シ之ヲ換言スレハ二、二十、二百

二千、二億等ノ如キ漸ク其復雜ヲ加フルニ從ヒ其意義ヲ了解スルニ高度ノ心意的啓發ヲ要スルハ最モ明白ナル事實ナリ

(は)再現

幼稚ノ時ニ於テハ感官ノ力ニヨリテ外物ノ知識ヲ直接ニ收得スルニ汲々タリ故ニ感官ノ媒介ヲ離レテ能ク之ヲ想識スルヲナシ然レ由天地ノ廣キ萬物ノ衆キ逐一之ヲ感官ノ直覺作用ニ訴フルガ如キハ到底做シ得ヘカラサルヲナリ是ヲ以テ心力ノ漸ク啓發スルニ從ヒ一度知覺シタル外物ハ縱令ヒ其實體ノ目前ニ現存セサルモ猶ホ能ク之ヲ想識スルヲ得ルニ至ル是レ所謂再現力(Representation)ニシ



テ之ヲ細別スレハ記憶力、想像力、等ノ數種ヨリ成ルモノナ  
リ夫ノ直現力(Presentation)ノ如キハ苟モ感官ヲ有スル者ノ  
此世ニ生ル、ト同時ニ具有スル所ナリト雖モ再現力ニ至  
テハ啓發シタル心意ヲ有スル者ニアラサレハ見ルヲ得  
サルナリ

(乙) 虛象

一人、二本、三疋、等ノ如キ具象的名數ハ何人モ容易ニ之ヲ會  
得スルヲ得ヘシト雖モ單ニ一、二、三、等ノ如キ虛象的無名數  
ハ已ニ啓發シタル心力ヲ有スル者ニアラサレハ其真意ヲ  
覺了ス可ラサルナリ又々大石、赤衣、長竿、等ノ如キ具象的名  
辭ハ幼兒凡俗モ之ガ會得ニ苦シムヲナシト雖モ若シ單ニ

大サ、赤サ、長サ、等ノ如キ虛象的名辭ヲ以テ其會得ノ如何ヲ  
試ムルヲアラハ未啓ノ心力ヲ有スル者ハ之ガ即答ニ躊躇  
スヘシ是レ即チ實物ノ中ニ包含セラレタル具象(Concrete)  
ハ幼稚ノ心力ヲ以テ會得スルヲ困難ナラスト雖モ全ク實  
體ヲ離レタル虛象(Abstract)ニ至テハ心意ノ啓發ヲ得ルニア  
ラサレハ明解ス可カラサル所以ナリ

(丙) 全體

人、狗、馬、等ノ如キ一小部分ニ屬スル物類ハ之ヲ會得スルヲ  
固ヨリ難カラスト雖モ之ヲ總合シテ動物ナル一全體ト爲  
シ以テ其概念ヲ造成スルガ如キハ心意的啓發ノ結果ニア  
ラサレハ得ヘカラサルナリ況ンヤ梅、松、杉、等ノ如キ特殊ノ

個體ヲ聚團シテ植物(Vegetable)ナル一全體ト爲シ更ニ前記ノ動物ト結合シテ生物(Living Being)ナル一大全體ヲ構成スルガ如キハ彙類法ノ原理ニ通曉セサル者ノ做シ能ハサル所ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ事物ノ全體(Whole)ヲ會得スルガ如キモ亦タ以テ心意的啓發ノ一表徴ト爲ス可キナリ

## (二)要素

心意ノ啓發ハ内外二様ノ動力(Agency)ニ基因スルモノニシテ之ヲ名ケテ要素(Factor)ト曰フ而シテ之ヲ大別シテ内素(Internal Factor)及ヒ外素(External Factor)ノ二種トス

## (一)内素

内素トハ智情意等ハ如キ内部ノ心能ニシテ更ニ之ヲ小分

シテ本來的能量ト遺傳的性向トノ二類トス——(1)本來的能量(Original Capacity)トハ各人固有ノ發動性ト應受性トヲ總合セルモノニシテ天命ノ定ムル所ナリ生物ノ形體及ヒ心性ハ固ヨリ前族ノ遺傳ニ出テサルナシト雖モ十人ノ兄弟ハ必ス十異ニシテ縱令ヒ其父母、祖父母、等ヲ同フスルモ其前族及ヒ各自ノ境遇等ニ由リテ均一ナル能ハス是レ遺傳ノ結果中ニ於テ各異ノ特性ヲ生スル所以ナリ即チ本來的能量トハ此種ノ特性ヲ云ナリ——(2)遺傳的性向(Hereditary Disposition)トハ心性上ノ特性ヲ父母ヨリ子女ニ傳下スルモノニシテ所謂ル遺傳ノ定則(Law of Heredity)ナルモノニ從フ井ハ之ヲ分テ汎通遺傳(Common Heredity)ト特殊遺傳(Special

Heredity)トノ二種トス汎通遺傳トハ一國民若クハ一生類ノ遺傳ニ由リテ通有セル特性ニシテ心性上ニ就テ論スレハ文明國人ハ高度ノ智力ヲ有スルモ野蠻人種ハ事理ニ暗ク形體上ニ就テ論スレハ白哲人ハ白哲人ノ子女ヲ生ミ牛馬ノ仔ハ牛馬ノ父母ヨリ生ル、ガ如キ是レナリ特殊遺傳トハ範圍ノ最モ狹隘ナルモノニシテ其勢力ノ及フ所僅ニ一系ノ生類ニ局止スルヲ常トス心性上ニ就テ論スレハ某族ノ子孫ハ音樂ニ長シ某家ノ子女ハ數學ニ達スル特性ヲ有スルノ類ナリ形體上ニ就テ論スレハ身長、疾病、容貌、等ノ各族各家ソノ遺傳チ一ニセサルガ如キ是レナリ

(3) 外素

外素トハ即チ外界ヨリ心性上ニ及ホス所ハ動かニシテ之ヲ細別シテ天然の環象ト社交的環象トノ二類トス——(1) 天然の環象(Natural Environment)トハ身邊ヲ環繞セル、外界ハ境遇ニシテ天候、地氣、風景、物色、音響、等ノ如キ是レナリ伊太里人ノ美術心ニ富ミアガシスノ子一フチャツテル湖畔ニ生レタレルガ如キ歐洲人ノ事理ノ究察上ニ熱心ニシテ堪忍ノ力強キモ印度、亞非利加、等ノ土蕃ハ怠惰不潔ニシテ考査ノ力ニ乏シキガ如キ皆ナ天然の境界ノ致ス所ナリ凡ソ心性上ノ啓發ハ此種ノ影響ヲ受ケサル無シト雖ドモ恐怖、畏敬、審美、等ノ諸情ハ特ニ之レニ由テ啓發ヲ促サル、コト多シ——(2) 社交的環象(Social Environment)トハ社會ハ交際上ヨ

リ生スル人爲ハ感勢ニシテ有意の感勢(Designed Influence)ト  
 無意的感勢(Undesigned Influence)トノ二種ヨリ成ル有意の感  
 勢トハ著書演說新聞法令教育誘導訓練等ヨリ心性上ニ  
 及ホス所ノ勢力ニシテ皆ナ特ニ一定ノ企圖目的ヲ有スル  
 モノナリ之ヲ要素中ノ最モ強大ナルモノトス智情意等ノ  
 心性ニテ之ニ由テ左右セラレサル無シト雖モ就中之ガ影  
 響ヲ受ルモノハ模擬同情從順等ノ諸性ナリ無意的感勢ト  
 ハ風俗慣例營業氣質等ノ類ナリ此等ノ數種ハ決シテ心性  
 ノ啓發上ニ向テ特殊ノ目的ヲ有スルモノニアラス之ヲ例  
 セハ西洋ニテ女尊男卑ノ風俗アルガ如キ遊里ニ於テ一廓  
 悉ク猥褻ノ營業ニ從事スルガ如キ感情若クハ射利ノ目的

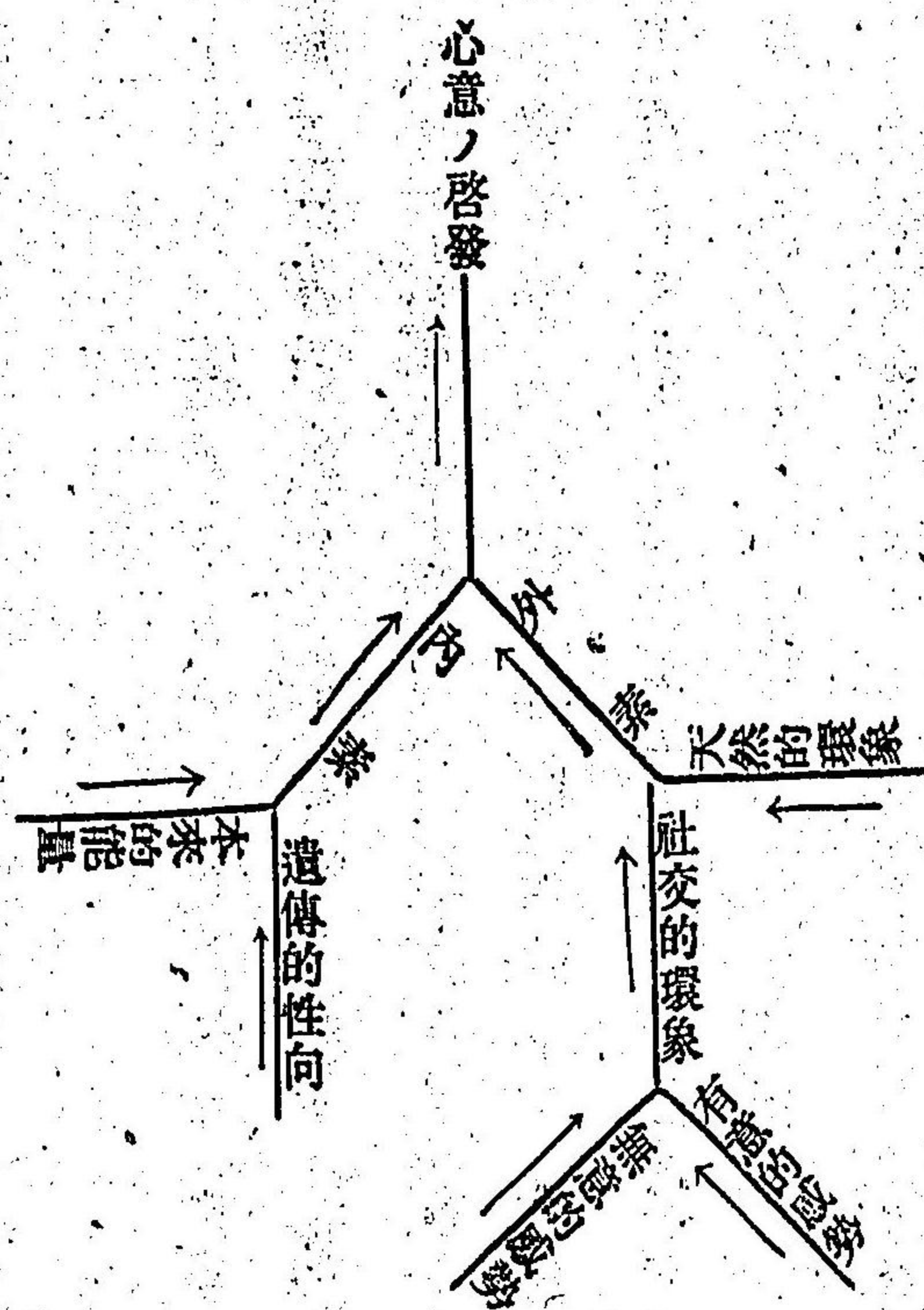
ニ出ルモノニシテ固ヨリ之ヲ以テ兒童ノ心性ヲ誘引セン  
 ト欲スルモノニアラス然レモ其啓發ノ方向ヲ變動セシム  
 ルノ勢力ニ至テハ前記ノ感勢ニ優ルヲアルモ劣ルヲアル  
 ナ見ス

### (三) 圖形

内外各種ノ要素ガ心意ノ啓發上ニ及ホス所ノ方向勢力等  
 ハ已ニ上文ニ詳述スル所ノ如シ然レトモ之ヲ一面ノ圖形  
 (Scheme)ニ製シテ一目ノ下ニ瞭然タラシムルニアラサレハ  
 讀者ノ會得上ニ便ナラサルヲ知ル因テ左ニ之ガ圖形ヲ描  
 示ス

生育 (Growth) トハ有形ノ機體ニ就テ論スレハ體量ノ單純的

(ロ) 生育



增加ニシテ無形ノ心性ニ就テ論スレハ心材ノ累進的增加ニ外ナラス此語ハ成長發生發育發達等ノ異譯アリ殊ニ發達ナル譯語ノ如キハ啓發ノ原語ナルでべるーぶめんと (Development) ト生育ノ原語ナルとるーん (Growth) トノ二者ニ通用スルノ弊ナキニ非ス甚キハ此二種ノ原語ヲ混同スル者アリ初學者ノ徒ラニ惑フ所ナリ吾輩ノ之ヲ辨明スル蓋シ益ナキニアラサルヘシ

(一) 特性

生育ニモ亦々固有ノ特性 (Peccuriality) アルト恰モ啓發ノ如シ之ヲ大別スレハ (イ) 増材 (ロ) 平易及ヒ (ハ) 敏速ノ三種トス

(イ) 増材

草木ノ幹枝及ヒ動物ノ筋骨ニ單純的増量アルガ如ク無形ノ心性モ亦々感官ノ外物ニ接スル毎ニ漸ク其識量ヲ添加ス是レ則チ感覺力(Sensation)、知覺力(Perception)等ノ上進スルニ從ヒ心裏ニ收得セル材料ヲ累積シテ能ク之ヲ把住シ及ヒ復發スルニ至ル所以ナリ幼時ハ外界ノ印象ニシテ興味アルモノ及ヒ簡單ナルモノヲ收累スルニ止マレリト雖田漸ク年處ヲ經歷スルニ從ヒ印象ノ無味復雜ナル者ヲモ容易ニ收得スルニ至ルベシ之ヲ約言スレハ増材(Accumulation)トハ記憶力(Memory)ノ上進セル結果ニ外ナラサルノミ

## (3) 平易

心裏ノ材料漸ク増加スルニ從ヒ其活動ノ平易ヲ加フルニ至ル事物ヲ思考シ若クハ想像スル等ノ如キ隨テ任意自在ナルニ至ルベシ之ヲ換言スレハ平易ハ各種ノ心力ニ洽及スル生育上ノ一特性ナリ縱令ヒ心材ノ増加スル丁アルモ其活動ノ平易ヲ得サル丁アレハ完全ナル生育ハ遂ニ望ム可ガテサルナリ平易(Facility)ハ實ニ活動上苦惱ナキ心況ナリト知ル可シ

## (は) 敏速

已ニ増材ト平易トノ二特性ヲ完備スルモ心意上ノ活動未タ敏速(Quickness)ノ妙ヲ得サルモ以テ完全ノ生育ト名ク可カラス各種ノ諸心力中殊ニ復發力(Reproduction)想像力(Imagination)思考力(Elaboration)等ノ如キ其活動ノ平易ヲ得

ルト共ニ其迅速ヲ要スル丁最モ大ナリ心裏ノ材料已ニ累加シテ其活動ノ自在ナルニ至ルモ苟モ迅速ノ一特性ヲ具有セサルハ心意ノ生育ハ恰モ鼎脚ノ一チ欠クニ均シキノミ

(ハ) 啓發及ヒ生育ノ結合

啓發(Development)ト生育(Growth)トハ其性狀全ク相異ナル所アリト雖モ相須テ心意ノ進化(Evolution)ヲ翼成スルニ大要因ナリ苟モ此二者ニ於テ其一チ欠キ又ハ偏重偏輕ナル丁アレハ完全ナル進化ハ得テ望ム可カラサルナリ猶是レ體量ノ増加スル丁アルモ筋骨ノ組織上ニ精微チ加フル丁ナケレバ身軀ノ進化ヲ全フセザルガ如シ即チ心意上ノ進化

ハ此二要因ノ完備チ得テ始メテ大成スルモノト知ル可シ

(7) 心意ノ究察法

腦髓ハ心意(Mind)ノ主官ナリト雖モ吾人ハ未タ其活動ノ現狀ヲ究察スルノ能力ヲ有セス況ンヤ之ガ作用ヨリ生スル無形ノ心意ニ至テハ視聽ヲ以テ其實體チ直認ス可カラス然リト雖モ其現象ヲ究査スルニ二様ノ方法アリ之チ各ケテ心理的究察法(Psychological Method)ト曰フ

(イ) 主觀法

心理的究察法ノ第一種チ各ケテ主觀法(Subjective Method)ト曰フ即チ外物ノ性狀ヲ知得シ若クハ之ニ由リテ苦樂チ感

覺スル所ノ心意ヲ主視スル方法ニシテ直接ノ查察ヲ行フ  
 モノナリ已ニ論述セル如ク吾人ハ心意ノ實體ヲ視聽スル  
 ナ得スト雖而現時若クハ其後數分時間ニ於テハ之ガ活動  
 ノ現狀ニ注意シテ自ラ能ク内界ノ現象ヲ直査スルヲ得ヘ  
 シ之ヲ例セハ忿恚恐怖等ノ如キ感動ノ發現スルニ方テ自  
 ラ能ク其性質原因等ヲ詳ニスルヲ得ルガ如キ是レナリ此  
 種ノ内界的觀察ハ一ツニ之ヲ名ケテ内省(Introspection)若ク  
 ハ内視(Looking Within)ト曰フ

(ロ)客觀法

客觀法(Objective Method)トハ外部ノ表徵ニ由リテ心意ノ現  
 象ヲ間接ニ考究スル方法ニシテ即チ心意ヲ客視スル所ノ

究察法ナリ之ヲ例セハ容貌、姿勢、言語行為等ニヨリテ感情、  
 意志、思考、動機等ヲ推知スルガ如キ是ナリ而シテ此法ハ吾  
 人ガ親接スル所ノ各人ニ就テ行フヲ得ヘキノミナラス間  
 接ニ傳記、評説等ニ由リテ知得セル各人ノ心狀ヲモ究察ス  
 ルヲ得ヘシ殊ニ兒童、野蠻人種、若クハ下等動物ノ如キハ此  
 法ヲ以テ其心狀ヲ究察シ易キノミナラス亦以テ大人ノ心  
 狀及ヒ其智度ヲ測知スルノ方便タラシムルヲ得ヘシ

(ハ)主觀及ヒ客觀ニ法ノ併用

前述ノ二法ハ共ニ特殊ノ效用ヲ具有セリト雖トモ決シテ  
 偏用ス可キモノニアラサルナリ夫レ理學的知識(Scientific  
 Knowledge)ナルモノハ確實、精細、及ヒ全通ノ三特性ヲ有セサ



ル可カラス是ヲ以テ心意上ニ關スル理學的知識ヲ得ント  
 欲セハ必ス此三特性ヲ兼有セサル可カラサルナリ是レ則  
 チ内界的究察法ナル主觀法ト外界的究察法ナル客觀法ト  
 相須テ全キヲ得サル可カラサル所以ナリ吾人ハ先ツ自己  
 ノ心狀ニ就テ直接ノ究察ヲ行ヒ然ル後チ他人ノ意志感情  
 思想等ヲ查察スルヲ要ス未タ爾カセスシテ皆ニ外部ノ表  
 徴ノミニ依靠シ以テ其心狀ヲ詳ニシ其現象ノ定則ヲ檢出  
 セント欲スルガ如キハ謬見ノ大ナルモノト謂フ可シ蓋シ  
 他人ノ外部ニ現出スル表徴ハ其真假未タ知ル可カラス唯  
 自己ノ心狀ヲ參考シテ始メテ之ガ外徴ト内相トノ關係ヲ  
 明ニス可キノミ然レモ專ラ自己ノ心狀ノミニ就テ注意考

究スルハ竟ニ偏査ノ謬坑ニ陥ルニ至ルヘシ故ニ必ス自  
 己ノ心狀ト他人ノ心狀トニ就テ精細ナル比較ヲ行フヲ要  
 ス而シテ其比較ノ區域廣愈大ナレハ其究査ノ成績ハ愈確  
 實ナルニ至ルヘシ  
 心意ノ性狀ヲ究察スルニハ主觀法ト客觀法トノ二種ヲ併  
 用スレハ復々遺憾ナキニ似タリト雖モ未タ之ヲ以テ全璧  
 ト爲ス可カラサルナリ何トナレハ自己及ヒ他人ノ心狀ヲ  
 究察スルニ方テ其四邊ニ伴隨セル形聲香色等ノ如キ注意  
 カヲ攪擾スヘキ妨害物ノ存在ナキヲ得ス斯ル場合ニ際シ  
 テハ如何ナル精練ノ心理學士ト雖モ必ス多少ノ困難ヲ免  
 レサルナリ故ニ預メ抽象力 (Abstraction) ヲ養成シテ能ク外

界ノ誘引ヲ制シ以テ專ラ内界陰微ノ事相ノミニ傾意セサル可カラサルナリ又々他人ノ心狀ヲ究察スルニ自己ノ實驗ノミヲ以テスルキハ往々推度ヲ誤ルヲナシトセス是レ亦々心理學士ノ宜シク注意スヘキ所ナリ之ヲ例セハ古代ノ國民若クハ野蠻人種ノ心狀ノ如キハ單ニ自己ノ實驗ト其外部ノ表徵ノミヲ以テ推知ス可キモノニアラス必ス之ニ基テ想像力(Imagination)ヲ活用シ以テ未知ノ内相ヲ認識セサル可カラサルナリ

サレー(Sully)モーズレー(Maudsley)等ノ心理的究察法ヲ論スル概乎上文ニ叙述スル所ニ異ナラスト雖モモーズレーハ客觀法ヲ名ケテ生理法(Physiological Method)ト曰ヒ其究察スヘ

キ要項ヲ列擧シテ

- (イ) 心意ノ啓發
- (ロ) 心意ノ廢壞
- (ハ) 傳記ノ研究
- (ニ) 歴史ノ研究

ノ四段トセリ即チ其啓發(Development)ヲ論スルニハ特ニ下等動物、野蠻人種及ヒ幼兒ノ心狀ニ基キ其廢壞(Degeneration)ヲ論スルニハ痴愚發狂等ノ諸狀ヲ察シ其傳記(Biography)ノ研究ニ就テハ名士大家ノ言行ヲ察シ併セテ其遺傳教育及ヒ境遇ヲ考ヘ其歴史(History)ノ研究ニ就テハ一國民タル人

心全體ノ進退ニ徴シテ心理學上ノ材料ヲ收蒐スヘキモノト爲シタリ

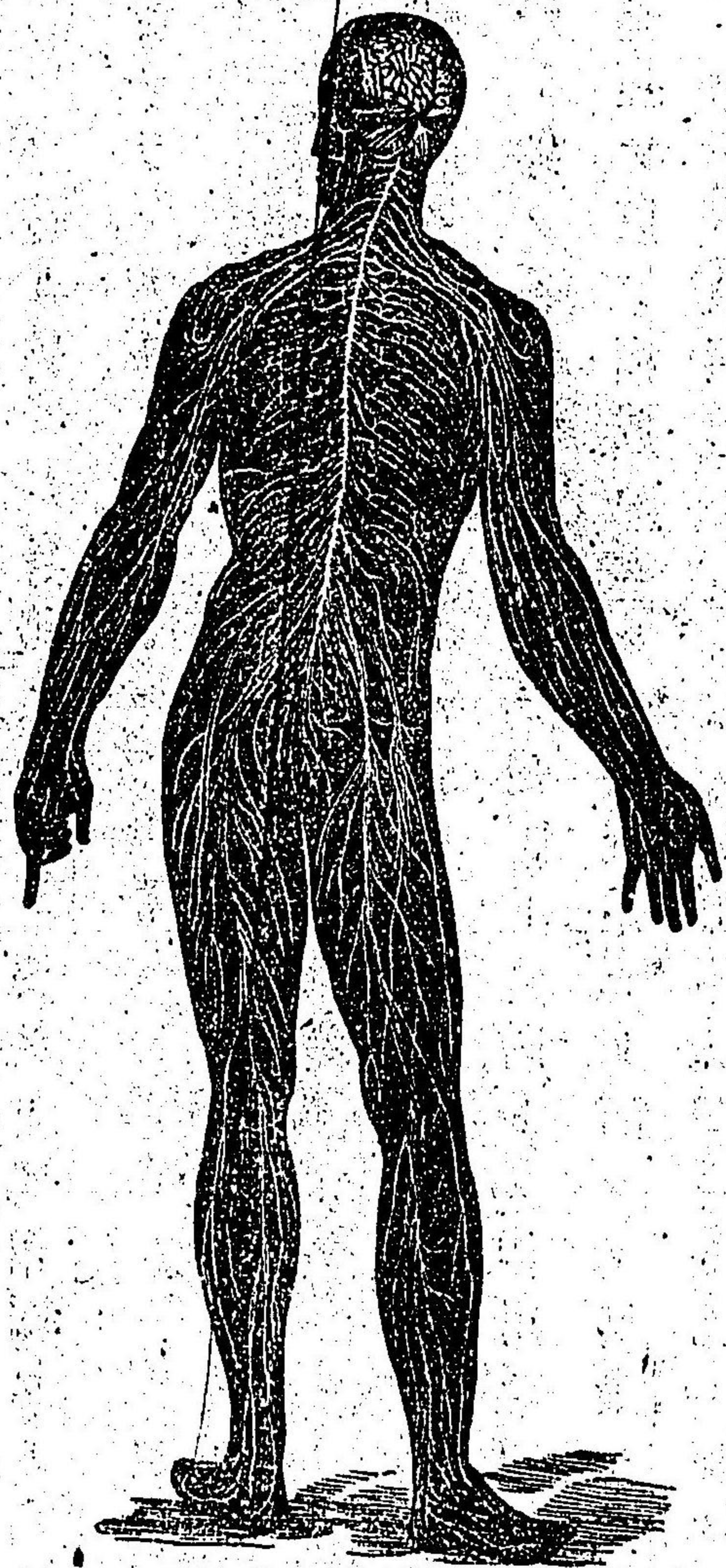
(8) 心身ノ關係

心意(Mind)ハ一種無形ノ靈能ニシテ身體(Body)ハ明白ナル一  
個ノ有形物ナリ故ニ其性狀全ク相反スルガ如シト雖其  
互相ノ關係ニ至テハ須臾モ相離ル可カラサルモノニシテ  
身體ノ健否ハ心意ノ銳鈍ニ影響シ心意上ノ激動ハ身體ノ  
機能上ニ反動スルヲ常トス身體ノ中ニ於テモ特ニ心意ノ  
活動上ニ直接ノ關係ヲ有スル腦髓(Brain)及ヒ脊髓(Spinal Co-  
lumn)ノ如キハ心意上ニ向テ最モ親密ナル關係ヲ有スル

モノト知ル可シ而シテ驚愕悲哀忿恚等ノ過激ナルガ爲ニ  
往々身體ノ健全ヲ害フ者アルハ世人ノ普ク知ル所ナリ心  
意ノ身體ニ於ケル身體ノ心意ニ於ケル其相關スル所形影  
音ナラサルナリ

(4) 神経系

神経系(Nervous System)トハ表皮毛髮外爪珙瑯質等ヲ除クノ  
外全身ノ各部ニ延及シテ受感ト發動トノ作用ヲ司ル所ノ  
神経ヲ以テ構成シタル一大統系ナリ而シテ其最モ重要ナ  
ル部分ハ腦髓(Brain)ニシテ脊髓(Spinal Column)之ニ亞ク今左  
ニ之ガ全圖ヲ掲ケテ讀者ノ會得ニ便ニス



圖全系經神

(口) 神經

神經(Nerve)トハ所謂ル神經震動(Nerve-Currents)ヲ傳達スヘキ

特能ヲ有スル一種ノ銀色線ニシテ一ツ  
 ニ之ヲ名ケテ神經纖維(Nerve-Fibers)ト曰  
 フ治ク神經系ノ各部ニ及達シテ腦髓脊  
 髓等ノ白質ヲ構成スルモノナリ而シテ  
 其構造ハ外鞘(External Sheath)髓鞘(Medullary Sheath)及ニ神經軸(Nerve-Axis)ノ三部ヨ  
 リ成ル外鞘ハ一種ノ透明ナル薄膜ニシ  
 テ髓鞘ハ白色ノ脂肪質ヲ以テ之ヲ構成  
 シ神經軸ト外鞘トノ中間ニ在リテ神經軸ヲ

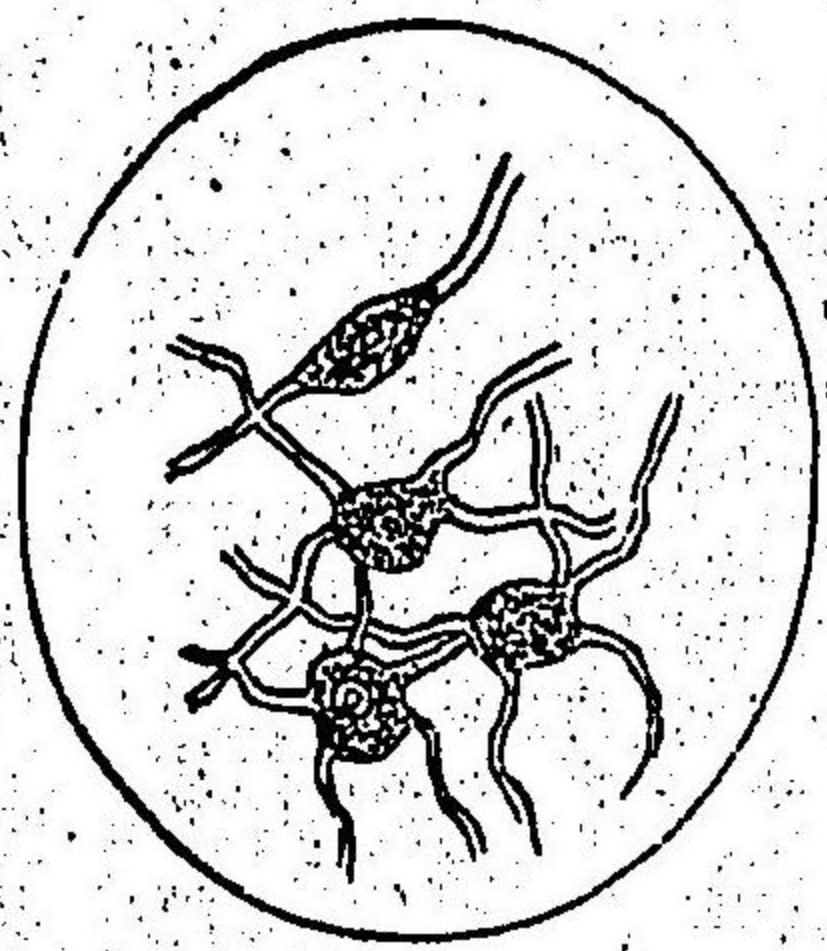
圖斷縱維織經神

百四  
保護スルノ機能ヲ有ス。軸ハ灰色の物質ノ細線ニシテ精  
微ナル纖維ヨリ成ルモノナリ。今普通ノ木製鉛筆ヲ把テ之  
ヲ例証スレバ其着色部ハ外鞘ニシテ其木邊ハ髓鞘ヲ代表  
シ其鉛心ハ經軸ノ位置ヲ占ムルモノト知ル可シ

(ハ) 神經細胞

神經細胞(Nerve-Cells)トハ粒狀の灰色質ヨリ成ル所ノ凝結體  
ニシテ其細微ナルヲ肉眼ヲ以テ睇視ス可カラス而シテ各  
胞ハ神經纖維ヲ以テ互ニ相聯結シ其性質最モ震動ヲ感シ  
易シ故ニ光線ノ視官ヲ刺衝シ音聲ノ耳底ヲ打ツ等ノ如キ  
外界的動力ノ激作ヲ受クルヲアレハ忽チ胞體中ニ分子的

變動ヲ生スルモノナリ即チ此種ノ激作ニ由リテ生スル所  
ノ意識的受感作用ヲ名ケテ感覺(Sensation)ト曰フ人腦中ニ  
在ル所ノ神經細胞ハ其數一萬億以上ニ及ヘリ

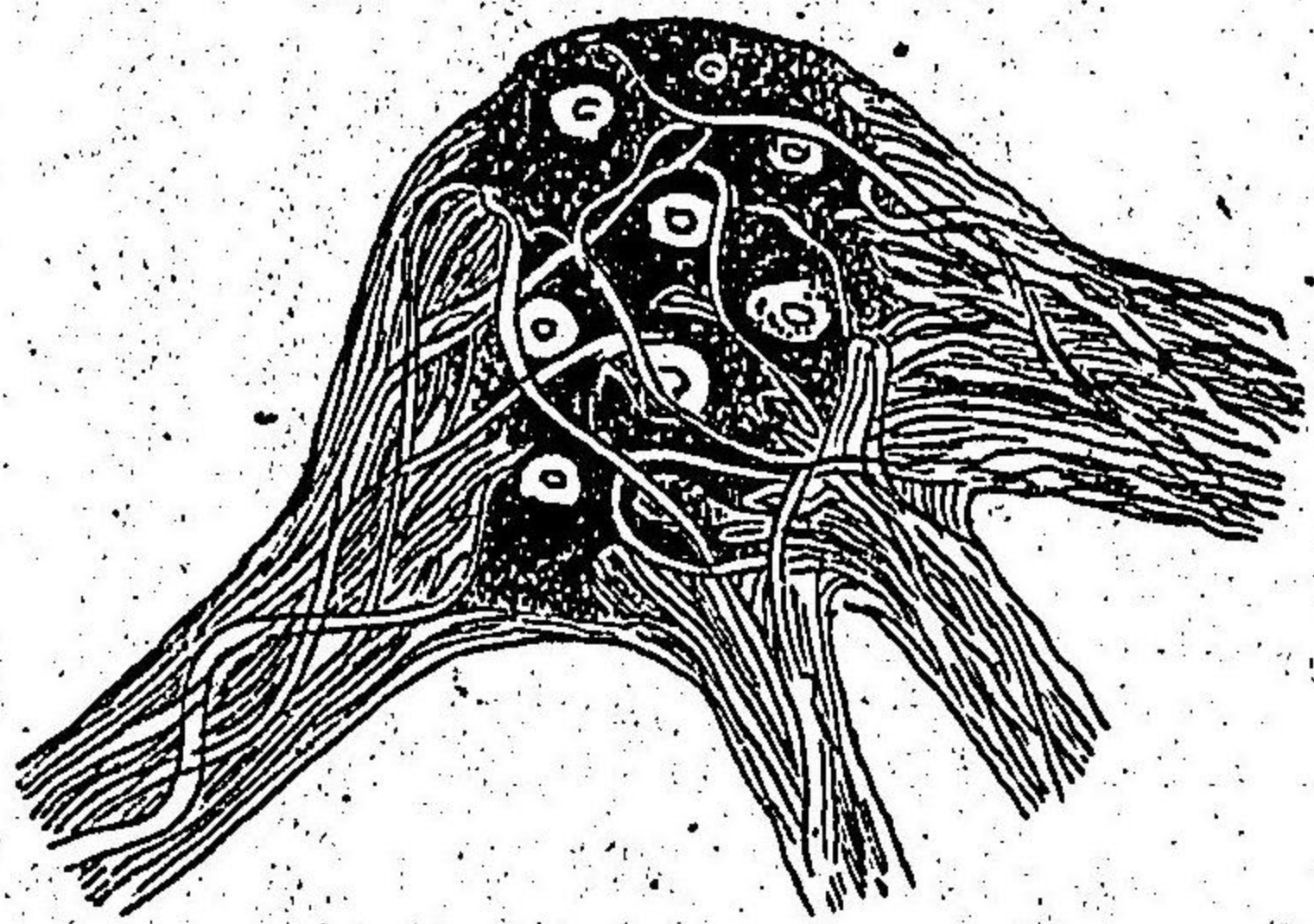


圖胞細經神

百五  
神經系ノ一部分タル髓ノミニ於テモ其個數ノ多キヲ已  
ニ斯クノ如シ今モシ神經系ノ全部ニ就テ之ヲ計算スレハ  
其夥多ナルヲ恒砂モ管ナラサルヲ知ルヘシ

(二) 神經叢會

神經叢會 (Ganglion) トハ神經纖維ヲ以テ聯結シタル神經細胞ノ聚合體ナリ一ツニ神經節ト名ケ又々單ニ神經叢ト稱ス而シテ各叢モ亦々神經纖維ニヨリテ互ニ相聯結シ腦髓中ニアル灰色質ノ如キハ數個ノ神經叢會ヲ以テ之レヲ構成ス



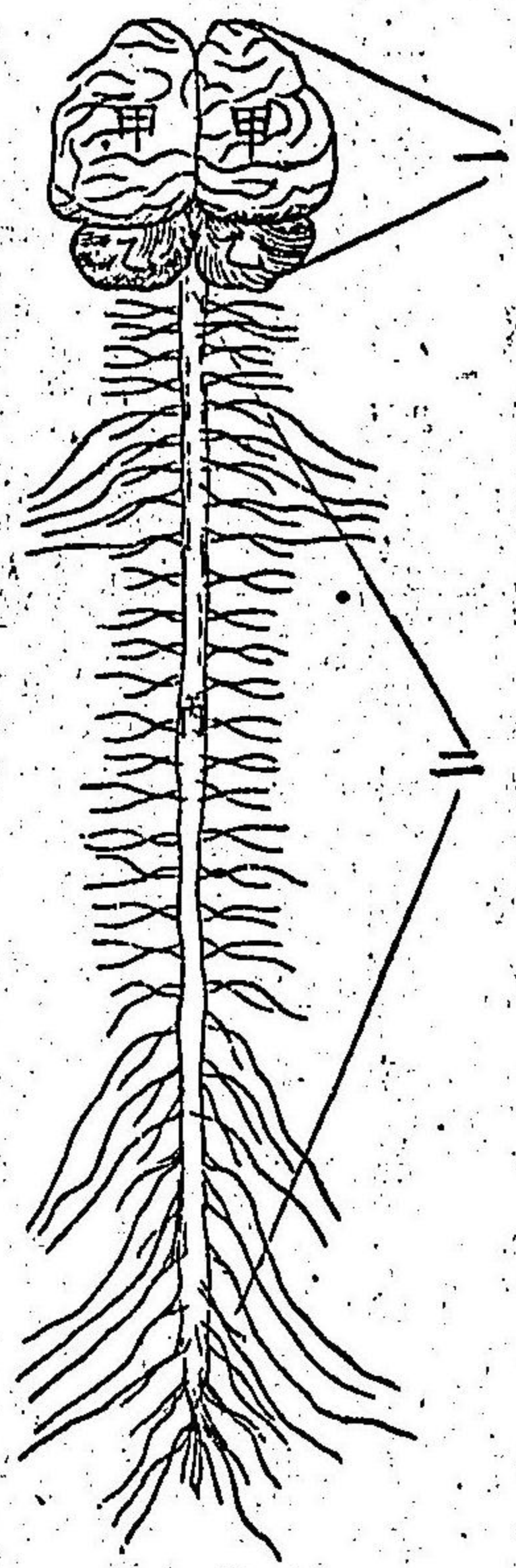
神經叢會ノ圖

心意ノ發動若クハ受感ノ如キ皆ナ此神經叢會ノ作用ニ由ルモノニシテ反應的受感神經叢會 (Reflex Sensor Ganglion) ハ

脊。髓。神。經。根。(Spinal-Nerve-Roots)及ヒ交。感。神。經。系。(Sympathetic System)ニ散在スルヲ見ルヘシ

(ホ) 神。經。中。樞

神。經。中。樞。(Nerve-Centres)トハ神。經。作用ヲ司ル所ノ本部ニシテ之ヲ分テ高。等。中。樞。(Higher Centre)及ヒ下。等。中。樞。(Lower Centre)ノ二種トス高。等。中。樞。ハ即チ腦。髓。(Brain)ニシテ受感、發意、及ヒ思考ノ三作用ヲ司リ下。等。中。樞。ハ即チ脊。髓。(Spinal Column)ニシテ反應及ヒ交感ノ二作用ヲ掌ルモノナリ



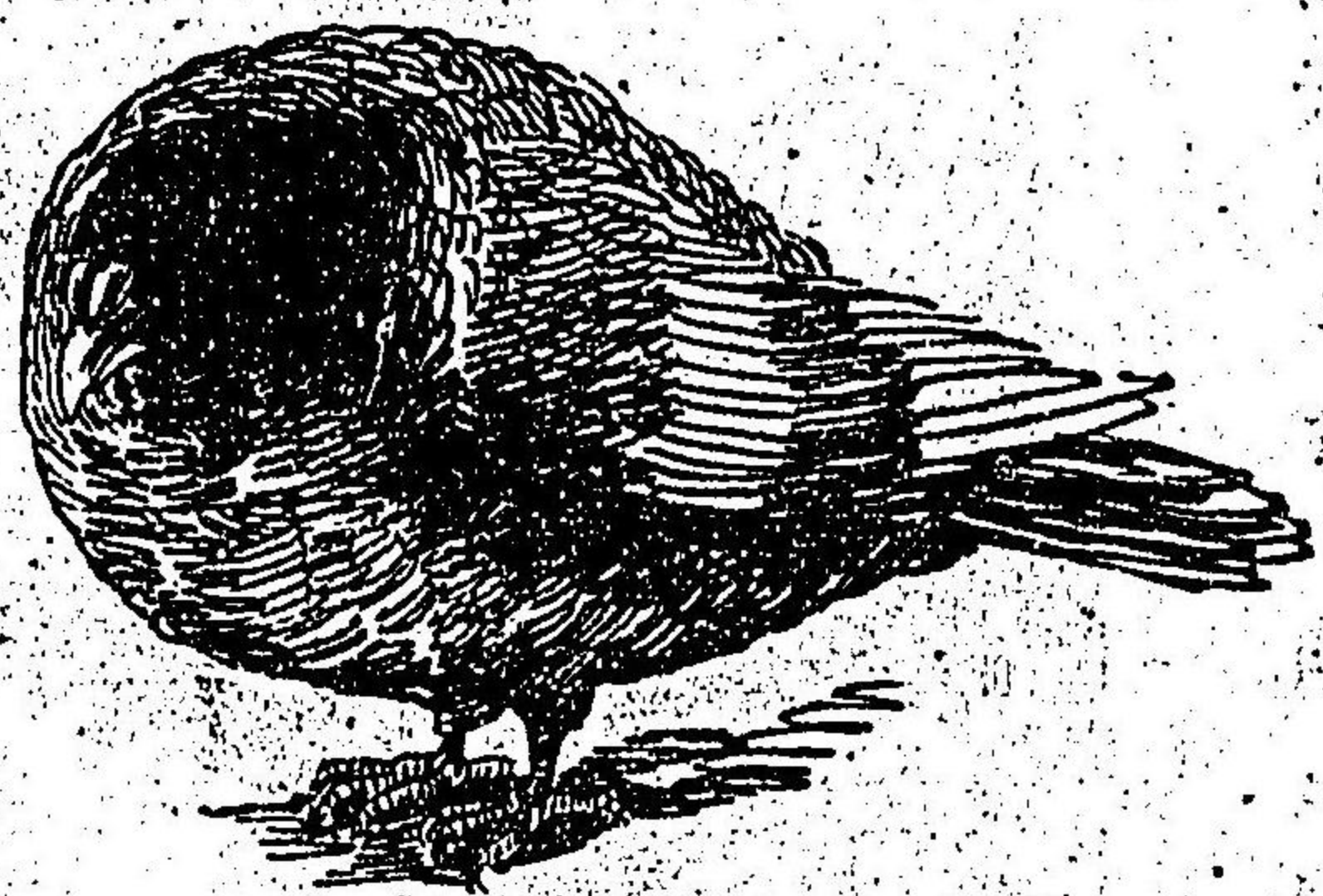
圖ノ樞中經神

此圖ハ神。經。中。樞ヲ背面ヨリ描寫シタルモノニシテ「一」ハ高。等。中。樞ヲ示シ「二」ハ下。等。中。樞ヲ表ハシタルナリ而シテ「甲」ハ大。腦。ニシテ「乙」ハ小。腦。「丙」ハ脊。髓。ナリ

(1) 腦。髓

高。等。中。樞タル腦。髓。(Brain)ハ心。意。(Mind)ノ在ル所ニシテ之ヲ分

テ大腦(Cerebrum)及ヒ小腦(Cerebellum)ノ二部トス大腦ハ感覺  
 及ヒ思考ノ局部ニシテ小腦ハ隨意筋ノ主動器ナリト云フ  
 之ヲ生理學(Physiology)上ヨリ論究スレハ大腦ハ蟠狀卵形ニ  
 シテ隆起線ノ兩半球ヨリ成リ頭腔ノ前部ト上部トヲ充實  
 シ其積量ハ全腦ノ八分七ヲ占メ其物質ハ白色纖維ノ大塊  
 ニシテ灰色質ソノ外部ヲ纏被シ白質ソノ中部ニ散點ス小  
 腦ハ拳大ノ一塊體ニシテ頭腔ノ後部ニ在リ平行セル小隆  
 起線ヨリ成ル其積量ハ全腦ノ八分一ニシテ其物質ハ灰白  
 二質ノ錯綜セルモノニシテ實ニ一種ノ奇觀ナリ  
 今モシ一羽ノ生鳩ヲ獲テ其大腦ヲ截去スルハ左圖ノ如  
 キ狀態ヲ呈シ目ヲ閉チ鉢ヲ脹ラシテ恰モ眠ルガ如ク之ヲ



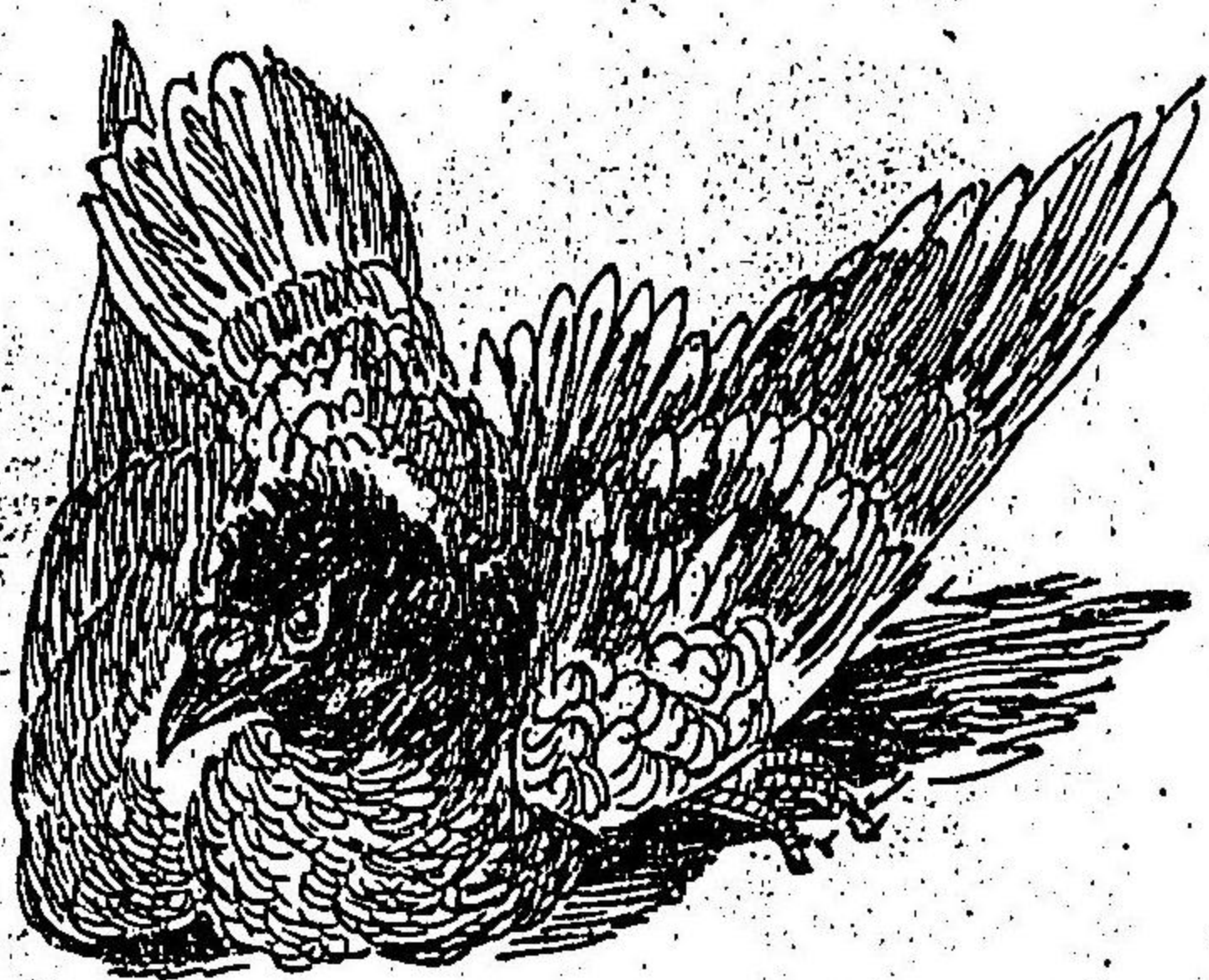
圖ルタニ去截ヲ腦大ノ鳩生

刺スモ痛痒ヲ感セス目前ニ白刃ヲ示スモ恍惚トシテ復々  
 其危難ヲ避クルコトヲ思ハサルモノ、如シ小腦ハ隨意筋ニ



下命シテ神經震動(Nerve-Current)ヲ生スル原器ナリ試ニ生鳩

百十二



圖ルタシ去截ヲ腦小ノ鳩生

ノ小腦ヲ截去スルハ明ニ目ヲ開キテ能ク外物ノ刺衝ニ

感スルノ表徵アルモ四肢意ノ如クナラスシテ之ヲ忌避ス  
ル能ハス抑モ人腦(Human Brain)ト鳩腦(Pigeon Brain)トハ果シ  
テ同一ノ作用ヲ有スルモノナルヤ否ニ至テハ未タ之ヲ證  
明スルノ方法ヲ檢出セスト雖モ人モ鳩モ均シク同一ノ有  
脊動物ナレハ鳩腦ヲ以テ立證スルヲ得ヘキモノハ亦以テ  
人腦ノ作用ヲ推度スルノ方便タラシム可シ是レ決シテ完  
全無欠ノ證明法ニアラスト雖モ第十九世紀ノ智度ヲ以テ  
他ニ優等ノ良法ヲ發見スル能ハサル以上ハ姑ラク之ニ憑  
據セサル可カラサルナリ百年ノ後チ或ハ生活セル人腦ニ  
就テ無難ノ實驗ヲ行ヒ得ルノ方法ヲ案出スル者ナキニシ  
モアラサルヘシ吾輩ハ樂テ將來ノ大發明ヲ待ツ者ナリ而

百十三

シテ腦髓神經(Cranial Nerves)即チ腦中ヨリ發スル所ノ神經  
ハ普通ノ分類法ニヨレ、其數總計十二對ニシテ

- |          |          |
|----------|----------|
| (a) 嗅覺神經 | (g) 顔面神經 |
| (b) 視覺神經 | (h) 聽覺神經 |
| (c) 滑車神經 | (i) 舌咽神經 |
| (d) 動眼神經 | (j) 迷走神經 |
| (e) 外旋神經 | (k) 副行神經 |
| (f) 三叉神經 | (l) 舌下神經 |

ヨリ成ルモノナリ學士ローヌ(Laws)ノ說ニ據レ、之ヲ分テ

腦髓神經(Cranial Nerves)

- |                                  |                                  |
|----------------------------------|----------------------------------|
| (一) 受感神經(Sensory Nerves)         | (二) 發動神經(Motor Nerves)           |
| (1) 嗅覺神經(Olfactory Nerve)        | (1) 動眼神經(Oculomotorious Nerve)   |
| (2) 視覺神經(Optic Nerve)            | (2) 滑車神經(Patheticus Nerve)       |
| (3) 三叉神經(Trifacial Nerve)        | (3) 放筋神經(Abducens Nerve)         |
| (4) 味覺神經(Gustatory Nerve)        | (4) V. 狀根根(Small Root of V)      |
| (5) 聽覺神經(Auditory Nerve)         | (5) 顔面神經(Facial Nerve)           |
| (6) 舌咽神經(Glossopharyngeal Nerve) | (6) 脊髓神經(Spinal Accessory Nerve) |
| (7) 呼吸神經(Pneumogastic Nerve)     | (7) 舌下神經(Hypoglossal Nerve)      |

ノ十四對トセリ乃チ茲ニ引録シテ讀者參考ノ一助ト爲ス

バルドウィン(Baldwin)ハ更ニ全腦ノ局部ヲ分畫シテ

(a) 下部神經中樞(Lower Nerve-Centres)

(b) 中部神經中樞(Middle Nerve-Centres)

(c) 高部神經中樞(Higher Nerve-Centres)

ノ三種ト爲ス下部神經中樞ハ延髓及ヒ小腦ニシテ交感并ニ發動ノ本源タリ中部神經中樞ハ延髓ノ上端ニ在ル各種ノ神經叢會ニシテ受感及ヒ發動ノ要路ニ當リ恰モ電信中央局ノ機能ヲ有シテ感覺及ヒ意思ノ存スル所ナリ高部神經中樞ハ大腦ニシテ靈魂ノ在ル所心物ノ相會接スル所ナリ而シテ又々大腦中ニアル神經叢會ノ機能ヲ彙類シテ

(a) 受感的神經叢會(Sensor Ganglia)

(b) 智力的神經叢會(Intellective Ganglia)

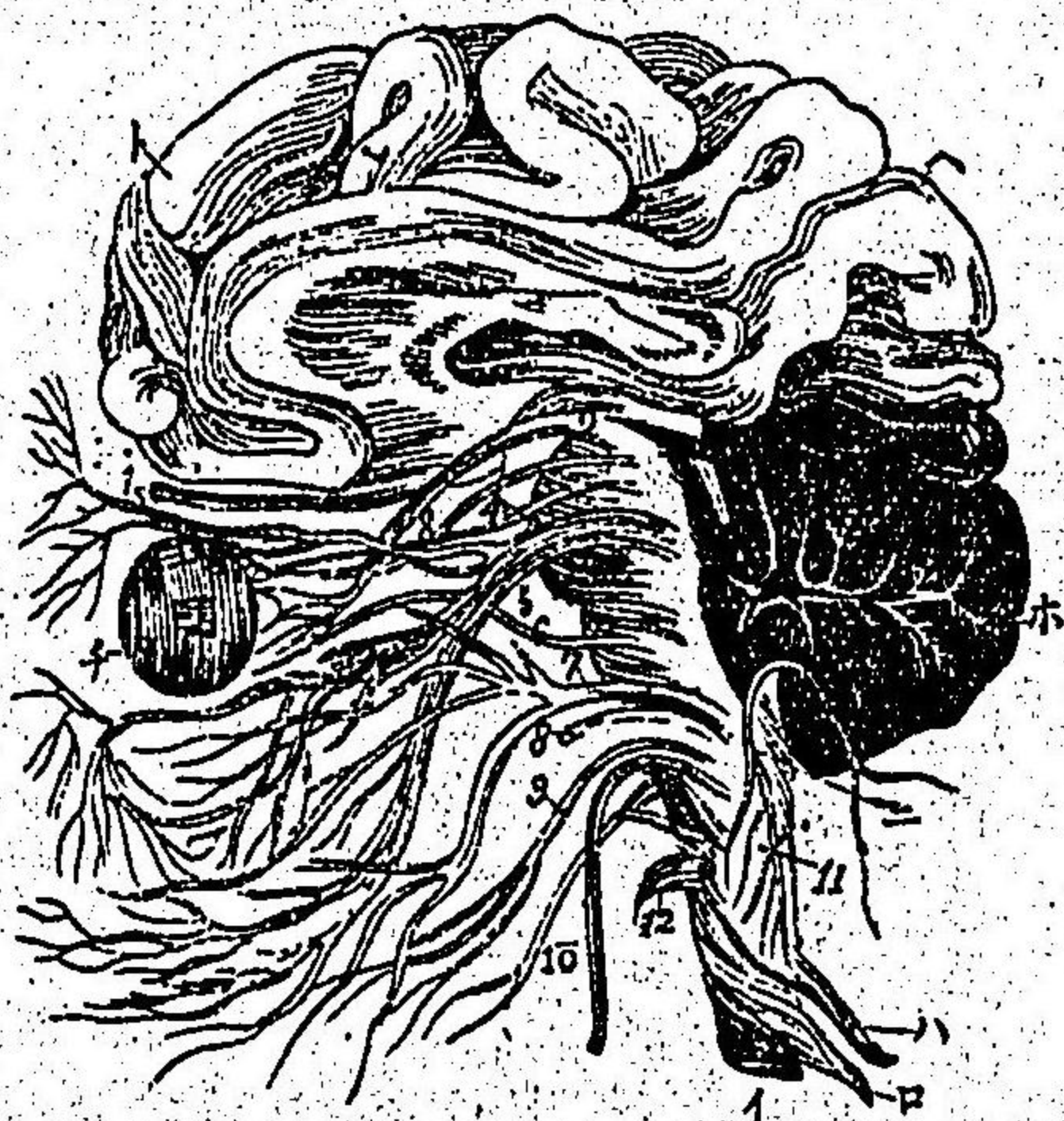
(c) 感動的神經叢會(Emotive Ganglia)

(d) 發動的神經叢會(Motor Ganglia)

ノ四種ト爲ス受感的神經叢會ハ感波ノ激作ニ由リテ感覺(Sensation)ヲ生スル局部ニシテ智力的神經叢會ハ知得作用(Knowing)ト關係ヲ有スル局部ナリ而シテ感動的神經叢會ハ感情(Feeling)ノ活動ニ關スル局部ニシテ發動的神經叢會ハ發意(Volition)ノ起程ナリ

(2) 脊髓

下等中樞タル脊髓(Spinal Column)ハ反應及ヒ交感ノ二作用

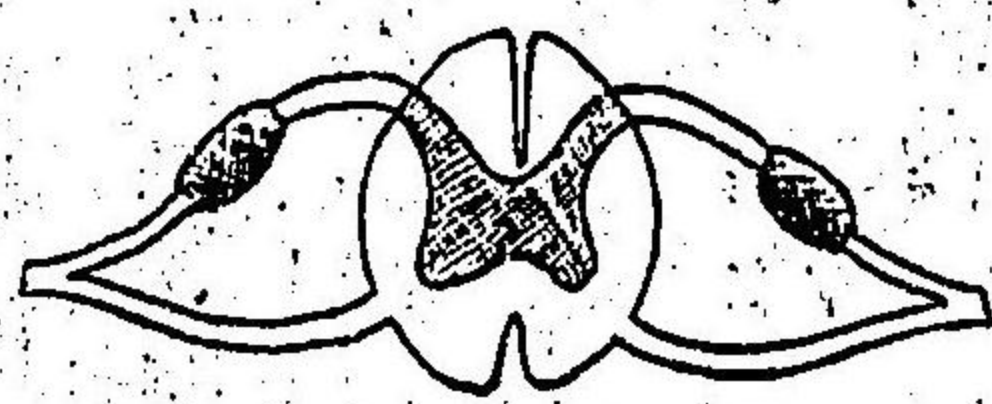


圖全經神髓腦

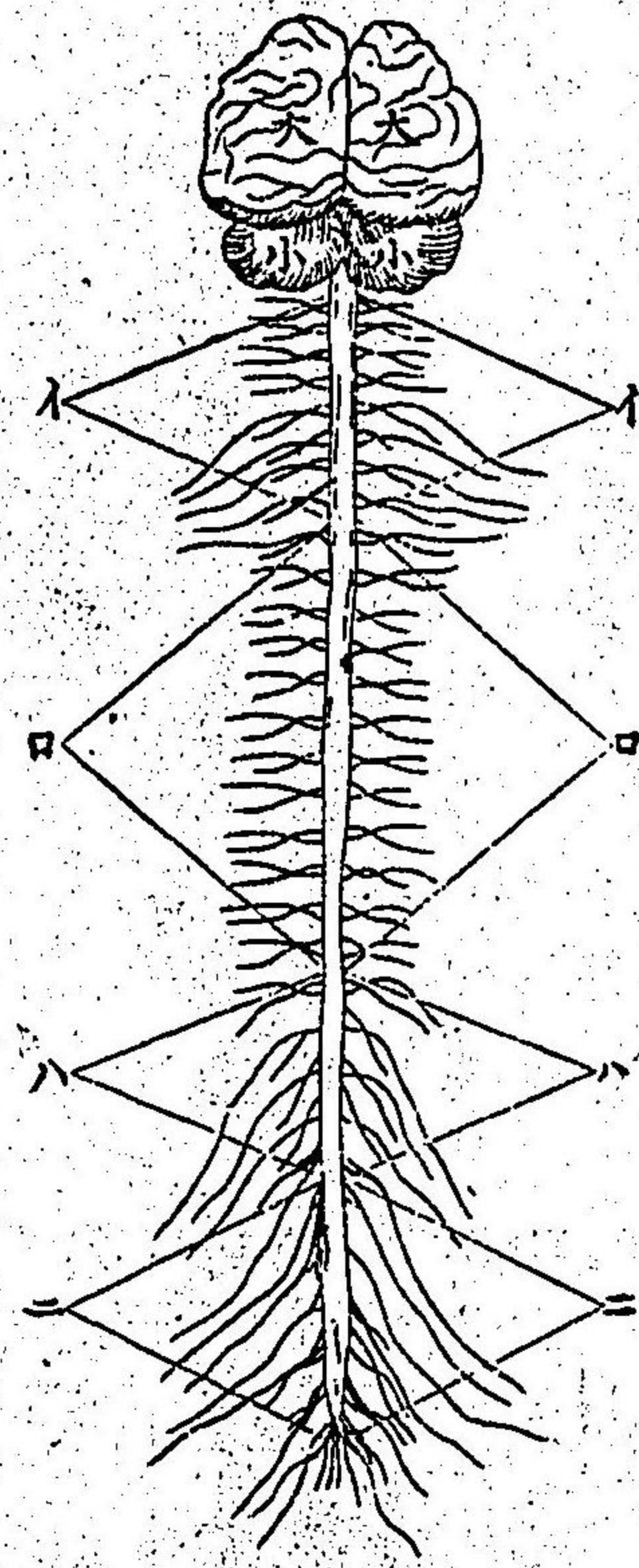
- (1) 嗅覺神經即第一對腦髓神經
  - (2) 視覺神經即第二對腦髓神經
  - (3) 滑車神經即第三對腦髓神經
  - (4) 動眼神經即第四對腦髓神經
  - (5) 三叉神經即第五對腦髓神經
  - (6) 外旋神經即第六對腦髓神經
  - (7) 顏面神經即第七對腦髓神經
  - (8) 聽覺神經即第八對腦髓神經
  - (9) 舌咽神經即第九對腦髓神經
  - (10) 迷走神經即第十對腦髓神經
  - (11) 副行神經即第十一對腦髓神經
  - (12) 舌下神經即第十二對腦髓神經
- 「ホ」ハ小腦  
「チ」ハ眼球  
「ニ」ハ延髓  
「イ」ハ脊髓  
「ハ」ハ第一對脊髓神經  
「ロ」ハ第二對脊髓神經

本圖ノ上部ニ示ス所ノ起根ハ受感根(Sensory Root)ニシテ其

チ司ル主局ニシテ兼テ受感及ヒ發動ノ要路ニ當ルモノナ  
リ其形狀彎曲シテ一種ノ圓柱體ヲ成シ脊骨ノ空洞中ニ在  
リ其物質ハ腦髓ニ均シト雖モ白質外部ニ在リテ灰色質内  
部ニ在リ



圖ノ斷横髓脊



脊。髓。神。經。全。圖

- 「一」ハ頸部神經即チ左右各八對
- 「二」ハ背部神經即チ左右各十二對
- 「三」ハ腰部神經即チ左右各五對
- 「四」ハ薦骨部神經即チ左右各六對

中道ニ隆起セル球狀體ハ一種ノ神經叢會(Ganglion)ナリ即チ此起根ハ外界ヨリ受クル所ノ感覺ヲ高等中樞ニ傳達スル導線ニシテ其背後ニ在ルノ故ヲ以テ一ツニ之レヲ後根(Posterior Root)ト名ク而シテ其下部ニ示ス所ノ起根ハ發動根(Motor Root)ニシテ高等中樞ヨリ心意ノ命令ヲ四肢諸官ニ傳下スヘキ媒路ナリ其位置脊髓ノ前面ニ在ルヲ以テ一ツニ之ヲ名ケテ前根(Anterior Root)ト曰フ此二根相合シテ所謂脊髓神經根(Spinal Nerve-Roots)ヲ構成ス脊髓神經(Spinal Nerves)即チ脊骨ノ左右ニアル細孔ヨリ發スル所ノ神經ハ其數總計三十一對ニシテ

(a) 頸部神經——八對

ヨリ成立スルモノナリ

(b) 背。部。神。經。——十二對

(c) 腰。部。神。經。——五對

(d) 薦。骨。部。神。經。——六對

(一) 神。經。作。用。

(1) 本。性。

神。經。作。用(Nervous Action)トハ神經機能ノ活動ニシテ今ナホ其本性(Nature)ヲ究明スル能ハスト雖田サレト、ペイン、モトツレト、リンド子ル等ノ如キ近世著名ナル心理學者ノ説ニ從ヘハ一種ノ震動性ヲ有スル細微的分子ノ活動ニシテ其

何故ナリ  
 各知リ  
 三ノ人  
 天  
 和ノ  
 和ノ

増衍及達スル丁恰モ温熱及ヒ電氣ノ震動スルガ如キモノナルヘシト云フ

神。經。中。樞ハ神經的元力ノ倉庫ニシテ所謂ル神。經。作。用。ナル者ハ激作ノ勢力ヲ有スル者ナリ而シテ此作用ノ原動者アリ之ヲ名ケテ神。經。放。出(Nervous Discharge)ト曰フ即チ豫メ潜伏貯藏シタル元力ヲ放縱スル者ナリ是レ蓋シ腦髓中ニ生スル一種ノ化學的變化ニシテ血中ニアル酸素ノ化合ニ由リテ現生スル分壤ニ基因スルナラン果シテ然ラハ已ニ其元力ヲ放消スレハ隨テ滋養分ヲ以テ之ヲ修補シ腦髓ノ有機質ヲ構成シテ更ニ第二ノ元力ヲ潛藏スル者ナルベシサレトハ此状態ヲ解説スルニ並列シタル一聯ノ鍊瓦ヲ以

テセリ此比喩ニ從ヘハ其第一位ニアル一片ヲ微撞スル片ハ各片順次ソノ撃力ヲ傳加シ終ニ全聯チシテ盡ク倒覆スルニ至ラシムヘシ初メ吾人ガ筋力ヲ用ヒテ此瓦片ヲ並列シタル行爲ハ變移シテ潜伏セル強大ノ元力ニ化ス即チ其瓦片ノ恒固チラスシテ動モスレハ倒覆セントスルノ傾向アルモノ是レナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ腦髓ヲ構成セル有機質ハ破壊シ易ク恒固ノ性ナキ一種ノ結成體ニシテ元力ノ貯藏器タルノミナラス各部ノ神經的原質モ亦々常ニ破壊ト更成トノ二途ヲ免レサルヲ知ルヘシ

(2) 種別

神經作用ハ之ヲ大別シテ受感作用(Sensory Action)及ヒ發動

作用(Motor Action)ノ二種トス

(1) 受感作用

受感作用トハ各官ニ固有セル神經ノ末端ガ外物ニ觸レテ其勢力ヲ内部ノ心意ニ傳達スル作用ナリ此ノキ受感神經(Sensory Nerves)中ニ一種ノ内受的震動(Inward Vibration)ヲ生ス之ヲ名ケテ感波(Sensor Waves)ト曰フ而シテ此受感作用ハ更ニ之ヲ小別シテ外感作用(External Action)ト内感作用(Internal Action)トノ二種トス(1) 外感作用トハ味覺嗅覺觸覺聽覺及ヒ視覺ノ各官ニ固有セル神經末端ガ身體ノ外部ニ在リテ外物ノ勢力ナル外界的動力(External Agency)ナルモノヲ直接ニ感受スル作用ナリ舌頭ノ砂糖ニ觸レテ甘味ヲ覺

ニルガ如キ是レナリ即チ砂糖ナル一種ノ外物ガ舌頭ニ在  
 ル味覺神經ノ末端ヲ刺激シ受感神經ト下等中樞トヲ經テ  
 其感波ヲ高等中樞ニ傳ヘ以テ甘味ナル一種ノ感覺(consa-  
 tion)ヲ心裏ニ生スルナリ其他嗅觸聽視ノ四官モ其受感ノ  
 歷程ハ之ニ異ナルヲナシ(2)内感作用トハ身體ノ内部ニ  
 在ル各官ノ神經末端ガ外感作用ヲ經テ然ル後チ外物ノ勢  
 カヲ間接ニ感受スル作用ナリ肺臟ニ於テ空氣ヲ呼吸シ腸  
 胃ニ於テ食物ヲ消化スルル其物質ノ良否ニ因リテ一種ノ  
 苦樂ヲ感スルガ如キ是レナリ空氣ノ清汚ハ肺臟ニアラサ  
 レハ感受ス可カラスト雖モ一個ノ外感作用ナル嗅覺ヲ經  
 過スルニアラサレハ直接ニ其勢力ヲ感知ス可カラサルナ

リ食物ノ消化的效驗ハ腸胃ニアラサレハ固ヨリ其勢力ヲ  
 感受ス可カラスト雖モ一旦味覺ナル外感作用ヲ經ルニア  
 ラサレハ直接ニ其固有ノ受感ヲ全フス可カラサルナリ其  
 他血行筋肉等ノ諸感ミナ總テ此部類ニ屬ス今コノ内外二  
 種ノ作用ニ就テ各ソノ受感ノ歷程ヲ列記スレハ

受感歷程表

外		物體	内	機	心意
		動力			
發香體	含味體	諸味	味	官	官
香氣	諸味	味	味覺神經	下等中樞	高等中樞
嗅	官	官	味覺神經	下等中樞	高等中樞
官	官	官	嗅覺神經	下等中樞	高等中樞
嗅覺神經	下等中樞	高等中樞	味覺	味覺	味覺



感			内			感		
滋養體	空氣	發溫體	滋養體	諸物體	重量體	發光體	發音體	發溫體
諸味	養力	溫熱	諸味	諸力	重力	光線	音響	溫熱
味官	嗅官	觸官	味官	諸官	觸官	視官	聽官	觸官
神經	嗅覺	觸覺	味覺	各種神經	觸覺	官	官	官
腸胃	肺臟	筋骨	血管	系神經	筋肉	視覺神經	聽覺神經	觸覺神經
養溝	肺部	神經	滋感	感波	重感	神經	神經	神經
下等中樞	下等中樞	下等中樞	下等中樞	下等中樞	下等中樞	下等中樞	下等中樞	下等中樞
高等中樞	高等中樞	高等中樞	高等中樞	高等中樞	高等中樞	高等中樞	高等中樞	高等中樞
消化感	呼吸感	冷熱感	滋養感	神經感	重量感	視覺	聽覺	觸覺

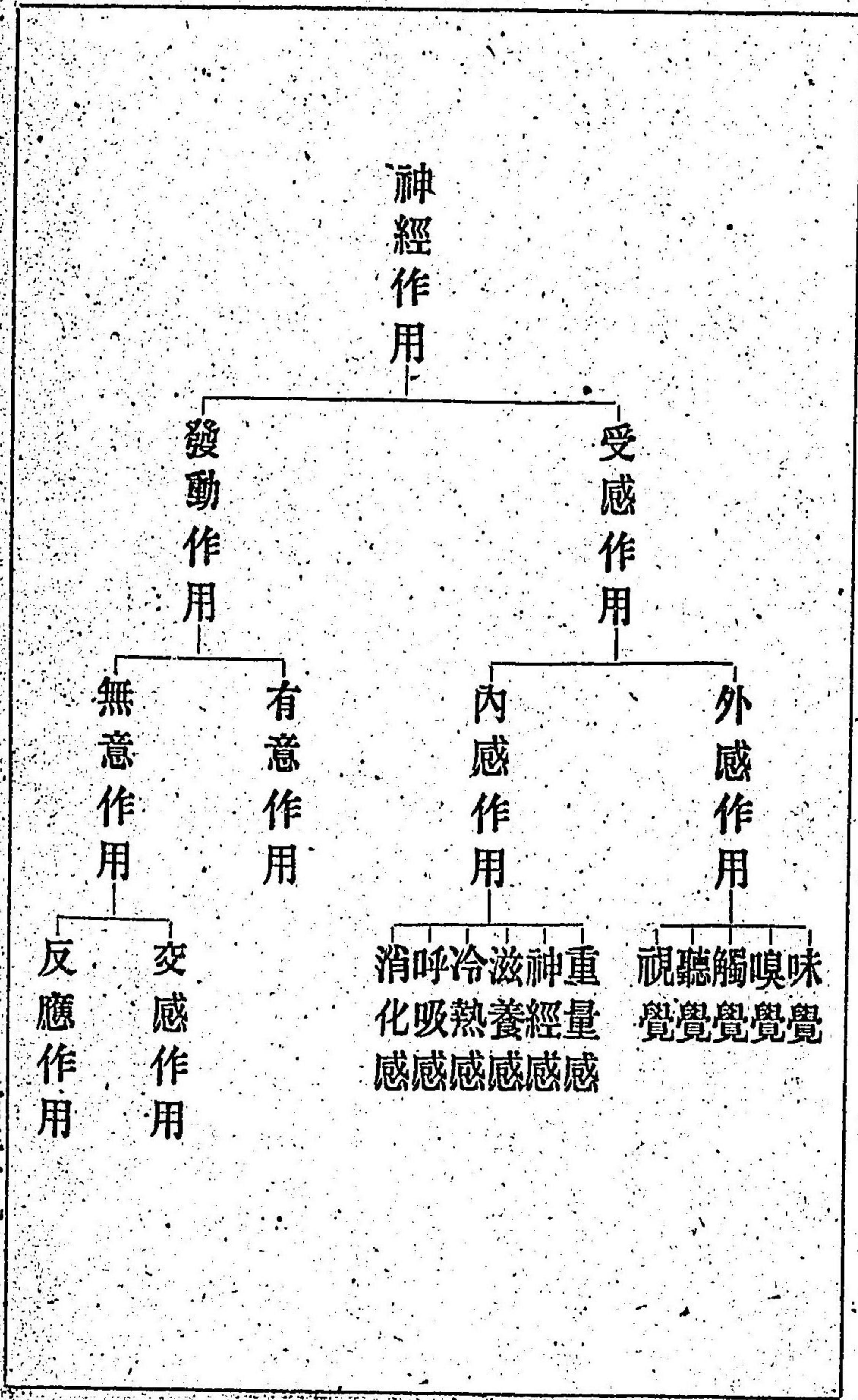
ノ如キ順序ヲ以テ各種ノ勢力ヲ腦髓ニ傳達シ以テ心裏ニ  
 感<sup>○</sup>覺<sup>○</sup>(Sensation)ナル現象ヲ生スルニ至ルナリ但シ此表中ニ  
 アル内<sup>○</sup>界<sup>○</sup>ト外<sup>○</sup>界<sup>○</sup>ノ區別ハ自己ト外<sup>○</sup>物<sup>○</sup>トヲ以テシタル者ナ  
 リ故ニ心意ト物體トヲ以テ内<sup>○</sup>界<sup>○</sup>即チ心界及ヒ外<sup>○</sup>界<sup>○</sup>即チ物  
 界<sup>○</sup>ノ二種ニ區分シタル場合ノ如ク官機<sup>○</sup>神經<sup>○</sup>等ノ如キ有形  
 體<sup>○</sup>ヲ外<sup>○</sup>界<sup>○</sup>中ニ編入セサルナリ讀ム者惑フ<sup>○</sup>勿<sup>○</sup>レ

(3) 發動作

發<sup>○</sup>動<sup>○</sup>作<sup>○</sup>用<sup>○</sup>トハ正ニ前者ト反對ノ方向ヲ取ルモノニシテ之  
 チ小別シテ有意<sup>○</sup>作<sup>○</sup>用<sup>○</sup>(Voluntary Action)ト無意<sup>○</sup>作<sup>○</sup>用<sup>○</sup>(Involuntary  
 Action)トノ二種トス有意<sup>○</sup>作<sup>○</sup>用<sup>○</sup>トハ心裏ニ生シタル意志ヲ身  
 體ノ各部ニ傳下スル作用ニシテ步行セント欲シテ脚部ヲ

活動シ把握セント欲シテ手腕ヲ活動セシムルガ如キ是レナリ而シテ無意作用トハ身體ノ各部ヲ活動セシムルノ一事ニ至テハ前者ニ異ナル所ナシト雖モ本來心意ノ命令ヲ待タスシテ獨リ自ラ發スル作用ナリ更ニ之ヲ細別シテ交感作用(Sympathic Action)及ヒ反應作用(Reflex Action)ノ二種トス交感作用トハ某部ニ疼痛ヲ生スルキ他ノ局部ニ向テ一種ノ轉痛ヲ惹起スルノ類ニシテ反應作用トハ直ニ外物ノ刺激ヲ下等中樞ヨリ排拒スル作用ナリ即チ全ク高等中樞タル心意ノ關知セサル所ニシテ咳嗽、嚏噴、欠伸、瞬膜等ノ如キ是レナリ

神經作用ヲ畧說スル斯クノ如シ今ソノ種別ヲ表記スレハ



ノ如キ結果ヲ生スヘシ

(9) 體慾及ヒ本能

凡ソ心意ノ作用ハ外界ノ實驗以外ニ生スルモノニアラス  
其然ル所以ノ原理ハ已ニ論明セル所ノ如シ然ルニ茲ニ心  
理學上ニ於テ尙ホ疑點ノ今日ニ存在スルモノハ體慾(Appe-  
tites)及ヒ本能(Instinct)ノ二者ナリ此二者ハ其發作ノ性狀恰  
モ一種ノ生知作用ノ如ク未タ一回ノ實驗ヲモ經サルニ獨  
リ自ラ生スルモノニシテ即チ徵驗心理學上ノ一例外タル  
觀ナキニアラス是レ從來生知論派ノ最モ得意トスル所ニ  
シテ徵驗論派ノ最モ弱點タリシ所ナリ然レドモ詳ニ其起

源ヲ溯究スレハ生知論派ノ得色ハ一場ノ夢幻ニ屬シテ徵  
驗論派ノ立論ハ却テ益ソノ根基ヲ固フスルヲ見ルニ至ル  
ヘシ

(甲) 體慾

(イ) 定義

體慾(Appetites)トハ身體ノ構成上ヨリ未驗ノ事物ニ向テ自  
然ニ生スル慾望ニシテ彼ノ物慾(Desires)ノ如ク各自ノ實驗  
上ヨリ出テタル慾念ニアラス物慾トハ名慾利慾權慾優慾  
知慾交慾等ノ如ク一旦社交上ノ經歷ニ由リテ名譽利益權  
勢等ノ眞味ヲ試嘗シタルヨリ生スル慾望ニシテ孤立獨在  
ノ人ニ在リテハ縱令ヒ幾百年ヲ閱スト雖田決シテ生スル

丁ナキモノナリ或ハ絶對的孤立ノ人ニアラサルモ全ク其  
 一事若クハ數事ニ就テ未タ一回ダモ實驗スル丁ナキ者ハ  
 毫モ之ニ向テ慾望ヲ生スル丁ナシ之ヲ例セハ下等社會ノ  
 小民ハ名譽ノ快樂ヲ知ラサルガ故ニ曾テ各慾ノ胸間ニ往  
 來スルヲ見スト雖モ利益ノ一點ニ至テハ已ニ多少ノ閱歷  
 アルヲ以テ如何ナル文盲ノ徒モ必ス其心裏ニ利慾ノ願念  
 ナ包藏セサル丁ナシ是レ普通ノ物慾ハ必ス實驗ニ基クモ  
 ノニシテ後天ノ性質ヲ有スル所以ナリ然ルニ體慾ニ至テ  
 ハ其性狀全ク之ニ反シ未タ一回ノ實驗ヲ經スシテ生スル  
 一種先天ノ慾望ニシテ食慾、飲慾、眠慾、勞慾、逸慾、嬉慾等ノ如  
 キ是ナリ此等ノ諸慾ハ前類ノ實驗ト身體ノ有機作用トニ

由テ生スル者ニシテ其勢力ハ却テ各自ノ實驗上直接ニ生  
 スル所ノ物慾ヨリモ大ナリ凡ソ動物ノ此世ニ生ル、ヤ未  
 タ一回ノ實驗ヲ經サルニ必ス先ツ食物飲料等ヲ欲スルノ  
 念ヲ生ス是レ生知論派ノ資テ以テ心意ノ靈妙ヲ説ク所以  
 ナリ然レモ體慾ナルモノハ皮相上ニ於テハ一種先天ノ性  
 質ヲ有スルカ如クナレモ其實ニ至テハ前族ノ實驗ヲ遺傳  
 セルモノニシテ固ヨリ全然實驗ノ範圍ヲ脱シタル者ニア  
 ラズ唯ソノ實驗ノ直接ナラサルノミ飲食、睡眠、勞動、靜逸、嬉  
 接等ノ如キ若シ前族ノ實驗ナカリセハ縱令ヒ體機ノ作用  
 アリト雖モ之ヲ生スルニ由ナシ之ヲ臆說スレハ前述ノ諸  
 慾ニシテ獨リ現族ノ專有シテ前族ノ發現セサル者アルヲ

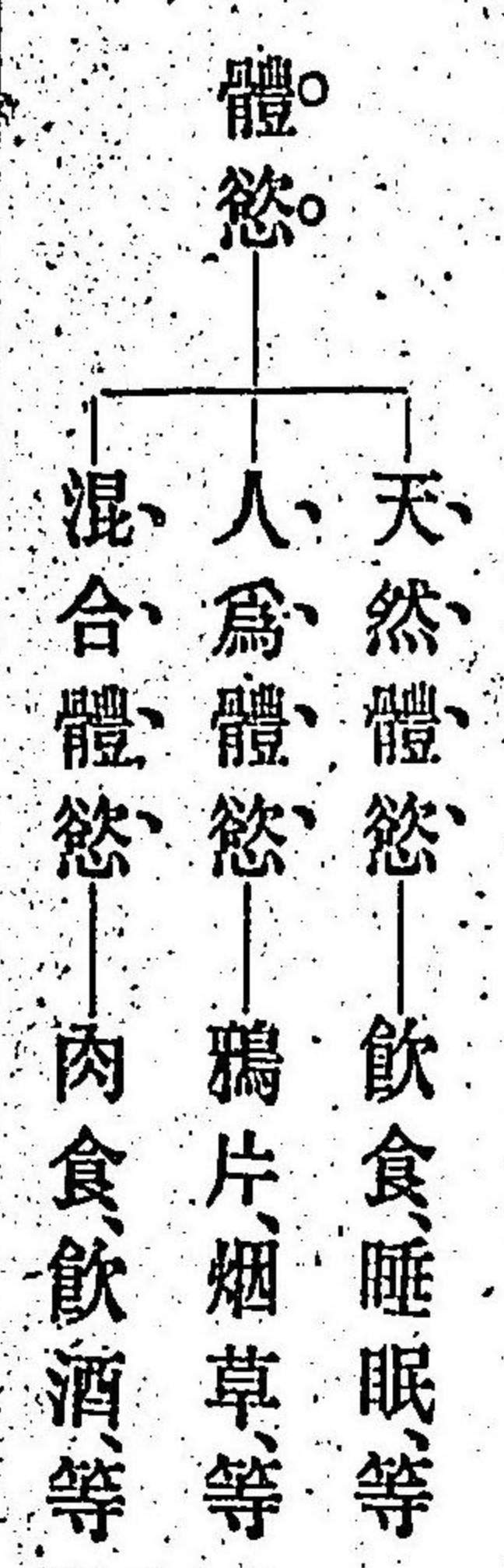
見サレバナリ之ヲ要スルニ體慾ト曰ヒ物慾ト曰フモ均シク生類ノ實驗上ヨリ來タル者ニシテ唯ソノ起源ノ直接ナルト間接ナルトノ別アルノミ果シテ然ラハ從來生知論派ガ因テ以テ徵驗論派ヲ攻撃スヘキ無二ノ武器ト爲シタル此弱點モ却テ終ニ徵驗論派ノ論據ヲ固フスルノ媒介タルニ至リシハ實ニ學問界ノ一奇觀ト謂フ可キナリ蓋シ體慾ナルモノハ各自直接ノ實驗ヨリ生セサルモ前族累代ノ實驗ヲ間接ニ遺傳シタル結果ナルヲ以テ夫ノ心意作用ノ一種ナル體慾ハ全ク肉體ノ實驗ニ因縁ナクシテ純乎タル心意ノ獨立作用ナリト妄信シタル謬見ハ竟ニ之ニ因テ其背理的空想ナルヲ証明スルニ至リタレバナリ

(口)種別

體慾ノ定義性狀及ヒ其物慾トノ區別ハ大略前述ノ如シト雖モバルドウソノ如キハ之ヲ類別シテ天然體慾(Natural Appetites)ト人爲體慾(Artificial Appetites)トノ二種トス天然體慾トハ食慾眠慾等ノ如ク全ク前族ノ實驗ニ出テ、毫モ各自直接ノ實驗ニ關係ナキモノナリ然ルニ人爲體慾ナルモノハ全ク各自ノ實驗ヨリ生スルヲ恰モ物慾ニ似タル所アリト雖モ其制止ス可カラサルノ一點ニ於テハ正ニ體慾ト性狀ヲ同フスル所アリ鴉片酒精烟草等ニ關スル慾念ノ如キ是レナリ此種ノ諸慾ハ固ヨリ生レナカラニシテ獨リ自ラ知ルモノニアラスト雖モ一朝ソノ妙味ニ接シテ漸ク其嗜

好ヲ昂進セシムルキハ到底制止ス可カラサルニ至ルヘシ  
 故ニ若シ強テ之ヲ抑制スルキハ却テ之ガ爲ニ健康上ノ劇  
 變ヲ來タシテ終ニ其生命ヲ危フスルニ至ルト無シトセス  
 恰モ其結果ノ絶食、廢眠等ヨリ來タルト同一般ニシテ其起  
 源ノ全ク各自直接ノ實驗ニ出ツルヲ以テ之ニ命スルニ人  
 爲體慾ノ名ヲ以テシタルナリ  
 然レモ吾輩ノ見ル所ヲ以テスレハ此外ナホ天然體慾ト物  
 慾トノ結合ヨリ生スル混合體慾(Mixed Appetites)ナルモノア  
 ルヲ信ス肉食ヲ欲スル願念ノ如キ是レナリ腹中ニ飢ヲ感  
 シテ單純ニ食物ヲ欲スルガ如キハ固ヨリ純乎タル天然體  
 慾ナリト雖モ各自直接ノ實驗上ヨリ特ニ牛肉、魚肉等ヲ熱

望シテ幾ンド制止ス可カラサルニ至ルガ如キハ單ニ食物  
 ナ欲スル天然體慾ト全ク各自直接ノ實驗ヨリ生スル物慾  
 トヲ混合シタル結果ナリ若シ吾輩ノ所見ヲシテ幸ニ正當  
 ナラシメババルドウンガ人爲體慾中ニ算入シタル酒慾ノ  
 如キモ固ヨリ此部類ニ屬スヘキモノナリ何トナレハ飲料  
 ナ欲スル願念ハ天然體慾ニ屬シテ其特ニ酒精ヲ欲スル慾  
 望ハ物慾ニ屬スルヲ以テナリ  
 是ニ由テ之ヲ觀レハ體慾ノ種別ハ



ノ如クナラシムルヲ以テ正當ナルヲ信スルナリ

(ハ)起因

體慾ノ生類ニ固有ナル所以ノモノハ其因ル所必ス遠近ノ二種アリ即チ

(1)遠因——前族ハ實驗

(2)近因——各自體機中ハ欠乏若クハ充溢

是レナリ而シテ先ツ其第一種ナル遠因ニ就テ論セシニ已ニ前節ニ於テ論述セル如ク本來體慾ナルモノハ心意ニ屬スル靈妙ノ獨立作用ニアラスシテ皆ナ是レ前族ノ實驗ヲ遺傳シタル結果ナリ故ニ若シ之ヲシテ全ク前族ノ實驗ニ

關係ナキモノナラシメハ其各自直接ノ實驗ニ出テサルヲ明白ナルヲ以テ生知論派ノ唱道セル如ク心意ノ作用ハ毫モ肉體ニ因縁ナキモノナルヘシ然レモ之ヲ實際ニ徵スルニ人類ハ固ヨリ論ナク飛禽走獸昆蟲魚貝ノ屬ニ至ルマテ其各種ノ體慾ハ一トシテ元始ノ前族ヨリ累代ノ遺傳ヲ經タル結果ニアラサルハ莫シ今人類ノ事實ニ就テ之ヲ證明セシニ古來數代ノ同族ニシテ眠食飲爓等ノ諸慾ヲ具有セサル者アルヲ聞カス間體機構造ノ不完全ナルヨリ其慾念ニ強弱淺深ノ別ナキニアラスト雖モ決シテ全然ソノ一種若クハ數種ヲ欠キタルモノアルヲ見ス是ニ由テ之ヲ觀レハ體慾ノ一起因ハ間接ニ前族ハ實驗ヲ繼承シタル結果ニ

外ナラサルノミ  
 尋テ之ガ近因ナル各自ノ體機中ニ生スル欠乏若クハ充溢  
 ナ論究スヘシ已ニ前段ニ明言セル如ク體慾ノ一起因ハ前  
 族ハ實驗ニ在リト雖田若シ現族ヲノ其體機中常ニ乏溢ヲ  
 生シテ新陳代謝ノ作用ナカラシメハ縱令ヒ前族ニ於テ幾  
 億回ノ閱歷實驗アルモ其遺傳ノ徵証ヲ表明スルニ由ナシ  
 之ヲ例セハ前族ハ累世飲食若クハ媾接ノ實驗アルモ若シ  
 現族ノ中ニ於テ腸胃若クハ生殖器ヲ具有セサル者アラハ  
 其實驗ノ勢力ハ之ヲ繼承スルモ之ヲ表白スヘキ機官ナキ  
 ナ以テ其種ノ體慾ハ竟ニ絶熄スルニ至ルヘシ  
 體慾ノ近因ハ前述ノ如ク之ヲ分テ欠乏及ヒ充溢ノ二種ト

爲スト雖田其中ニ於テ各自ノ體機中ニ生スル欠乏ハ食慾  
 飲慾眠慾等ヲ生スル起因ニシテ其中ニ生スル充溢ハ媾慾  
 勞慾等ヲ促スノ起因ナリ之ヲ換言スレハ體機ノ欠乏ニ由  
 リテ填補ヲ要スルモノハ食慾飲慾等ノ如ク吸收性ノ體慾  
 ト爲リ體機ノ充溢ニ由リテ消耗ヲ要スルモノハ媾慾勞慾  
 等ノ如ク射出性ノ體慾ト爲ルナリ

然ルニ生知論派ノ妄信者ハ或ハ説ヲ作シテ曰ハントス體  
 慾ナルモノナシテ果シテ前示ノ如ク遠近ノ二因ヨリ生ス  
 ルモノナラシメハ太初ノホニ當リ元始ノ生類ハ其近因ヲ  
 具有スヘキモ其遠因ニ至テハ之ヲ繼承スヘキ前族ナキヲ  
 如何セン果シテ然ラハ太初ノ原族ハ全ク體慾ヲ具有セザ



リシカ第一出ノ原族己ニ體慾ナシ何ソ第二出以下ノ生類ニ於テ前族ノ實驗ヲ累承スヘキ緣由アラシヤト其レ然リ太初ノ原族ニシテ繼受スヘキ前族ノ實驗ナキハ誠ニ其說ノ如シ然レ由前族ノ實驗ナキノ一事ヲ以テ全ク體慾ノ體機ニ關係ナキヲ主唱スヘキ辭柄ト爲ス可ケンヤ抑モ體慾ニ遠近二種ノ起因アルコトハ第二出以下ノ生類ニ就テ証言セシ者ニシテ第一出ノ原族ハ近因ノ一種ヲ具有スルノミ即チ前族ノ實驗ナキモ其體機ノ乏溢ニ促進セラレテ飲食眠、購、等ノ諸慾ヲ煥發スルコト必セリ汚水中ニ氣化セル蟲類ハ初生ノ原族ニシテ固ヨリ前族ノ實驗ニ緣ナキモ其飲食、眠、購、等ノ諸慾ヲ達スル狀態ハ第二出以下ノ體化類ニ異ナ

ル所ナキヲ見テ其然ルヲ知ルヘキナリ是レ其體機ノ乏溢之ヲシテ然ラシムルナリ

(二) 效用

凡ソ天地間ノ事物一トシテ效驗アラサルハ莫シ其有害ナルモノハ禍源ト爲リ其有益ナルモノハ效用ト爲ルヲ常トス體慾ノ生類ニ與フル效用ノ如キ即チ有益ナル效驗ニシテ之ヲ分テ

- (1) 乏、溢、ハ告知
- (2) 全族ハ保安

ノ二種トス乏、溢、ノ告知トハ生族ニ向テ其體機中ニ生スル

欠乏若クハ充溢ヲ報知シ各自ヲシテ之ニ因テ自ラ欠乏ノ  
 填補スヘク充溢ノ射出スヘキヲ知ラシムル者ナリ若シ生  
 類ヲシテ此體慾ナルモノナカラシメハ體機中ノ乏溢ヲ豫  
 知シテ其過度ヲ避クルノ道ナカルヘシ而シテ其第二種ナ  
 ル全族ノ保安トハ生類ヲシテ體慾ニ由リテ體機中ノ乏溢  
 ヲ調停スヘキ所以ヲ知リ以テ擧族ノ安全ヲ保持スルニ至  
 ラシムルノ謂ナリ智愚人畜ノ別ナク均シク體機中ノ乏溢  
 ヲ豫知シテ幸ニ其天年ヲ全フスル所以ノモノハ實ニ體慾  
 ノ賜ナリ故ニ生類ヲシテ全ク其惠德ニ頼ルノ幸福ナカラ  
 シメハ皆ナ自ラ知ラズシテ乏溢ノ極度ニ達シ生殖ノ道竟  
 ニ絶ヘテ地球上復タ一頭ノ生類ヲ見サルニ至ルヘシ之ヲ

體慾ニ固有セル第二ノ效用トス

(ホ) 特性

體慾モ物慾モ均シク是レ願慾ノ一種ナリト雖モ其互ニ相  
 異ナル所以ノモノハ各個特殊ノ性質アルヲ以テナリ今コ  
 ノ體慾ノ固有セル特性ヲ列擧スレハ

- (1) 體機ノ促進ニ出ツル
- (2) 前族ノ實驗ニ基ク
- (3) 間歇性ヲ具有スル
- (4) 智愚人畜ノ別ナキ
- (5) 制止ス可カラサル

ノ五項アルヲ見ルベシ而シテ其第一項及ヒ第二項ノ如キ  
 ハ已ニ第二節ニ於テ詳述セルヲ以テ茲ニ復説スルヲ欲セ  
 スト雖本節ニ於テ其特ニ物慾ト同シカラサル所以ヲ略  
 叙スヘシ——(イ)先ツ其第一項ナル體機ノ促進ニ出ルトニ就  
 テ論センニ物慾ハ各自ノ實驗ニ基テ生スルモノニシテ如  
 何ナル聰明敏達ノ人ト雖其實驗以前ニ在テハ決シテ之  
 ナ欲スルノ念ヲ生スルヲ無シ然ルニ體慾ニ至テハ體機中  
 ニ生スル乏溢ハ促進ニヨリテ初生ノ片未タ實驗ヲ經サル  
 ニ早ク已ニ眠食等ヲ欲望スルニ至ルナリ之ヲ體慾ハ第一  
 特性トス——(ロ)其第二項ナル前族ノ實驗ニ基クテハ是レ亦  
 タ物慾ト大ニ相異ナル所アリ蓋シ名利ヲ欲シ權勢ヲ求ム

ル慾念ノ如キハ各自直接ノ實驗アレハ以テ之ヲ煥發セシ  
 ムルニ足ルベシ固ヨリ前族ノ實驗ヲ繼承スルヲ要セサル  
 ナリ啻ニ之ヲ要セサルノミナラス現族各自ノ實驗モ亦々  
 之ヲ後族ニ傳下スヘキ勢力ニ乏シ然ルニ體慾ハ之ニ反シ  
 テ太初第一出ノ元族以下ハ總テ前族ノ實驗ヲケレハ之ヲ  
 生スルヲナシ之ヲ換言スレハ現族ノ固有スル各種ノ體慾  
 ハ一トシテ前族ノ實驗セサルヲナキモノナリ之ヲ體慾ハ  
 第二特性トス——(ハ)第三項ナル間歇性ヲ有スルトハ物慾ノ  
 未タ曾テ有セサル所ニシテ獨リ體慾ノ專有スル所ナリ食  
 慾飲慾眠慾等ノ如キハ已ニ其意念ヲ達シ了ルニ至レハ一  
 且全ク其願望ヲ絶チ恰モ體慾ノ其身ニ存スルヲ忘レタル

其如ク復々之ヲ思ハザルニ至ルヘシ其稍時間ヲ經過シテ  
 體機ノ狀態復舊スルニ及テ再ヒ其慾念ヲ漸發スルヲ猶ホ  
 此レ時計ノ螺條ノ張弛ニ由リテ動止ノ變狀アルガ如シ然  
 ルニ物慾ニ至テハ如何ニ其志望ヲ達スルモ片時モ間歇ス  
 ルヲナキノミナラス却テ其度數ヲ累ヌル毎ニ益其勢焰ヲ  
 熾ナラシムルヲ常トス名ヲ好ムモノ利ヲ欲スル者ノ如キ  
 得ルニ從テ其慾火愈熾盛ヲ加ヘ終ニ身ヲ亡ホシ家ヲ壞ル  
 モ自ラ知ラサルニ至ルハ古今ノ通態ナリ之ヲ換言スレハ  
 體慾ハ一種特異ノ間歇性ヲ有スレ物慾ハ單ニ之ヲ有セ  
 サルノミナラス却テ其正反對ナル増進性ヲ有スルナリ之  
 ヲ體慾ハ第三特性トス——(ニ)其第四項ナル智愚人畜ノ別ヲ

キトモ亦タ是レ體慾ノ固有セル一特性ナリ物慾ハ均シク  
 是レ同一ノ人類中ニ於テモ明敏ナル者ト蠢愚ナル者トハ  
 其強弱ノ差異天淵モ畜ナラス固ヨリ同日ノ論ニアラサル  
 ナリ賢者ハ名譽ノ貴ヲ可ク知識ノ愛ス可ク優勝ノ喜ヲ可  
 ク交際ノ樂ム可キヲ知ルモ不賢者ニ至テハ未タ充分ノ實  
 驗アラサルヲ以テ僅ニ之ヲ推想スルノミ甚シキニ至テハ  
 其真味ヲ夢想スルダニ倣シ能ハサルモノ多シ故ニ不賢者  
 ノ物慾ハ概ネ小域ノ利慾權慾等ニシテ識者ノ如ク遠大無  
 邊ノ利權ヲ欲スルモノニアラス是レ其各自ノ遭接セル境  
 遇ノ同一ナラサルノ致ス所ナリ智愚ノ間ニ生スル物慾ノ  
 差等已ニ斯クノ如シ況ンヤ人類ト劣等動物タル禽獸魚蟲

トノ間ニ於テハ其差等ノ甚シキ推シテ知ル可キノミ就中  
 名慾知慾等ノ如キニ至テハ絶ヘテ劣等動物ノ憶ヒ至ラサ  
 ル所ナリ然ルニ體慾ニ至テハ其性狀全ク之ニ反シ智者モ  
 愚人モ高等動物モ下等動物モ毫モ其間ニ差等ノ存スルヲ  
 見サルナリ夫ノ飲食ヲ欲シ睡眠ヲ求ムル等ノ如キ至智ノ  
 孔明モ至愚ノ伴内モ最高ノ人類モ最下ノ昆蟲モ決シテ強  
 弱淺深ノ別アルヲ無シ即チ體慾ナルモノハ各種ノ動物ヲ  
 均通シテ同一ニ具有スル一慾念タルニ外ナラサルナリ之  
 ヲ體慾ノ第四特性トス(ホ)第五項ナル制止ス可カラサル  
 一ハ體慾中最モ著明ナル一特性ナリ彼ノ名利知交等ノ如  
 キ物慾モ一旦ソノ真味ヲ試嘗シテ已ニ其佳境ニ入ルルハ

片時モ忘ル可ガラステ幾ント其焔威ヲ抑制ス可カラサ  
 ルガ如シト雖モ唯是レ一時ノ苦痛ニ過キス遂ニ克ク之ヲ  
 制止シ了ルニ至ルルハ全ク小苦ヲモ感セサルノミナラス  
 毫モ體機中ニ意外ノ變狀ヲ呈スルヲナシ然ルニ體慾ニ至  
 テハ寸刻モ之ヲ制止ス可カラズ若シ強テ之ヲ抑壓スル  
 アレハ畜ニ其苦痛ノ堪ヘ難キノミナラス終ニ其生命ヲ危  
 フスルニ至ルヘシ是レ其制止ス可カラサル所以ナリ不眠  
 絶食等ノ生命ヲ短縮スルガ如キ以テ証ス可キナリ憍慾勞  
 慾逸慾等ノ如キハ之ヲ制止スルモ立口ニ其危害ヲ見サル  
 ナ以テ人或ハ之ヲ以テ制止スルヲ得ヘキモノト速了スル  
 一アリト雖モ斯クノ如キハ大ナル謬見ト謂ハサル可カラ

ス何トナレハ憐愍ヲ制止スル者ハ往々不眠、發狂、等ノ諸症  
ヲ發シテ竟ニ斃ル、ニ至ルハ世人ノ普ク知ル所ナリ又々  
下等動物ニ就テ論スレハ脱羣シタル軍馬ノ極メテ短命ナ  
ルガ如キ亦以テ其一端ヲ証ス可キナリ其他勞愆、逸愆、等ノ  
制止ス可カラサルモ亦々其結果概テ憐愍ニ均シク唯、ソノ  
發現ノ極メテ遲緩ナルノミ之ヲ體愆ノ第五特性トス

(ハ) 引証

(イ) ウルク (Welch) 『體愆 (Appetites) トハ感覺ノ指示ニ從テ  
體中ノ欠乏ヲ知ル、其之ヲ填補シテ其苦痛ヲ癒治セント欲  
スル願念ナリ而シテ吾人ノ體愆ハ其種類一ニシテ足ラス

ト雖、其最モ特著ナルモノハ食愆ト飲愆トノ二者ナリ之  
ヲ名ケテ饑 (Hunger) 及ヒ頸渴 (Thirst) ト曰フ然レモ倦疲シテ  
靜逸ヲ思ヒ剛昏シテ睡眠ヲ欲シ寒冷ニ接シテ温暖ヲ願ヒ  
炎暑ヲ冒シテ爽涼ヲ求メ苦痛ニ遭フテ快樂ヲ慕フ等ノ如  
キ亦以テ前示ノ二種ト班列ヲ同フスヘキ格位アル者ナリ  
故ニ是等ノ諸種ニ命スルニ體愆ノ名稱ヲ以テスルモ決シ  
テ不當ノ擧ニアラサルヲ信ス之ヲ約言スレハ凡ソ肉體ノ  
促進ニ由リテ生スル諸愆ニシテ之ヲ遂達スルニ方テ一種  
ノ快感ヲ醒起シ以テ各自ノ健全ヲ保持シ及ヒ全族ノ連綿  
ヲ助成スルモノハ之ヲ總稱シテ體愆ト曰フモ可ナリ故ニ  
之ガ定義ヲ確立スレハ體愆トハ一種ノ感覺ヲ生シテ之ヲ

遂達セシト欲スル願念ナリト明言スルヲ得ヘシ  
 體慾ハ體機ノ促進セル緩急ニ由リテ其強弱各一ナラス之  
 ナ例セハ一定ノ時限ニ於テ充分ノ食量ヲ用フル者ハ其食  
 慾急激ナラサレ而シテ其食量ヲ減殺シテ胃腑ノ要求以下ニ至  
 ラシムルキハ一變シテ貪慕(Longing)ト爲ル若シ之ヲ剝奪シ  
 テ全ク絶食ノ域ニ至ラシムルキハ再變シテ狂求(Craving)ト  
 爲ルガ如キ是レナリ體慾ト感覺トノ二者アリテ能ク生類  
 ナシテ自ラ其體機中ニ生スル欠乏ヲ知ラシメ以テ填補調  
 整ノ妙ヲ得セシムルモノハ實ニ造化ノ恩典ナリ天ノ物ヲ  
 造ル至盡ナリト謂フ可シ  
 然ルニ幼稚ノキニ於テ一定明瞭ノ目的ヲ有セス唯是レ遂

達チ之レカムルガ如キ體慾ハ之ヲ名ケテ本能(Instinct)ト曰  
 フ(譯者曰ク體慾ト本能トハ全ク同物ニ非ス)

(ロレイド(Reid))「體慾(Appetites)トハ不安ハ感覺ヲ伴隨セ  
 ル肉體的貪望ニシテ所謂ル慾望(Desires)中ノ一種ニ屬スル  
 モノナリ本來コノ語ハ羅旬語ナルあつへちたす(Appetitus)  
 ニ出テタルモノニシテ當時羅馬人ハ其心意上ニ關スルト  
 肉體上ニ關スルトニ論ナク廣ク幸福ヲ求ムルハ願念ニ向  
 テ此語ヲ應用セリ又タペーチーノ説ニ從ヘハ體慾ハ往々  
 饑慾ノ義ニ用フルノミナラス時トシテハ強盛ナル物慾ヲ  
 形容スルニ方テ擬象的應用ヲ試ムルコトアリト云フ今コノ  
 體慾ニ就テ其本性ヲ論究スレハ固ヨリ社交的性質ヲ有セ

スト雖<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>純乎タル利己的性質ヲ具フルモノニアラス  
 蓋シ其社交的性質ヲ有セサルハ毫モ他人ノ利益ヲ思フノ  
 念素ナク其利己的性質ナキ所以ノモノハ全ク自己ノ利害  
 ニ關セスシテ唯是レ其欲スル所ノ物體ヲ得ルニ汲々タレ  
 ハナリ是レ體慾ヲ名ケテ社交的慾望若クハ利己的慾望ト  
 曰フ可カラサル所以ナリ世人ハ往々體慾ヲ以テ利己的慾  
 望ニ屬スルモノト爲スト雖<sup>レ</sup>其成分中ニハ毫モ自愛ノ元  
 素ナク又々利他ノ元素ナキナリ自ラ其己レニ害アルヲ知  
 ルモノト雖<sup>レ</sup>一旦體慾ノ發動スルニ方テハ敢テ避クル所  
 ナキハ吾人日常ノ行爲上ニ於テ已ニ明ナリ其自愛ノ元素  
 ナキ以テ知ル可キナリ』

(ハ) <sup>ハ</sup>ペイン(Pain)——『體慾(Appetites)トハ一種ノ感覺ニシテ有  
 機的體系ハ欠乏即チ必<sup>レ</sup>迫ヨリ生スル不安ノ感應ナリ體慾  
 ノ生スル必<sup>レ</sup>ス意志ノ作用ナカル可カラズ意志ノ生スル必  
 ス激因ノ存在ヲ要ス而シテ體慾ノ激因ハ實ニ感覺ナリ然  
 レ<sup>レ</sup>意志ニ基テ生スル各種ノ感覺ヲ以テ盡ク體慾ナリト  
 爲スハ非ナリ今夫レ普通ノ體慾ト稱スルモノハ睡眠、勞動、  
 靜逸、飢渴、及ヒ<sup>レ</sup>媾接ノ五種ニシテ有機的體系ノ定時的欠乏  
 ヨリ生スルモノナリ——(イ)睡眠(Sleep)ハ定時的復發ト有機的  
 必<sup>レ</sup>迫トノ二態ヲ有スルモノニシテ其來ルヤ毫モ吾人ノ意  
 志ニ出ルモノニアラス體機ノ構造之ヲシテ然ラシムルナ  
 リ而シテ其體慾タル性質ヲ有スルヤ否ハ之ヲ抑制スルニ



方テ自ラ明白ナルヘシ即チ之ニ因リテ一種不安ノ感覺ヲ生スルヤ意志ハ此不安ノ苦痛ヲ排除シテ熟睡ノ快樂ヲ得ント欲スルニ至ル是レ睡眠ノ意志ノ促進ニ出ツル所以ナリ  
 (口) 勞逸 (Exercise and Repose) ハ吾人ノ覺醒中ニ於テ輪流睡發スル體機上ノ一要狀ニシテ亦々制止ス可カラサルノ一特性ヲ具有スル者ナリ靜逸ノ後ニハ必ス勞動ヲ欲スルニ至ル苟モ之ヲ妨クルモノアレハ直チニ之ヲ排除セント欲スルノ意志ヲ生スヘシ是レ體慾ノ性質アルノ致ス所ナリ靜逸ヲ以テ論スルモ亦々然リ且ツ勞逸二者ノ睡至スルハ獨リ肉體上ノ作用ニ屬スルノミニアラス心意上ノ活動ニ於テモ亦々必ス同一ノ狀態ヲ有スルモノナリ筋肉耳目

等ノ諸官ヲ使用スルモ腦髓ヲ使用シテ沈思熟考スルモ其靜逸ヲ欲スルニ至ルハ恰モ其活動ヲ欲スルニ至ルト同一般ニシテ若シ之ニ抗抵スルモノアルキハ必ス體慾ノ本性ヲ表ハスニ至ルヘシ  
 飢渴 (Thirst and Hunger) ハ二様ノ狀態ヲ有スル體慾ニシテ先ツ剝奪ヨリ生スル不安ヲ表ハシ尋テ達慾ヨリ生スル快樂ヲ呈スルモノナリ而シ此二態相合シテ意志ノ力ヲ激作シ以テ此種ノ體慾ヲ構成ス凡ソ普通ノ飢渴ハ滋養ノ不足ヨリ生スルモノナレモ猶ホ此外ニ特殊ノ飲食ニシテ真正ノ體慾ト同一ノ狀態ヲ有スルモノアリ菓子酒類茶烟草等ノ如キ是レナリ一度ソノ妙味ヲ試嘗シテ漸ク佳境ニ入ルキハ復々絶念ス可カラサルニ至ルモ

ノナリ——呼吸(Respiration)モ亦タ一種ノ體慾ナリ久シク密閉シタル室内ニ在ルキハ新鮮ノ空氣ヲ得ント欲スルノ念甚々熾ナリ是レ空氣ニ關スル體慾ナリ——媾接(交配)ハ男女兩性ノ和合ヲ生スル體慾ニシテ特殊ノ分泌作用ヨリ醸成シ來ルモノナリ此分泌作用ハ結婚期ヲ過キテ後チ一定ノ時期ヲ以テ體系中ニ發作シ射出若クハ吸收ヲ遂クルマデハ自ラ一種ノ不安ヲ覺ユルモノナリ媾接上ニ關スル有機的必促ノ理由ハ茲ニ講明スルノ必要ヲ見サルモ其主動ノ力ハ達慾ノ快樂ヲ得ルニ外ナラサルナリ——生活上ノ常習(Habitual Routine of Life)ノ如キモ亦タ一種ノ體慾ニシテ若シ之ガ障礙ヲ爲スモノアルキハ忽チ不安ノ感ヲ生スルニ至ル

ヘシ然ルニ毫モ其進路ヲ妨クルモノナキハ自ラ一種ノ快樂ヲ覺ヘ若クハ苦樂共ニ全ク之ヲ覺知セザル「アリ」——(譯者曰ク生活上ノ常習ニ就テハ著者ソノ實例ヲ明示セザルヲ以テ自ラ論旨ノ明晰ヲ欠クノ嫌チキ能ハス按スルニ生活上ノ常習トハ眠食ノ時限、飲食ノ種類等ニ關スル多年ノ習慣ニシテ睡眠ノ分量ヲ同フシテ晝夜ヲ異ニシ三食ノ間隙ヲ均フシテ其時限ヲ變シ生食ヲ廢シテ火食ト爲シ白湯ヲ更メテ冷水ヲ用フルニ至リタル場合ノ如キ特ニ此種ノ體慾ヲ生スヘシ夜中八時間睡眠スル者ガ俄ニ白晝八時間睡眠スルニ至ラハ其睡眠ノ分量ニ至テハ二者共ニ少差ナシト雖モ夜眠ノ俄ニ晝睡ニ變シタルガ爲メ體中自ラ一

種言ヲ可カラザルノ不快ヲ感スルハ此常習ノ體慾的性質  
 ナ有スルガ故ナリ三食ヲ以テ論スルモ亦々然リ多年午前  
 八時正午十二時及ヒ午後四時ノ三時限ヲ以テ喫飯シタル  
 者ガ急ニ午前十時午後二時及ヒ午後六時ノ三回ニ就養ス  
 ルニ至ラバ其食事ノ間隙ハ前後同一ナルモ其快樂ハ決シ  
 テ同一ナラサルナリ又々酒客ガ晚酌ニ五合ヲ傾クル常習  
 ナ廢シテ卒然早天ニ五合ヲ飲了スルニ至ルニアラハ其度  
 數ハ何レモ一日一回ニシテ其分量ハ朝暮同一ナルモ其快  
 樂ノ同一ナルヲ得サルハ三食ノ事例ト異ナル所ナキヲ知  
 ルヘシ其他生食ヲ廢シ白湯ヲ更ムル場合ノ如キ皆ナ然リ

(ニ)バルドウィン(Baldwin)——體慾(Appetites)トハ身體ハ欠乏ナ

補充セント欲スル願念ヨリ生スル感覺ニシテ吾人ハ明ニ  
 其性狀ヲ查察スルヲ得ヘシ食ヲ絶ツト十二時間眠ヲ廢ス  
 ルト一晝夜ニ至ラハ補充ノ完全ナラサルト組織ノ回復セ  
 サルトニ由リテ忽チ不快ノ感覺ヲ生スヘシ而シテ其種目  
 ナ細別スレハ

體慾(Appetites)

- 食慾(Hunger)即チ食物ヲ欲スル體慾
- 飲慾(Thirst)即チ飲料ヲ欲スル體慾
- 眠慾(Sleepiness)即チ睡眠ヲ欲スル體慾
- 逸慾(Restiveness)即チ勞逸ヲ欲スル體慾
- 媾慾(Sexuality)即チ媾接ヲ欲スル體慾
- 氣慾(Respiration)即チ空氣ヲ欲スル體慾

ノ七種ニシテ各固有ノ特性アリ之ヲ要スルニ體慾ノ本性  
 ハ身體的慾望ヲ遂達セント欲スル願念ニ外ナラサルナリ  
 或ハ之ヲ各ケテ體感(Physical Feeling)ト曰フ蓋シ其慾望ノ作  
 用ハ心意上ニ属スト雖其起因ハ身體ノ有機的活動ニ屬  
 シテ其目的トスル所モ亦々身體ノ補給ニ過キサレハナリ  
 體慾ハ素ト天賦ノ一靈能ナリト雖吾人ノ經驗遭接ニ由  
 リテ之ガ性狀ヲ變化セシムルナキニアラス是レ睡眠、呼  
 吸、飲食等ニ關スル純正不變ノ體慾ヲ各ケテ天然體慾(Natural  
 Appetites)ト曰ヒ鴉片、酒類、烟草等ニ關スル撓造變態ノ體  
 慾ヲ各ケテ人為體慾(Artificial Appetites)ト曰フ所以ナリ即チ  
 此後記ノ體慾ハ天然ノ理勢ニ反シテ其常綱ヲ撓亂シ多年

ノ實驗ニ因リテ造成シタルモノナリ而シテ之ヲ指導スル  
 モノハ反應作用(Reflex Action)本能(Instinct)及ヒ智力(Intellig-  
 ence)ノ三者ニシテ其達慾度ニ適スレハ則チ快樂ヲ生シテ  
 健康ヲ加ヘ度ヲ失スレハ則チ苦痛ヲ醸シテ危害ヲ來タス  
 ヘシ不當ノ體慾ハ獸慾ナリ人類ヲ獸化シ社會ヲ破壊スル  
 ノ傾向ナシトセス慎マサル可カラサルナリ』

(ホ) 結論

以上諸家ノ説ク所ニ就テ論スルモ體慾(Appetites)ナルモノ  
 ハ體中ノ乏溢ヨリ生スル先天ノ慾望タルヲ知ル可キナリ  
 然レ其細別ニ至テハ未タ足テサル所ナキ能ハス因テ之  
 ガ完全ナル種別表ヲ製スレハ所謂ル真正ノ體慾ハ

- 百六十六
- (1) 食慾即チ食物ニ關スル體慾
  - (2) 飲慾即チ飲料ニ關スル體慾
  - (3) 眠慾即チ睡眠ニ關スル體慾
  - (4) 勞慾即チ筋骨、感官、腦髓等ヲ使用セント欲スル體慾
  - (5) 逸慾即チ筋骨、感官、腦髓等ヲ靜息セント欲スル體慾
  - (6) 媾慾即チ媾接ニ關スル體慾
  - (7) 氣慾即チ新鮮ノ空氣ヲ欲スル體慾
  - (8) 習慾即チ生活上ノ常習ヨリ生スル體慾
  - (9) 便慾即チ尿糞ヲ促進スル體慾
  - (10) 温慾即チ温度ノ調整ヲ欲スル體慾

百六十七

ノ十種アルヲ見ルニ至ルヘシ此外人爲體慾及混合體慾ノ二類ニ就テ其細別ヲ求ムルハ更ニ數種ノ小類アルヲ見ル可キナリ而シテ勞慾及逸慾ノ如キハ諸家概チ筋骨ハ使息ノミニ局止セシムレト吾輩ハ更ニ之ニ加フルニ感官、腦髓等ヲ以テセリ又習慾ハベインノ創意ニシテ夫人爲體慾及混合體慾ニ似タル所ナキニアラスト雖詳ニ其特性ヲ查察スルハ大ニ其相異ナル所アルヲ知ルヘシ而シテ便慾及温慾ノ如キハ前人ノ未曾テ説サル所ニシテ實ニ吾輩ノ創意ニ係レリ蓋シ便慾ハ腸管及ヒ膀胱ノ有機作用ニ因リテ大小兩便ノ排出ヲ促シ温慾ハ血管、神經等ノ有機作用ニ因リテ寒冷ナルハ體温ノ保持ト外熱ノ

誘收ヲ求メ炎暑ニ際シテハ體温ノ發散ト外熱ノ排斥ヲ欲  
スル體慾ニシテ固ヨリ實驗ノ結果ニアラス又々意識ノ然  
ラシムル所ニアラサルナリ然ルニ此温慾ノ一種ニ至テハ  
既ニ荀子ノ榮辱篇ニ

凡人有所一同飢而欲食寒而欲煖勞而欲息好利而  
惡害是人之所生而有也是無待而然者也禹桀之

所同也云々

ノ句アリ然レ而未々之ヲ以テ今日吾人ノ所謂ル體慾ヲ論  
スルモノナリト爲ス可カラズ唯是レ温煖ヲ求ムルノ慾念  
ハ欲食欲息及ヒ好利ノ諸慾ト共ニ苟モ天地ノ間ニ棲息シ  
テ生命ヲ有スル者ハ賢愚ノ別ナク等シク享有スル所以ヲ

明言シタルニ止マリテ未々體慾ノ本領ニ論及シタルモノ  
ニアラス即チ其論勢ノ偶然體慾中ノ一特性ニ聯關シタル  
ノミ荀子ハ決シテ體慾ノ一種ナル温慾ノ創業者ニアラサ  
ルナリ且ツ寒而欲煖ノ一項ハ勞而欲息及ヒ飢而欲食ノ二  
項ト共ニ體慾ニ屬スルモノナレ而好利而惡害ノ一項ハ全  
ク物慾ニ屬シテ各人ノ同一ナル能ハサル所ナリ  
又々體慾ノ定義ニ就テハ吾輩ノ意見ニ加フルニ諸家ノ所  
見ヲ以テシ以テ讀者ノ會得ニ便ナラシメタリ然レ而猶ホ  
茲ニ其他ノ心理學上ノ意見ヲ追録スレハ——マツコッシュ  
(McCosh)ハ體慾ヲ以テ身體上ノ必需ヲ遂達スヘキ物體ヲ欲  
スル心意上ノ切望ナリト爲シ——ステワート(Stewart)ハ體慾

ヲ以テ身體ヨリ生スル各種ノ切望ニシテ其目的タル各自  
ハ保安ト全族ノ連綿トヲ計ルニ在ル慾望ナリト爲シ  
レゴリー(Gregory)ハ體慾ヲ以テ身體ノ健全ヲ目的トスル願  
念ナリト爲シ——ピーボデー(Peabody)ハ體慾ヲ以テ各自及ヒ  
全族ノ長生ヲ得ント欲スル身體上ノ切望ナリト爲シタリ

(乙)本能

(イ)定義

本能(Instinct)トハ未驗ノ外物ニ就テ其效害ヲ直察スル先天  
ハ能力ナリ更ニ之ヲ詳説スレハ未タ自ラ實驗セズ又タ他  
人ノ示教ヲモ受ケサルニ生レナガテニシテ一見直チニ外  
物ノ效害ヲ認識スル靈能ナリ一ツ之ヲ譯シテ本性若クハ

天性ト曰フ猶ホ體慾(Appetites)ニ肉慾ノ異譯アルガ如シ往  
時ニ在テハ人未タ此能力ノ起因性質ヲ詳ニセズ唯之ヲ以  
テ内部ヨリ自發セル一種ノ激作ト爲シ全ク推理ト實驗ト  
ヲ離レタル發動ニ向テ此名稱ヲ應用セリ人或ハ本能ヲ以  
テ體慾ト混同スルヲナキニアラス蓋シ此二者ハ其性狀ノ  
相似タル所アルノミナラス動物生出ノ初期ニ於テハ往々  
前後聯行スルヲアルヲ以テナリウルクノ如キ儼然タル一  
個ノ心理學士ニシテ已ニ此謬見アリ況ンヤ心理學(Psychol-  
ogy)上ノ知識ニ乏シキ凡俗ニ於テオヤ學者ノ宜ク注意ス  
ヘキ所ナリ  
下等動物ハ之ヲ人類ニ比スレハ其本能ヲ具有スルヲ極メ

テ多シ蓋シ本能ハ智力(Intelligence)ニ反比例スルモノニシテ人類ノ本能ニ乏シキハ其智力ニ富ムト更ニ下等動物ヨリモ大ナルヲ以テナリ而シテ下等動物ノ本能ニ就テハ

(1) 腦底ニ於ケル特殊官神經ノ發達

(2) 腦髓及ヒ下等中樞ニ於ケル受動神經ト發動神經トノ合同作用

ノ二因ニ根由スルヲ發見セリ即チ此二因ヲ具備スルト愈大ナル者ハ其本能ヲ具有スルト愈大ナリト知ル可シ又々本能ト智力トハ其性狀ノ相似タル所アルヲ以テ往々之ガ辨別ニ苦ム者ナキニアラスト雖モ本能ハ其變化遲緩ニシテ教育常習境遇等ニ由リテ一朝進化セシメ若クハ退

化セシムルト固ヨリ容易ナラス然ルニ智力ハ全ク之ニ反對セル性狀ヲ有シテ教育常習境遇等ニ由リテ進退スルト極メテ迅速ナリ又々本能ノ作用ハ最モ簡單ニシテ僅ニ外物ノ妨害ヲ未然ニ鑑別スルニ止マレモ智力ニ至テハ其作用頗ル複雑ニシテ想像推理等ノ諸力ヲ具フ是レ本能ノ智力ニ異ナル所以ノ要點ナリ之ヲ換言スレハ本能ハ累代ノ積驗ニ成リ智力ハ一代ノ養成ニ出ルト多キニ居ルモノト知ル可シ

(ロ) 種別

本能ノ種別ニ就テハ諸家ノ説ク所未タ一定セスト雖モ概



- (1) 蓄類の本能 (Brute Instinct)
- (2) 通有的本能 (Common Instinct)
- (3) 人類の本能 (Human Instinct)

ノ三種ト爲スチ常トス蓄類の本能トハ下等動物ノ特有スル本能ニシテ燕雀若クハ蟻蜘蛛等ノ生レナガラニシテ能ク巢ヲ造リ又ハ雁鳩等ノ自ラ能ク方位ヲ知り又ハ鮭仔鮎兒等ノ教ヘラレスシテ能ク舊流ニ溯リ故淵ニ達スルノ類ミナ然リ斯クノ如キハ人類ノ企テ及フ所ニアラサルナリ通有的本能トハ人類モ蓄類モ共ニ均シク具有スル所ノ本能ニシテ墜下ノ危険ヲ預知スルガ如キ是レナリ狗仔猫兒等ヲ携ヘテ高處ニ至リ試ニ之ヲ墜落セント欲スレハ未タ

曾テ墜傷ノ實驗ヲ經サルモ必ス其四脚ヲ短縮シテ忌避ノ狀ヲ表ハスヘシ人兒ヲ以テ論スルモ亦々然リ椽端ニ在ル幼兒ノ萎縮退避スルガ如キ是レナリ其他鳥雛人兒ノ食物ノ效害ヲ識別スルノ類ミナ之ニ屬ス人類の本能トハ特ニ人類ノ固有セル本能ニシテ畜類ニ絶ヘテ無キ所ノ者ナリハルドウンハ幼時ノ泣哭哂笑蹙額等ヲ以テ人類特有ノ本能ト爲シタリト雖モ是等ノ發動ヲ以テ果シテ本能ノ一種ト爲スチ得ヘキヤ否ハ實ニ心理學上ノ一問題ナリ吾輩ハ寧ろ幼兒ノ暗黒ヲ恐レ鮮血ニ驚キ蛇蝎ヲ忌ム等ノ類ヲ以テ人類の本能ト爲スノ至當ナルヲ信スルナリ

(六) 起因

本能ハ皮相上天賦ノ一靈能タルガ如シト雖且詳ニ其由來  
スル所ヲ究ムレハ

- (1) 遠因——前族ノ實驗
- (2) 近因——各自ノ境遇

ノ二原ニ出ツルモノニシテ決シテ偶然ニ收得シタル天賦  
ノ靈能ニアラザルナリ而シテ之ガ遠因(Remote Cause)ハ恰モ  
體慾ノ場合ニ於ケルガ如ク前族ノ實驗ニ外ナラサルナリ  
吾人ガ暗黒ヲ恐レ蛇蝎ヲ忌ムガ如キ鳥類ノ巢ヲ造リ蜘蛛  
ノ網ヲ張ルガ如キ一トシテ前族ノ實驗ニ出テサルハ莫シ  
吾人ガ暗黒ヲ恐ルハ開闢以來各種ノ危害ニ遭遇シタル  
一白晝ニ比シテ最モ許多ナルヲ以テナリ其特ニ蛇蝎ヲ忌

ムガ如キモ亦タ然リ創世以降蟲類ノ人類ニ禍スルモノ一  
ニシテ足ラスト雖且蛇蝎ノ害最モ酷シキニ由ラスンハア  
ラス其他鳥類ノ造巢蜘蛛ノ張網ノ如キモ皆ナ生存上ノ必  
促ニヨリ累代ノ前類ガ實驗シタル結果ヲ遺傳シタルモノ  
ナリ之ヲ約言スレハ本能ハ遺傳(Transmission)ノ一種ニ過キ  
サルナリ

尋テ之ガ近因(Approximate Cause)ニ就テ論スレハ本能ハ元ト  
前族ノ實驗ニ出ツト雖且各自ノ境遇ニヨリテ變遷ナキ能  
ハス之ヲ例セバ吾人ハ暗黒ノ危害ヲ豫知スヘキ本能ヲ有  
スルモ天下到ル處盡ク不夜城ニシテ生來未タ曾テ暗黒ニ  
遭遇スルコトナキ者アランカ斯克ノ如キ境遇ニ生レタル者

ハ縱令ヒ暗黒ノ危害ニ關スル本能ヲ有スルモ之ヲ顯表スヘキ境遇ヲ得サルヲ以テ此種ノ本能ハ竟ニ滅熄スルニ至ルヘシ是レ各自ノ境遇ニヨリテ本能ニ隱顯増減アル所以ナリ其他各種ノ事例ミナ推知ス可キノミ

(ニ) 效用

本能ノ吾人ニ與フル效用 (Uses) ハ之ヲ大別シテ二種トス即チ

- (1) 各自ハ安全ヲ助クルコト
- (2) 全族ハ安全ヲ助クルコト

是レナリ鷄雛ガ卵殻ヲ出ツルヤ蟲類穀物ノ食スヘク石片木屑ノ食ス可カラサルヲ前知スルガ如キ椽端ニ在ル幼兒

ガ墜落ノ危険ヲ豫識スルガ如キ皆ナ本能ノ然ラシムル所ニシテ即チ之ガ第一種ノ效用ヲ表明スルモノナリ何トナレハ此種ノ本能ハ各自齊一ニ發動セサルノミナラス或ハ全ク之ヲ發現スヘキ境遇ニ際會セシ止ム者ナキニアラサレハナリ而シテ燕雁ノ雛兒ガ季候ノ變更ニ際シテ能ク移住ノ方位ヲ識別シ鰻兒鮎仔ノ成長スルニ方テ能ク急流ニ溯ルガ如キモ亦タ本能ノ作用ニ出ツルモノニシテ擧族一齊ニ起動スルヲ以テ遂ニ全族ハ安全ヲ永遠ニ保持スルヲ得ルニ至ル之ヲ本能ニ屬スル第二種ノ效用トス

(ホ) 特性

體慾曰ニ其特性 (Peculiarity) アリ本能モ亦タ固有ノ特性ナキ

能ハサルナリ是レ本能ノ智力(Intellect)ト相異ナル所以ニシテ今之ヲ列舉スレハ

- (1) 變化ノ遲緩ナルト
- (2) 作用ノ簡單ナルト
- (3) 未驗ノ危害ヲ豫知スルト
- (4) 未驗ノ效用ヲ鑑別スルト
- (5) 智愚人畜ノ懸隔甚シキト
- (6) 境遇及ヒ時期ヲ要スルト

ノ六項アリ而シテ(イ)其第一項ナル變化ノ遲緩ナルト並ニ(ロ)其第二項ナル作用ノ簡單ナルトノ二項ニ就テハ已ニ本論第一節ノ末段ニ於テ詳述シタルヲ以テ復々茲ニ贅

セス(ハ)其第三項ナル未驗ノ危害ヲ知ルトニ就テ論スレハ幼兒ガ蛇蝎鮮血等ヲ一見シ若クハ黑暗ニ接シ墜落ニ臨ミテ逡巡スルノ類ナリ幼兒ノ蛇蝎ヲ見テ恐れ黑暗ニ會シテ泣キ岸下ヲ瞰テ退避スル等ノ如キハ固ヨリ自ラ遭遇シタル實驗ノ結果ニアラス唯前人累代ノ實驗ヲ遺傳シタルノミ(ニ)其第四項ナル未驗ノ效用ヲ鑑別スルトニ就テ論スレハ鷄雛ガ初生ノキ其卵殼中ヨリ出ツルヤ未タ自ラ一回ノ實驗ヲモ經サルニ早ク已ニ蟲類穀物ノ食フ可クシテ石塊木片ノ嚙下ス可カラサルヲ知ルガ如キ是レナリ即チ蟲穀ノ食用ニ堪ユ可キ效用アルトヲ實驗前ニ鑑別スルモノナリ(ホ)其第五項ナル智愚人畜ノ懸隔甚シキトニ就テ

論スレハ上智ニ位スル人類ハ其智量ニ反比例シテ本能ヲ  
 具有スルヲ少キモ下愚ニ居ル所ノ畜類ハ其智力遙ニ人類  
 ニ及ハスト雖其具有スル所ノ本能ニ至テハ人類ニ優ル  
 一實ニ大ナリ之ヲ換言スレハ本能ノ動物ニ於ケル智力ト  
 逆比例スルモノニシテ本能ニ富ム者ハ智力ニ乏シク智力  
 ノ大ナル者ハ必ス本能ヲ具フルヲ少シ即チ左記ノ比較表  
 ニ就テ其然ルヲ知ル可シ

能 本	蜂	蟻	蜘蛛
等	鳥	類	類
等	狐	熊	
等	猿	狗	
等	馬	象	
類	人		
	智	力	

是レハバルドウィンノ製スル所ニシテ有名ナル博物家ロ  
 マンス、ニコルソン等ノ審査ニ基クモノナリ然レモ軟體類  
 ノ如キ劣等動物ニ至テハ本能モ智力モ共ニ欠乏シテ僅ニ  
 有機的生活ヲ有スルノミ而シテ本表中人類ト馬象等トノ  
 間隔特ニ甚シクシテ全ク空白ヲ存スル所以ノモノハ比較  
 上人類ニ直接スヘキ動物ナキヲ以テナリ——(ハ其第六項ナ  
 ル境遇及ヒ時期ヲ要スルトニ就テ論スレハ生涯一回モ黒  
 暗ニ接スルヲナキ者ハ之ガ危害ヲ豫知スヘキ境遇ヲ得サ  
 ルヲ以テ其一事ニ關スル本能ハ終ニ表顯スヘキ機會ナク  
 シテ空シク身衰ニ消滅ス可キノミ猫ノ鼠ヲ捕獲スル本能  
 ノ如キモ亦タ然リ檻中ニ飼養シテ成長ノ後ニ至ルマデ鼠

肉ノ味ヲ知ラサシムルハ竟ニ捕鼠ノ本能ヲ亡失ス又  
タ哺乳期ヲ過ルニ至ルマデ牛乳ヲ以テ成育シタル兒童ハ  
俄ニ婦人ノ乳房ヲ示スモ其何物タルヤヲ識別シ能ハサル  
ガ如キ之ガ啓發上ニ適當ナル時期ヲ失スルノ致ス所ナリ

(ハ) 引証

(イ) バルドウィン(Baldwin) 『本能(Instinct)トハ動物ガ自ラ其  
結果ハ如何ヲ知ラズシテ自己ハ爲ニ最大ノ利益ヲ收得ス  
ル能カナリ夫レ心意(Mind)ハ知得受感及ヒ發意ノ三能ヲ具  
有スルモノニシテ其能クスル所ヲ名ケテ心力(Mental Powers)  
ト曰フ而シテ心力ノ中ソノ作用ノ最モ簡單ナルモノヲ本  
能トス故ニ心意ノ現象ヲ研究セント欲スル者ハ必ス先ツ

最モ劣等ニシテ最モ簡單ナル此本能ヨリ入門スルヲ要ス  
蜂ハ數學ノ知識ナクシテ能ク巢窟ヲ造リ又々化學ヲ修メ  
ズシテ能ク蜜液ヲ製ス鳥ハ地圖ナク海圖ナク又々羅針盤  
ヲ有セサルモ能ク海陸數千里ヲ横翔シテ適意ノ地ニ移住  
ス雌鷄ハ孵卵期ニ際シテ集中ニ在ルキ明瞭ナル目的ナキ  
モ常ニ一定ノ間隙ヲ以テ能ク其卵ヲ轉置ス凡ソ斯クノ如  
キモノハ何ニ因リテ然ルヤ吾人ハ此難問ニ答フルニハ數  
千年ノ日子ヲ經過スルニアラサレハ能ハサルナリ而シテ  
反應作用(Reflex Action)ナルモノハ稍本能ニ似タル所ナキニ  
アラスト雖モ前者ハ意カニ關係ナキ無意識的作用ニシテ  
全ク肉體的性質ヲ有スルモノナリ血行呼吸等ノ如キ有機

作用ニ屬スルモノ是レナリ最下等ノ動物ハ本能モ智力モ  
 共ニ欠乏シテ唯是レ一種ノ反應機タルニ過キス然ルニ後  
 者ハ固ヨリ意識的作用ニシテ又々自發的作用ナリ之ヲ要  
 スルニ反應作用ハ最モ高等ナル肉體の勢力ニシテ本能ハ  
 最モ下等ナル心意の勢力ナリ且ツ本能ハ智力(Intellect)ト相  
 似タル所アリト雖モ本能ハ元ト一種ノ盲目的奮闘ニシテ  
 動物ヲシテ能ク各自ト全族トノ裨益ヲ得セシムルモノナ  
 リ智力ニ至テハ則チ然ラス能ク方便ヲシテ目的ニ適合セ  
 シメ及ヒ感情ヲ指導シテ過失ナカラシム本能ト智力トハ  
 人畜ノ共ニ享有スル所ニシテ智力ハ能ク眞理ヲ發見シ又  
 タ能ク知識ニ基テ活動スルモ本能ハ自ラ理由ヲ解セスシ

テ能ク方便ト目的トノ適合ヲ致スモノナリ鳥類ノ移住ス  
 ルハ本能ノ指導スル所ニシテ舟子ノ航海スルハ智力ノ指  
 導スル所ナリ蜜蜂ノ巢窟ヲ造ルハ本能ノ致ス所ナリト雖  
 モ工人ノ橋梁ヲ架スルハ智力ノ作用ニ出ツルモノナリ而  
 シテ智力ト本能トハ常ニ必ス逆比例ノ關係ヲ有スルモノ  
 ニシテ熊、狗、象等ノ如キ智力ニ富ム者ハ本能ニ乏シク蜂、蟻、  
 蜘蛛等ノ如キ本能ニ長スル者ハ智力少シ然ルニ輭體類以  
 下ノ劣等動物ニ至テハ智力モ本能モ共ニ欠乏シテ僅ニ反  
 應作用ノ生活ヲ有スルノミ

(ロ) ペイン(Pain)——「本能(Instinct)トハ示教ニ出テサル能力  
 ナリ即チ實驗若クハ教育ニ先ツテ生スル所ノ能力ニ命名

シタルモノニシテ幼兒ノ吸乳スルヲ、憤ノ初生後四時間ヲ  
經テ能ク歩行スルヲ、雛ノ卵殻ヲ出ツルヤ否直ニ食物ヲ鑑  
啄スルヲ、其他諸動物ガ其仔兒ヲ愛護スルヲ、等ノ如キ是レ  
ナリ本能ハ實ニ心意ノ三大區分ナル智情意ニ聯申シテ之  
ガ基本タルヘキモノナリ而シテ特ニ本能ノ關係ヲ有スル  
モノハ

- (1) 反。應。的。作。用。(Reflex Action)
  - (2) 結。合。的。運。動。(Combined Movement)
  - (3) 感。情。ノ。初。發。(Primitive Manifestations of Feeling)
  - (4) 執。意。ノ。萌。生。(Germs of Volition)
- ノ四項ナリ | (1) 反。應。的。作。用トハ消化、呼吸、咳嗽、噴嚏、瞬膜、等

ノ如キ無意識的作用ナリ | (2) 結。合。的。運。動トハ四肢ヲ運動  
スルニ方テ屈伸運動、左右交動、及ヒ左右齊動ノ三態ヲ生ス  
ルモノナリ各肢ノ屈伸運動ハ人畜ノ共ニ具有スル所ナレ  
由左右交動ハ人類ノ專有スル所ニシテ左右齊動ハ畜類ノ  
獨占スル所ナリ | (3) 感。情。ノ。初。發トハ必ス身體ニ伴フモノ  
ニシテ之ヲ分テ局。部。運。動ト機。官。變。動トノ二種トス而シテ  
局。部。運。動中最モ特著ナル者ハ顔面運動ニシテ聲帶、肺臟、等  
之ニ亞ク顔面ハ實ニ心意ノ索引ナリ機。官。變。動トハ感情ノ  
發現ニ由リテ身體ノ機。官。ニ及ホス所ノ影響ニシテ淚腺、生  
殖機、消化機、皮膚、心臟、乳腺、等ノ如キ特ニ赫著ナルモノナ  
リ | (4) 執。意。ノ。萌。生トハ意志ノ初メテ發動スル狀態ニシテ



食物ノ目前ニ在ルヲ見テ手ヲ出ス等ノ如キ是レナリ云々」  
 (ハ) モーヅレー (Maudsley) 『本能 (Instinct) ナルモノハ元ト遺  
 傳ノ作用ヲ有スルコト必然ナリ蟻ハ蟻ノ本能ヲ遺傳シ熊ハ  
 熊ノ本能ヲ遺傳スダーウインノ言ヘル如ク本能ノ確乎不變  
 ニシテ其遺傳ノ必然ナルコトハ動物ノ常習ヲ一變スルモ  
 猶ホ依然トシテ其痕迹ヲ留ムルヲ見テ知ル可キナリ豕仔  
 ハ驚怖スルキ自ラ蹲踞シテ避匿セント欲シ鷄雛ハ母鷄ノ  
 警號ヲ聞テ走り去リ犬兒ノ餘食ヲ埋匿シ羊仔ノ丘上ニ群  
 躍スルガ如キ以テ証ス可シ是ニ由テ之ヲ觀レハ本能ハ遺  
 傳 (Heredity) 漸化 (Variation) トノ二途ニ出ツルモノニシテ狗  
 ノ哮ル (To Howl) ハ狼ノ本性ヲ遺傳シタル固有の本能 (Origin-

al Instinct) ニシテ其吠ル (To Bark) ハ外界ノ境遇ニヨリテ漸化  
 ヲ受ケタル收得の本能 (Acquired Instinct) ナリ而シテ複雜的  
 本能ノ基本タル簡單の本能ハ本來何ニ由テ生シタルヤヲ  
 問フ者アラハ吾輩ハ是レ必ス反應的作用ノ複雜ナル者ニ  
 出テタリト答ヘサル可カラヌ又々當初實驗若クハ教育ニ  
 由リテ收得シタル累代ノ智力的作用ハ歲月ノ久シキヲ經  
 テ終ニ一種ノ本能ト爲リテ之ヲ遺傳スルコトアリレオロイ  
 ノ説ニ從ヘハ獵害ニ遭フ地方ノ狐兒ハ獵害ニ遭ハサル地  
 方ノ老狐ヨリモ鋭敏ニシテ能ク危險ヲ未然ニ察スト云フ  
 キユヅー日夕絶海ノ孤島ニ生レテ曾テ人影ニ接シタルコ  
 ナキ鳥類ハ毫モ入ヲ恐レスト雖モ漸ク其慘害ヲ受クルニ

從<sup>レ</sup>終<sup>ニ</sup>遁避<sup>ノ</sup>本能<sup>ヲ</sup>生<sup>スル</sup>ニ至<sup>ル</sup>「トダーウ」曰ク大鳥ノ小鳥ヨリモ遁避<sup>ノ</sup>本能<sup>ニ</sup>富<sup>ム</sup>所以<sup>ノ</sup>モノハ大鳥ハ小鳥ヨリモ危難<sup>ニ</sup>遭遇<sup>スル</sup>「ト最<sup>モ</sup>頻繁<sup>ナル</sup>ヲ以<sup>テ</sup>ナリ且ツ小鳥中<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>モ知<sup>更</sup>雀<sup>ノ</sup>人<sup>ヲ</sup>恐<sup>レ</sup>サルハ兒童<sup>ノ</sup>之<sup>ヲ</sup>殺<sup>ス</sup>ヲ以<sup>テ</sup>天意<sup>ニ</sup>違背<sup>スル</sup>一罪科<sup>ト</sup>爲<sup>ス</sup>ノ致<sup>ス</sup>所<sup>ナリ</sup>」ト是等ノ諸說<sup>ニ</sup>就<sup>テ</sup>考察<sup>スル</sup>ルキハ智力的<sup>作用</sup>ノ一變<sup>シテ</sup>本能<sup>ヲ</sup>形<sup>成</sup>スルニ至<sup>ル</sup>「トナキニアラサルヲ知<sup>ル</sup>可<sup>シ</sup>云々」

(ニ) フレーミング(Fleming)「本能(Instinct)トハ動物<sup>ガ</sup>初<sup>メ</sup>テ事物<sup>ニ</sup>接<sup>スル</sup>ニ方<sup>リ</sup>未<sup>ダ</sup>一<sup>回</sup>ハ示<sup>教</sup>ヲモ受<sup>ケ</sup>スシテ能ク方便<sup>ヲ</sup>シテ目的<sup>ニ</sup>適合<sup>セ</sup>シムルハ恰<sup>モ</sup>數<sup>回</sup>ハ實習<sup>ヲ</sup>經タルト同一<sup>ハ</sup>結果<sup>ヲ</sup>呈<sup>スル</sup>行<sup>爲</sup>ナリ雖<sup>モ</sup>能ク走<sup>リ</sup>鳥<sup>ノ</sup>能

ク巢<sup>フ</sup>ガ如<sup>キ</sup>以<sup>テ</sup>証<sup>ス</sup>可<sup>シ</sup>惟<sup>フ</sup>ニ特殊<sup>的</sup>本能(Specified Instinct)ノ勢力<sup>ハ</sup>累世<sup>遺傳</sup>スルモノニシテ苟<sup>モ</sup>境遇<sup>ノ</sup>宜<sup>シ</sup>キヲ得<sup>ル</sup>ルキハ益<sup>ソ</sup>ノ烈<sup>度</sup>ヲ加<sup>ヘテ</sup>之<sup>ガ</sup>特殊<sup>ノ</sup>適合<sup>ヲ</sup>完全<sup>ナ</sup>ラシムヘシ凡<sup>ソ</sup>家畜<sup>ノ</sup>類<sup>ハ</sup>本<sup>來</sup>野生<sup>ニ</sup>屬<sup>ス</sup>ト雖<sup>モ</sup>一<sup>度</sup>特殊<sup>ノ</sup>目的<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>之<sup>ヲ</sup>馴<sup>養</sup>スルキハ其<sup>裔</sup>族<sup>ハ</sup>必<sup>ス</sup>一<sup>種</sup>ノ特殊<sup>的</sup>本能<sup>ヲ</sup>遺傳<sup>シ</sup>來<sup>ル</sup>幼稚<sup>ナル</sup>獵犬<sup>ガ</sup>初<sup>メ</sup>テ狩獵<sup>ニ</sup>從<sup>ヒ</sup>タルキ能ク鳥獸<sup>ノ</sup>所在<sup>ヲ</sup>知<sup>リ</sup>生<sup>レテ</sup>未<sup>タ</sup>數<sup>日</sup>ヲ經<sup>サル</sup>門犬<sup>ガ</sup>指示<sup>ヲ</sup>受<sup>ケ</sup>スシテ能ク初見<sup>ノ</sup>客<sup>ヲ</sup>吠<sup>ユル</sup>ガ如<sup>キ</sup>皆<sup>テ</sup>是<sup>レ</sup>固定<sup>セル</sup>常習<sup>ノ</sup>遺傳<sup>ニ</sup>出<sup>ツル</sup>モノニシテ皮相上<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>固有<sup>的</sup>本能(Original Instinct)ノ性狀<sup>ヲ</sup>有<sup>スル</sup>者<sup>ト</sup>雖<sup>モ</sup>其實<sup>ニ</sup>至<sup>テ</sup>ハ累代<sup>ノ</sup>實驗<sup>ヲ</sup>堆積<sup>シタル</sup>結果<sup>ニ</sup>外<sup>ナラ</sup>サルノミ」

(ホ) デューイ (Dewey) 『本能 (Instinct)』トハ各自チシテ其將ニ達セント欲スル目的ノ何タルヲ知ラサルモ能ク之ヲ達スヘキ適當ノ方便ヲ撰拔スルヲ得セシメ以テ自ラ心性ノ奮昂ヲ感知スル作用ナリ或ハ本能ト受感的奮昂 (Sensuous Impulse) トヲ區別スル者アリ受感的奮昂トハ單ニ反動ヨリ生スル復發作用ナレモ本能ハ新態ノ活動ヲ有シテ間接ノ結果ヲ生スルモノナリ之ヲ例セバ鳥類ノ巢ヲ造ルガ如キ是レナリ斯クノ如キハ直接ノ刺激ニ應シテ長ク前途ノ目的ヲ達セント欲スルモノナリ今夫レ本能ノ起原本性及ヒ機能ヲ論究セント欲セハ勢ヒ必ス比較的心理學 (Comparative Psychology) ノ範圍ニ侵入セサルヲ得ズ因テ吾輩ハ茲ニ人類

ノ特有ニ係ル本能ノ大要ヲ略述スヘシ人類ハ自ラ其目的ノ何タルヲ知ラス又々其方便ヲ用ウルノ何故ナルヤヲ知ル能ハサルモ能ク其行爲ノ其目的ニ適合スルモノアリ吾人ガ智徳及ヒ審美上ノ作用ニ於テ自ラ其目的ヲ認識セサルモ未タ實驗ヲ累積セシテ能ク成就スルヲアルガ如キハ實ニ本能ノ人心ニ存住セル確證ナリ就中幼兒ノ食物ヲ把リ行動ヲ知ルガ如キ其著明ナルモノナリ之ヲ總稱シテ表出的本能 (Instinct of Expression) ト曰フ其感情及ヒ觀念ヲ表出スルノ作用アルヲ以テ心理上研究ノ價值アルモノナリ蓋シ意志ナク又々自識ナクシテ能ク内部ノ心狀ヲ表明ス可キ行動ナルハナリ若テ叫ビ喜テ笑ヒ恐レテ戰キ恥チテ

報ミ愕テ瞬ムル等ノ如キ是レナリ是等ノ行爲ニハ二種ノ  
要點アリテ第一ニハ個人ヲシテ結團セシムベキ本能的基  
本ヲ形成シ第二ニハ高等ナル達意傳思ノ方法ヲ形成スベ  
キ材料ヲ供給ス而シテ其第一種ノ效用ハ幼兒ノ泣叫シテ  
母ノ之ニ即應スルガ如キ啻ニ其感動ヲ發射スルノミナラ  
ス他人ヲシテ之ニ應スベキ行爲アルニ至ラシムルノ事例  
ヲ以テ之ヲ證ス可キナリ』

(ヘウリアム・ジームス(William James) 『本能(Instinct)トハ  
目的ニ關シテ先見ナク又々行爲ニ就テ豫教ヲキモ能ク一  
定ノ目的ヲ達スベキ能力ナリ是レ體機ノ構成上ヨリ生ス  
ル結果ニシテ要スルニ一種ノ反應的状態ヲ有スルモノナ

リ即チ外物ノ身體ヲ刺激スルニ起因スルモノニシテ猫ノ  
鼠ヲ追ヒ犬ヲ避ケ墜落ヲ免レ水火ヲ恐ル、等ノ如キ固ヨ  
リ自ラ生死ノ觀念アリ自衛ノ思想アルノ致ス所ニアラサ  
ルナリ唯自ラ禁スル能ハズシテ茲ニ至ルモノニシテ鼠ノ  
走ルヲ見テ自ラ之ヲ追ヒ犬ノ吠ユルヲ聞テ自ラ退避シ水  
ニ臨テ自ラ踐巡シ火ニ接シテ自ラ其面ヲ背ケルノミ之ヲ  
換言スレバ其神經系ヨリ生スル反動ノ結果タルヲ免レス  
古ノ本能ヲ論スル者皆之ヲ以テ天賦ニ出ツル動物固有ハ  
妙カト爲シ只是レ造化ノ至仁ヲ説テ已マス笑フ可キノ甚  
シキナリ造化ノ動物ニ賦スルニ神經系ヲ以テシ本能ノ之  
ニ因テ發現スルニ至リタルハ稍以テ奇ト爲スニ足ルモ畢